

2017年度 自動車リサイクルの高度化等に資する
調査・研究・実証等に係る助成事業
事業名：全国の地域リーダーと共に実施する
体験型普及啓発のための研修

報告書

2018年6月

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット

担当者連絡先

担当者名：鬼沢良子

部門：事務局

電話番号：03-6300-5157

メールアドレス：YFA57682@nifty.com

はじめに

現在、第四次循環型社会形成推進基本計画の策定が、中央環境審議会循環型社会部会で進んでいる。その中で、気候変動、天然資源の枯渇の危機、生物多様性の喪失など地球規模の環境課題を見据えながら、経済的側面、社会的側面との統合を含めた「持続可能な社会づくりとの統合的取り組み」の重要性を謳っている。

具体的に我が国の目指すべき将来像として、「地域循環共生圏による地域活性化」や「ライフサイクル全体での資源循環の徹底」などをあげ、その担い手として各主体の役割と連携した取り組みへの期待を示し、特にNPO・NGOには「各主体による循環型社会形成に関する理解や活動を促進すると共に、連携協働のつなぎ手となることを期待する」としている。

私どもNPO法人も、持続可能な地域・社会づくりを目指して3Rやまちづくりを推進する全国のキーパーソンとネットワークする中で、これまで、各種リサイクル法の一層円滑な実施に向けた事業者と市民の「連携協働のつなぎ手」になるべく取り組んできた。

今回の、第四次循環型社会形成推進基本計画の方向性に強く勇気を得ると共に、今後も真摯に事業を推進していく所存である。

このような思いで、貴公益財団法人の助成事業に応募し「全国の地域リーダーと共に実施する体験型普及啓発のための研修」事業に取り組んでいる。

この事業は、各地ですでに3R活動等を行うなど、地域リーダーとして地域社会や地方公共団体で信頼を得ているキーパーソンを対象にした研修であり、次年度にはこの方々と共に全国2カ所で体験型普及啓発の実施をめざしている。今年度の研修に参加した方々が、今後の各地域での自動車リサイクル普及啓発活動を主体的に担うことを期待した、基礎固めとその後の発展に向けた研修である。

詳細は後述するが、結果的に、このような人材にとっても「自動車リサイクル」は遠い存在だという事が浮き彫りになった。しかし、だからこそ、このような方々への研修と、今後予定する地域での体験型普及啓発の実施の重要性が高まったと考えている。

目次

1. 助成事業の計画	1
1.1 本事業を実施するに至った背景	1
1.2 助成事業概要・事業の位置付け	2
1.2.1 助成事業概要	2
1.2.2 事業の位置づけ	4
1.2.3 実施体制	4
2. 事業報告	5
2.1 実施手法	5
2.2 実施結果	5
2.2.1 見学と学習会の実施	6
(1)実施目的	6
(2)実施概要	6
(3)タイムスケジュール・2/19 当日の写真	7
(4)配布資料	8
(5)役割分担	13
(6)環境省による情報提供	13
(7)情報提供に対する質疑と分析	16
(8)メタルリサイクル㈱の会社紹介ビデオ放映	16
(9)見学と学習会についての質疑と分析	16
(10) アンケート回答概要と分析	19
(11) 見学と学習会の考察	21
2.2.2 パンフレット付小冊子の作成	23
2.2.3 地域リーダー20名程度に参加依頼	26
2.2.4 今後の普及啓発ツールやマニュアルの作成準備	27
2.2.5 翌年度施設見学および学習会の準備	27
2.2.6 ホームページへの公開	28
2.2.7 一般向け普及啓発の実施	29
(1)実施目的	29
(2)実施概要	29
(3)実施方法	29
(4)参加者属性	30
(5)アンケート実施中の写真	30
(6)アンケート内容	31
(7)アンケート結果（台紙）	32
(8)アンケート集計表（台紙）	33
(9)アンケート結果まとめ	34
(10)一般向け普及啓発に関する分析	37
(11)一般向け普及啓発に関する考察	38

2.3	本年度実施結果に関する考察	39
2.3.1	普及啓発を主体的に担える属性	39
2.3.2	自動車リサイクル制度の理解促進に効果的な実施内容・啓発ツール (地域リーダー向け)	40
2.3.3	自動車リサイクル制度の理解促進に効果的な実施内容・啓発ツール (一般消費者向け)	40
2.3.4	学習会／研修会参加者が普及啓発活動を主体的に担うようにするために 行うべきこと	41
2.3.5	今後さらに検証が必要なこと	42
3.	今後の事業展開の方向性	43
3.1	今後の方向性、実施スケジュール	
3.1.1	今後の方向性	43
	(1)継続的な学習会の開催	43
	(2)学習会実施方法の工夫	43
	(3)学習会向け資料の工夫	43
	(4)普及啓発用マニュアルの作成	44
3.1.2	実施スケジュール	45
3.2	想定する事業内容	45
3.2.1	2地域における体験型学習会の開催	45
3.2.2	今後の普及啓発におけるツールやマニュアルの作成	46
3.3	事業の実施体制	47

【添付資料】

- 資料 1 2/19 見学と学習会配布資料
- 1-① 次第
 - 1-② 参加者名簿（非公表）
 - 1-③ 環境省 P P T 資料、預託証明書（リサイクル券）
 - 1-④ 公益財団法人自動車リサイクル促進センター（J A R C）冊子
（使い終わっても 99%が資源に。）
 - 1-⑤ パンフレット付小冊子
（そうだったのか！自動車リサイクル）（本事業で作成）
 - 1-⑥ マルチステークホルダー会議（自動車）報告書
（元気ネット作成）
 - 1-⑦ アンケート用紙（後日、F A X、メールで回収）
 - 1-⑧ メタルリサイクル(株)会社概要等
- 資料 2 2/19 Q & A 全文
- 資料 3 2/19 アンケート全文
- 資料 4 6/2～3 一般向け普及啓発
- 4-1 アンケート結果（台紙）
 - 4-2 アンケート集計表（台紙）

1. 助成事業の計画

1.1 本事業を実施するに至った背景

自動車リサイクル法は、平成 17 年 1 月から完全施行された。平成 28 年度で約 300 万台がリサイクルされ、大きな実績を上げ、法制定当初の目的であった不法投棄等の未然防止・ASR等の最終処分量の減少も進み素晴らしい成果を上げているが、使用者にはそのことがあまり知られていない。

日本の自動車リサイクル制度は、リサイクルシステムがうまく機能しており、ジャパンモデルと言われて内外で高い評価を得ている。現在、特定再資源化預託金の有効な活用が検討されており、2022 年に予定されているリサイクル料金の割引制度を円滑に進める上でも、特定再資源化預託金の使い方等についてユーザーの理解を得ることが制度や関係業界への信頼にとって重要である。そのためには、広く自動車リサイクル制度の有効性の認知度向上が必要であると考えます。

ライフスタイルの変化もあり、近年では、東京 23 区内にはカーシェアリングの拠点が増え、車を利用している人でも自動車リサイクルに直接関与しないケースも生じている。特に若い世代のカーシェアリングが増え、自動車リサイクル制度を知る機会はますます減ることが予想される。

現在課題と認識していることは、NPOや市民団体で、自動車リサイクル制度の普及啓発に取り組んでいるところが残念ながら皆無である点である。

そのことが、自動車リサイクル制度の理解や周知に至らない大きな要因となっている。

そこで、本事業では、元気ネットが地域から信頼されているNPOや市民団体等とこれまで育んできた連携・協働関係を活かして、自動車リサイクル制度を正しく理解し、地域のさまざまな機会を利用して自動車リサイクルに関して発信することができる人材の育成を行っていく。

1.2 助成事業概要・事業の位置付け

1.2.1 助成事業概要

現在、特定再資源化預託金の有効な活用が検討されており、2022年に予定されているリサイクル料金の割引制度を円滑に進める上でも、特定再資源化預託金の使い方等についてユーザーの理解を得ることが制度や関係業界への信頼にとって重要である。そのためには、広く自動車リサイクル制度の有効性の認知度向上が必要である。

本事業の目的は、自動車リサイクル制度の理解や周知を図るため、元気ネットが地域から信頼されているNPOや市民団体等とこれまで育んできた連携・協働関係を活かして、自動車リサイクル制度を正しく理解し、地域のさまざまな機会を利用して自動車リサイクルに関して発信することができる人材の育成を行っていくことである。

地域環境活動のリーダーが、自動車リサイクル制度を体験的に学ぶ機会提供を29年度と30年度にわたり実施し、地域での普及啓発の場で自動車リサイクルに関して発信できる人材を増やす。

【29年度】

作業項目	12月	1月	2月	3月	4月	5～6月	備考
①リサイクル施設の見学会と学習会の実施			●				2/19
②普及啓発用パンフレット小冊子作成	←→						
③リサイクル施設見学の参加呼びかけ	←→						20名程度
④学習会での意見とりまとめ				←→			普及啓発のための素材
⑤翌年度地域開催見学・学習会の準備				←→			
⑥見学と学習会の情報発信				←→			HPにて
⑦一般向け普及啓発						●	6/2-3 エコライフフェア

- ① 29年度は全国各地の地域環境活動リーダー20名程度を対象に、2月に関東において自動車リサイクル施設の見学と学習会を実施する。
- ② 学習会と今後の普及啓発の場で利用できる、自動車リサイクル制度の概要等を掲載したパンフレット付小冊子を作成する。(A5版20ページ程度、最初と最後に関連情報を載せ、中ページにメモができるようにして、廃棄されない工夫をする)
- ③ 施設見学の日程が確定したら、地域で環境活動を実施していて、今後普及啓発を実践できる全国各地の地域リーダー20名程度に参加依頼する。
- ④ 見学と学習会で出た質問や意見から何をどのように伝えるかの素材として、今後の普及啓発に必要なツールやマニュアルの作成準備をする。
- ⑤ 翌年度(30年度)に地域で自動車リサイクル施設の見学と学習会を実施する2地域(北九州と中部地域を予定)の準備を始める。この際、近隣にある他のリサイクル施設も可能であれば含め、地域ごとに参加者を20名程度募集する。
- ⑥ 今年度実施した自動車リサイクル施設の見学と学習会の様子を当NPOのホームページで発信する。
- ⑦ これまで3Rの普及啓発を実施していたエコライフフェアにブース出展し、来場者にアンケート形式で自動車リサイクルの周知活動を実施する。

【30年度】

- ⑧ 自動車リサイクル施設の見学と地域開催の学習会打ち合わせ
- ⑨ 地域で周知活動をする際のツールやマニュアル、クイズ形式の問題等の検討
- ⑩ 地域開催学習会(2地域)の参加者募集と実施(学習会は6~9月頃を予定)
- ⑪ 新宿西口イベント広場等、これまで3Rの普及啓発を実施していた場所でブース出展し、来場者にアンケートやクイズ形式で自動車リサイクルの周知活動を実施する。この時、29年度の自動車リサイクル施設見学に参加した首都圏の方にも参加要請し、一緒に行くことで自動車リサイクルに関する理解の深まりと普及啓発の経験を積んでもらう。
- ⑫ 30年度事業についても、当NPOのホームページと講座等を活用して発信する。
- ⑬ できたツールやマニュアルを参加者に届け、地域での情報発信で活用してもらう。
- ⑭ 当NPOのホームページにツールやマニュアルをアップし、誰でも利用できるようにする。

1.2.2 事業の位置付け

日本の自動車リサイクル制度は、リサイクルシステムがうまく機能しており、ジャパンモデルと言われているが、2017年度末時点で特定再資源化預託金が167億円あり、その有効な活用が検討されている。その活用のひとつである、2022年に予定されているリサイクル料金の割引制度を円滑に進める上でも、特定再資源化預託金の使い方等について、ユーザーの理解を得ることが制度や関係業界への信頼につながり重要であると言える。これは結果的に、自動車由来の再生プラスチックの利用と市場拡大にもつながると思われる。そのためにも、広く自動車リサイクル制度の認知度向上と有効性等の理解が必要である。

そこで、本事業では、元気ネットが地域から信頼されているNPOや市民団体等とこれまで育んできた連携・協働関係を活かして、自動車リサイクル制度を正しく理解し、地域のさまざまな機会を利用して自動車リサイクルに関して発信することができる人材の育成を行っていくものである。

1.2.3 実施体制

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネットが、一貫して企画から実行までを行う。当NPOでは、発足当時から廃棄物をテーマに活動をして来た中で、近年は地域で普及啓発を担う人材の育成に注力してきた。2011年からは、容器包装の3R人材育成事業（市町村と連携した3R普及啓発～自治体担当者と地域に根ざした推進員の情報更新に向けて～）を事業者団体の受託事業として7年間継続実施している。

また、家電リサイクルの普及啓発事業（一般財団法人家電製品協会）も昨年度から行っており、その経験が豊富な以下のメンバーで実施する。

なお、2001年から2012年まで、環境活動で地域を活性化するロールモデルを表彰する「市民が創る環境のまち”元気大賞”」を実施し、2007年からは、資源エネルギー庁の高レベル放射性廃棄物の処分に関する理解促進・支援事業を継続実施し、「地域の学び合いワークショップ」を全国各地で9年間に100回実施するなど、地域活動団体や個人とのネットワークを広く有している。

事業総括：崎田裕子（理事長）（活動歴24年）

事業責任者（進捗管理）：鬼沢良子（事務局長）（活動歴24年）

副責任者：足立夏子（副事務局長）（活動歴9年）

経理担当：磯田都美子（活動歴4年）

事務局：小川友香・釜山恵利子（活動歴3年）

2. 事業報告

2.1 実施手法

これまでのNPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット（以下、元気ネット）のネットワークを活かし、地域で信頼されている全国各地のNPOや消費者に参加を呼びかけ、自動車リサイクルの学習会&解体工場見学会を実施した。

また、当日の配布資料として、今後の普及啓発の場でも利用できる、自動車リサイクル制度の概要等を掲載したパンフレット付小冊子を作成した。A5版24ページ、最初と最後に関連情報を載せ、中ページにメモができるようにして、廃棄されない工夫をした。関連情報は、自動車リサイクル促進センターの2017年7月現在のデータとホームページを基に作成し、関連組織に確認もいただいた。

特に現在特定再資源化預託金の有効な活用が検討されており、2022年に予定されているリサイクル料金の割引制度を円滑に進める上でも、ユーザーが納得する特定再資源化預託金の使い方を探り、自動車リサイクル制度の有効性の認知度向上が必要であるとの認識から、一般消費者にはあまり知られていない特定再資源化預託金に関する情報を掲載した。

なお、ノート部分には、大切と思う「こだわりミニ情報」を吹き出しで記載するなど、必ず読んでもらえる工夫をした。

一般向け普及啓発として、6月に代々木公園で開催されたエコライフフェア（主催：環境省）のNPO・NGOゾーンの3R推進活動フォーラムのブースにおいて、アンケート形式による情報提供を行った。

2.2 実施結果

- ① 全国各地の地域環境活動リーダー20名を対象に、2月19日に埼玉において自動車リサイクル施設の見学と学習会を実施した。（詳細は2.2.1～2.2.1-11に記載）
- ② 学習会と今後の普及啓発の場で利用できる、自動車リサイクル制度の概要等を掲載したパンフレット付小冊子を作成した。（A5版24ページ、最初と最後に関連情報を載せ、中ページにメモができるようにして、廃棄されない工夫をした）
- ③ 12月17日から地域で環境活動を実施していて、今後普及啓発を実践できる全国各地の地域リーダー22名に開催案内をして参加を募った。
結果的に日程の都合が悪い2名以外からすぐに参加申し込みがあった。
- ④ 見学と学習会で出た質問や意見、アンケートから何をどのように伝えるかの素材として、今後の普及啓発に必要なツールやマニュアルの作成準備をしている。
- ⑤ 翌年度（30年度）に地域で自動車リサイクル施設の見学と学習会を実施する2地域の準備を始め開催地を決定し、今年度の参加者へ地域事務局を依頼した。この際、近隣にある他のリサイクル施設も可能であれば含め、地域ごとに参加者を20名程度募集するための打ち合わせを地域事務局担当者とした。
- ⑥ 今年度実施した自動車リサイクル施設の見学と学習会、一般向け普及啓発の様子を当NPOのホームページで発信している。

http://www.genki-net.jp/3r_report/automobile/

- ⑦ 一般向け普及啓発として、6月2-3日に代々木公園で開催されたエコライフフェア（主催：環境省）3Rコーナーのブースにおいて、アンケート形式による情報提供を行った。

2.2.1 見学と学習会の実施

(1)実施目的

見学と学習会は、自動車リサイクル制度について理解を深め、地域で普及啓発活動を担うことのできる人材を育成すると同時に、全国で自動車リサイクル制度について発信することのできる人材をどのように育成し、更にはどのような機会を活用して当該制度を発信していくのが効果的かを検討するための材料を収集することを目的とする。

(2)実施概要

①連携のある団体及び個人に案内

参加者については、これまでの元気ネットの事業活動において連携のある方や団体に12月17日から22名に案内をした。

②案内した団体、個人の自動車リサイクルに関する活動状況

案内した団体、個人の自動車リサイクルに関する活動状況については、事前に確認は行わなかったが、参加申し込みの際に、「自動車リサイクルについては、良く知らないからいい機会」という趣旨のコメント付きの方がほとんどだったことから、自動車リサイクルに関しては活動経験がほとんどないことが推察された。

③20名が申し込み、参加

日程の都合が合わない方2名を除き、20名から参加申し込みがあり、1月6日には定員に達した。

④申込者の属性、元気ネットとの連携

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・2001年から12年間実施 「市民がつくる環境のまち元気大賞」入賞団体・2007年から10年間実施 「放射性廃棄物の地層処分に関する地域ワークショップ」の地域ファシリテーター・2009年から4年間事務局を担当「アジア3R市民ネットワーク」参加団体・2011年から現在実施中 「3R市民リーダー育成事業」3R市民リーダー・2013年から4年間実施 「マルチステークホルダー会議」参加者等・2013年から現在実施中 「古紙リサイクル資源化」事業の地域リーダー |
|---|

以上のように、参加者の属性は、それぞれ地域で長年にわたり有機農業、リユースショップ運営、クリーンアップ、ファイバーリサイクル、廃棄物、エネルギー、消費者問題などのNPOや団体の運営に関わっている責任者等である。また、普及啓発の経験が豊富な方等、発信力があり知的好奇心が強く、新しい情報取得意欲の高い方々で、各自の経験や発言内容からもお互いに学び合えることが期待できる人材が集まった。

(3) タイムスケジュール

日時：平成30年2月19日（月）10：30～16：00

集合：東武東上線 川越駅 西口 10：20

会場：メタルリサイクル株式会社 ELV 事業部（049-297-2111）

10：20 川越駅西口集合

10：30 川越駅出発 バス移動

11：05 到着・挨拶 メタルリサイクル(株)代表取締役社長 猪鼻秀希氏
・自己紹介（参加者20名・環境省河田氏・元気ネット3名）
・配布資料説明

11：25 昼食（飛行機の都合で到着遅れが2名いたため、情報提供を遅らせた）

12：00 自動車リサイクル法について情報提供（環境省）

12：45 ビデオ放映（約15分）及びプラント見学開始（約1時間）

14：15 質疑応答、学習会、意見交換

15：30 終了 バス移動（バスの中で全員から感想）

16：00 川越駅解散

2/19 当日の写真



メタルリサイクル（株）猪鼻氏 挨拶



施設見学前の集合写真



見学中



リユース・リビルト部品保管場所



見学中



環境省 河田氏の情報提供

(4) 配布資料

学習会で配布した資料と各資料の説明内容は以下の通り。

- ① 次第
- ② 参加者名簿
- ③ 環境省 PPT 資料、預託証明書（リサイクル券）
- ④ 公益財団法人自動車リサイクル促進センター（以下、JARC）冊子
（使い終わっても 99% が資源に。）
- ⑤ パンフレット付小冊子（そうだったのか！自動車リサイクル）
（本事業で作成）
- ⑥ マルチステークホルダー会議（自動車）報告書（元気ネット作成）
- ⑦ アンケート用紙（後日、FAX、メールで回収）
- ⑧ メタルリサイクル(株)会社概要等

① 次第

**自動車リサイクルの学習会&解体工場見学会
次 第**

自動車リサイクルに関する最新情報やリサイクル料金・特預金の使われ方等を
知っていただき、めったに機会のないリサイクルの現場を体験していただきま
す。そして、今後の普及啓発に関し全国の地域リーダーの皆さまにご意見を伺
うための意見交換会です。

日 時：2018年2月19日（月）10:30～16:00
参 加 者：別紙名簿
プログラム：開会 趣旨説明
挨拶 メタルリサイクル(株)代表取締役社長 猪鼻 秀希 氏
自己紹介 1分×21名

1. 自動車リサイクルの資源化実績と現状報告
環境省 環境再生・資源循環局 総務課
リサイクル推進室 河田 悠 氏

昼食

2. メタルリサイクル株式会社概要説明（ビデオ）
3. 工場見学
4. 普及啓発に関する意見交換会 等

終 了：15時30分 バスで移動
解 散：東武東上線川越駅 16時頃の予定

本事業は、公益財団法人自動車リサイクル高度化財団の普及啓発事業に採択
され実施するものです。<https://i-far.or.jp/public/>

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット

②参加名簿：(配布名簿)

※五十音順敬称略

No.	人数	所属	地域
1	1名	NPO 法人富士山クラブ	山梨
2	1名	NACS 消費生活研究所・愛知環境カウンセラー協会	愛知
3	1名	中央区環境保全ネットワーク	東京
4	1名	(一財)消費科学センター	東京
5	1名	元短大教師	福岡
6	1名	科学技術コミュニケーション研究所	福岡
7	1名	柏ダンボールコンポスト研究会	千葉
8	1名	印西地区ごみ減量推進連絡会	千葉
9	1名	NPO 地域づくり工房	長野
10	1名	NPO 法人日本ファイバーリサイクル推進協会	千葉
11	1名	特定非営利活動法人 e-pluss生涯学習研究所	岐阜
12	1名	NPO 生活工房つばさ・游	埼玉
13	1名	全国川ごみネットワーク	千葉
14	1名	(一社)地域環境資源センター	神奈川
15	1名	次世代のためにがんばろ会	熊本
16	1名	NPO 法人 WE21 ジャパン	神奈川
17	1名	次世代のためにがんばろ会	熊本
18	1名	NPO法人 WE21 ジャパン	神奈川
19	1名	(一財)四日市大学エネルギー環境教育研究会	三重
20	1名	特定非営利活動法人 愛知環境カウンセラー協会	愛知
21	1名	環境省 環境再生・資源循環局 総務課 リサイクル推進室	
22	3名	NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット	

③環境省 P P T資料、預託証明書 (リサイクル券)

P 14-15 情報提供に記載

④ J A R C 冊子

P 14-15 情報提供に記載

⑤パンフレット付小冊子（そうだったのか！自動車リサイクル）

元気ネット作成のパンフレット付小冊子（A5ノート）については、作成の意図と特に知ってほしいポイントについて以下の通り簡単な解説を行った。

作成にあたっての工夫や具体的な内容は、「2.2.2 パンフレット付小冊子（そうだったのか！自動車リサイクル）の作成」の項に記載。

表紙

裏表紙

記載内容と説明内容



- ・表紙：犬のイラストにより親しみやすさを表現。
- ・裏表紙：日本ELVリサイクル機構の都道府県別会員事業者数一覧を記載。
- ・全国にディーラー以外にも廃車の引き取り施設が数多くあることを知っていただくねらい。

表紙の内側



- ・自動車リサイクルの流れとリサイクル料金により処理される3品目とその料金の内訳。
- ・リサイクル部品（リユース・リビルト）についての情報と環境面のメリット。

裏表紙の内側



- ・左上：廃車の際の処理の流れ。
- ・左下：預託金のお金の流れと直近の資産合計金額。
- ・右上：特定再資源化預託金（特預金）についての説明。
- ・右中：特預金の使われ方とそのグラフ。
- ・右下：関連組織の紹介。

⑧メタルリサイクル(株)会社概要等



(5) 役割分担

総合ファシリテーターは鬼沢、サブファシリテーター・記録を足立、会計・庶務を磯田が担当し実施した。

(6) 環境省による情報提供

資料は以下のパワーポイント、及びJARC冊子
(使い終わっても99%が資源に。)

河田氏はPPT資料とJARC冊子の特にカラー写真の部分を使用して説明した。説明の途中で参加者が理解できていないと思われる言葉や意味があると思われた都度、鬼沢が補足説明した。

特にELV、ASR、シュレッダーダスト、特定再資源化預託金(特預金)、情報管理・資金管理料金、不適正保管、新冷媒、行政代執行等が聞きなれない言葉で補足説明が必要だった。

また、全員が現物のリサイクル券を見たことがなく、どこに保管されているかも知らなかった。

自動車リサイクル法について

平成30年2月

環境省

環境再生・資源循環局総務課 リサイクル推進室

1

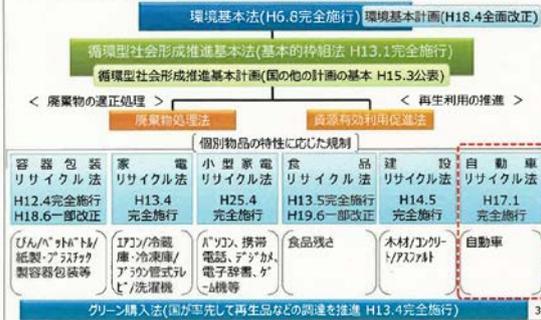
1. 自動車リサイクル法の概要

2. 自動車リサイクル法の施行状況

2

1. 自動車リサイクル法の概要

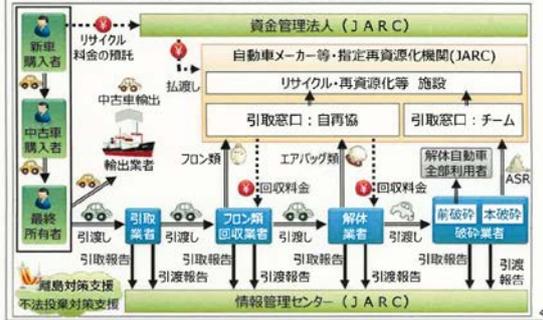
1-2. 自動車リサイクル法と循環型社会を形成するための法体系



3

1. 自動車リサイクル法の概要

1-5. 自動車リサイクル法(平成17年1月1日施行)の概要



4

1. 自動車リサイクル法の概要

1-1. 自動車リサイクル法制定の背景

- 鉄スクラップ相場によって廃車の価値が大きく変動
 - 廃車から回収される鉄スクラップの相場により、廃車の価値が大きく変動し、処理費用が必要となる場合と、処理費用を廃車の価値の中でまかなえる場合が入れ替わる。2000年に入り、逆値問題が拡大。
- 最終処分場の逼迫と不法投棄・不適正処理の発生
 - 国内での最終処分場の逼迫により、埋立コストが上昇、スクラップ市況の低迷も相まって、不法投棄が発生。
 - さらに、地球環境問題、安全確保の観点から、フロン放出の防止、エアバッグの誤処理による事故発生の防止の必要性。廃バッテリー、廃タイヤ、廃油・廃液の適正処理の必要性。
- 廃車を処理する際に遵守すべきルールが不明確
 - 廃車は廃棄物となる可能性があるが、有償なら廃棄物処理法の適用を受けないため、排出業者は廃棄物処理法の適用を受けたり、受けなかったりという歴史がある。

5

1. 自動車リサイクル法の概要

1-1. 自動車リサイクル法制定の背景

参考: 豊島(てしま)事件

1970年代から、不法事業者が香川県豊島に自動車由来のシュレッダーダストをため込む50万トンの産業廃棄物を不法投棄。90年代に問題が顕在化。

現状回復には、約10年、約500億円を要する見込み。これを受け、1996年にシュレッダーダストの処分について規制が強化された。

この結果、処分場が逼迫し、最終処分費用が高騰。不法投棄等が社会的問題に発展した。



6

1. 自動車リサイクル法の概要

2. 自動車リサイクル法の施行状況

7

2. 自動車リサイクル法の施行状況(概要)

(1) 自動車メーカー等による再資源化等の実施状況(H28年度)

➢ 使用済自動車引取台数 310万台(平成27年度:316万台)
※平成23年度に、法施行以降初めて300万台を下回ったが、平成24年度には例年並みに回復

➢ 自動車メーカーの3品目の引取状況

品目	フロン類	エアバッグ類	ASR
引取報告件数	2,701,536	2,373,279	2,813,660

➢ 再資源化状況

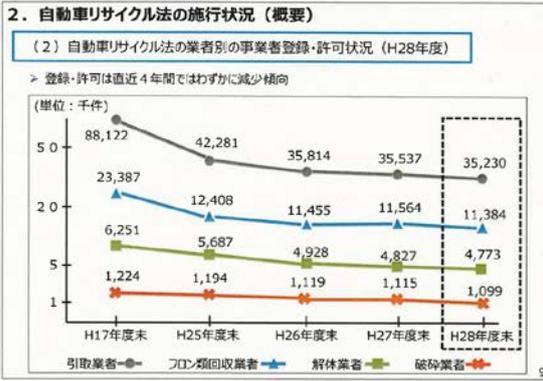
ASR、エアバッグ類のリサイクル率は共に90%以上の水準で推移

● ASRのリサイクル率(平成27年度時点での目標 70%)
法施行時(平成17年度) 61.8% → 平成28年度 97.3~98.7%

● エアバッグ類のリサイクル率(平成27年度時点での目標 85%)
法施行時(平成17年度) 93.4% → 平成28年度 93~94%

当初の目標を大きく上回る形で達成

8



2. 自動車リサイクル法の施行状況 (概要)

(3) リサイクル料金の預託状況

①平成28年度 預託別実績

	新車登録時	引取時	合計
預託台数	5,076,067	60,457	5,136,524
預託金額 (千円)	53,165,484	318,877	53,484,361

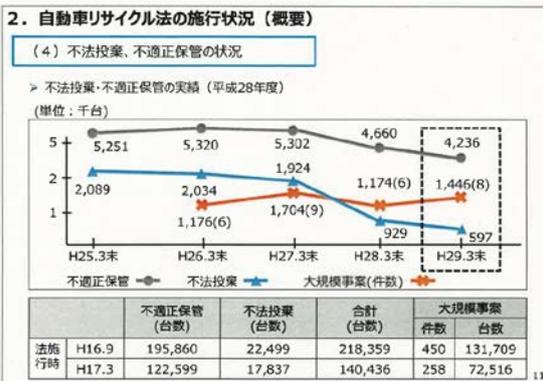
②平成28年度 預託台数及び預託金額残高

預託台数 (台) ※	預託金額残高 (千円)
79,444,732	853,325,252

※ 後付整備は除く

③平成28年度 輸出返還の状況

輸出による返還台数 (台)	預託返還金額 (千円)
1,342,526	16,875,952



2. 自動車リサイクル法の施行状況 (概要)

(4) 不法投棄、不適正保管の状況

> 不法投棄・不適正保管の実績 内訳 (平成28年度)

	2016.3	2017.3				
		100台以上	10台以上	10台未満		
不適正保管 (台)	4,660	指導・対応中	4,072	1,446(8)	2,182(75)	444(137)
		その他	164	0(0)	120(4)	44(24)
		小計	4,236	1,446(8)	2,302(79)	488(161)
不法投棄 (台)	929	指導・対応中	194	-	-	194(135)
		その他	403	-	-	403(251)
		小計	597	-	-	597(386)
合計	5,589	4,833	1,446(8)	2,302(79)	1,085(547)	

※ 括弧内は事業数

2. 自動車リサイクル法の施行状況 (概要)

(5) 離島対策の状況

> 離島対策の実績

- ✓ 平成28年度：85市町村に於ける、21,873台の処理に対し、支援を実施。
- ✓ 平成29年度：81市町村に於ける、24,231台の処理への支援を計画。

※ 離島対策支援事業については、第三者委員会である離島対策等検討会において、事業の業務内容及び効率性について審議を行っている

使い終わっても99%が資源に。

循環型社会を目指した自動車リサイクルの
取組と実績を知る10の質問

公益財団法人自動車リサイクル促進センター
Japan Automobile Recycling Promotion Center

リサイクル券

【A】 預託証明書 (リサイクル券)

リサイクル券番号: XXXX-XXXX-XXXX
 車 種 号: ΔΔΔ-XXXXXXX
 車 台 号: ○○○○

【B】 使用済自動車票 (取付情報)

リサイクル券番号: XXXX-XXXX-XXXX
 車 種 号: ΔΔΔ-XXXXXXX
 車 台 号: ○○○○

【C】 預託管理番号

リサイクル券番号: XXXX-XXXX-XXXX
 車 種 号: ΔΔΔ-XXXXXXX
 車 台 号: ○○○○

【D】 料金通知書発行者控

リサイクル券番号: XXXX-XXXX-XXXX
 車 種 号: ΔΔΔ-XXXXXXX
 車 台 号: ○○○○

(7) 環境省による情報提供に対する質疑と分析

■環境省河田氏の情報提供についての質疑

環境省による情報提供で使われた資料を含め、配布資料の中でも、写真やグラフ等、印象に残った部分に関する質問が多かった。例えば、行政代執行前と後の写真の様子から、「自治体の取組例」とは何かという質問に始まり、特定再資源化預託金の発生理由やその使われ方、過去の出えん額等に話が進展した。その際、今回の事業で作成したパンフレット付小冊子を利用して解説を行った。また、自動車リサイクル法ができる前から使用されている車のリサイクル料金の徴収についての質問があり、車検時の後追い徴収を説明した。

■環境省による情報提供についての質疑を踏まえた自動車リサイクル制度の認知度と普及啓発ツールに関する分析

環境に対する意識が高く、日常的に自動車リサイクル以外のテーマでさまざまな環境活動や普及啓発活動をしている今回の参加者でさえも、自動車リサイクル制度の基本情報であり、唯一ユーザーの手元にあるリサイクル券を見たことがない、どこに保管されているか知らないという方がほとんどであった。このことから、一般ユーザーの認知度はかなり低いことが予想される。

また、ELV、ASR、シュレッダーダスト、特定再資源化預託金（特預金）、情報管理・資金管理料金、不適正保管、新冷媒、行政代執行等、普段聞きなれない言葉や自動車リサイクルに特化した用語を理解するのは容易ではない。文字を見せながら、易しい言葉に置き換えての説明が必要である。話し言葉だけの説明では、特預金を特養（特別養護の略）と勘違いするということが起こってしまい、理解が進まない。

自動車リサイクル制度の説明には、見て説明できる、わかりやすい図、写真、グラフ、言葉の解説（用語集）等のツールが最低限必要と思われる。

(8) メタルリサイクル㈱の会社紹介ビデオ放映（約15分）と見学（約1時間）

約15分間ビデオ放映があり、その後、工場見学を行った。

リユース部品、リビルト部品の保管現場を見ることで、部品数の多さと保管状況に驚きと納得感があった。自動車のリサイクル工程を初めて見る方がほとんどで、施設内の屋根のない部分での作業労働環境や、施設内排水処理について等、各人、各団体の地域での活動内容に応じての関心事に関連して、その場での質問も多くあった。

(9) 見学と学習会全体についての質疑と分析

■見学と学習会全体についての質疑

見学後、質疑応答が行われた。現場で見たことに関する質問が多く、一貫性は乏しかった。処理実証段階の水素タンクがリユース・リビルト部品の保管建屋入口にあったことから、リサイクルについての質問や放射性検知器は何のためかといった質問があった。

また、中小リサイクル事業者としてのご苦勞、価格の変動に関する質問に対し、現在の鉄、アルミ、銅等の価格変動対策として、将来の次世代車（ハイブリッド、電気自動車、燃料電池車）のリサイクル技術の開発向上を目指しているという回答があり、環境省河田氏からは、電気自動車のリチウムイオンバッテリーは、コバルト等も使われており、現在はリサイクル困難物だが、環境省・経産省で実証実験中であると追加情報の提供があった。

なお、メタルリサイクル㈱が一日に扱う台数の質問から、パーツの在庫数や出荷数は再度回答の中で知らせることができた。

自動車リサイクル制度全般についての意見交換を行ったが、自動車リサイクル制度を初めて知った方が多く、質疑が大半を占めた。結果的に広範囲な質疑になり、時間が足りなくなってしまい普及啓発に関する意見交換までは行きつかなかった。

主な質問のキーワードは以下の通り。

- ・リサイクル料金を預託する自動車の種類
- ・路上保管
- ・生産者責任
- ・海外へ出た日本車の最終処分
- ・2011～2012年の情報システムの改善が非常に多額な理由
- ・特預金のユーザーへの返還
- ・シュレッダーダスト（ASR）の処分
- ・行政代執行費用の回収
- ・リユース・リビルト部品の市場と品質保証

また、「不法投棄は減った実感があるが、廃車にはしないで倉庫代わりに利用されている車などがどのくらいあるか把握することも必要ではないか。観察・保全活動などを行っているところと組んで、状況把握できると、対策も考えられるのではないか。」
「富士山国定公園内に数台の放置自動車があるが、特預金を使って処理できないか。」等、地域で実際に困っている案件が浮き彫りになり、それに対する提案もあった。

■見学・学習会全体についての分析

①参加者の理解促進に関して

質疑については、最初の河田氏の情報提供時（見学前）と見学後を比較すると、見学後は工場内で見えてきたこととの関連質問が多かったことから、座学と見学を同日に行うことで、理解が促進されると考えられる。

自動車リサイクル制度の説明には、見て説明できる、わかりやすい図、写真、グラフ、言葉の解説（用語集）等のツールが最低限必要と思われることから、本事業で作成したパンフレット付小冊子を使うことで、詳しく且つわかりやすい情報提供ができた。内容が難しくても、イラストや絵を使用することで、親しみやすさを与え、印象に残りやすくなることがわかった。結果的に小冊子作成の意図は的確であり、ツールとして使うに十分な内容であると受け止めている。

参加者は、他の異なる観点からの質疑を聞くことが一人一人の新たな気づきとなり、重要な論点を把握するきっかけとなり得るところから、一つの団体20名での学習会より、今回のような様々な活動歴を持つ参加者20名による学習会の方がはるかに有効性は大きい。質疑の内容からは、理解が進むと課題や論点がより明確になることがわかる。例えば、リサイクルと生産者責任、特預金、CO₂削減とASRの関係、リ

ユース部品の利用率や保証等、消費者の認知促進に重要と思われる内容が浮き彫りになった。これらの内容は情報量も多く、主催者側が一方的に説明しても記憶に残りにくい。地域活動に即した多角的な質問に回答するという形の双方向で実施したことが理解促進につながったが、質問が予想以上に多く、時間不足になり課題の掘り下げが不十分になった。

今回のような活動経験が豊富な参加者でも、自動車リサイクルに関する情報が届いていないことが分かった。参加者のレベル向上には、複数回の見学と学習会があれば、今後、参加者が自ら普及啓発を行うにあたり、広範囲に正確な情報発信の担い手として活躍いただける。

②参加者による普及啓発に関して

日頃、簡易環境アセスメントの取り組みをしている方からは、不法投棄、不適正保管の数、自治体の取組等、自分事に考えて地域の状況と照らし合わせた解決策案などの発言もあった。できれば、地域の課題などを例に話し合えると、より自分事になり、今まで気がついていなかったユーザーや地域の課題が見えてきて、次の一步に進むと思われる。

また、リユース部品の保管数や保管棚の状況等、何か一つでも意外な驚きがあれば、当日得た情報を誰かに伝えたいと思われるので、地域活動リーダーの心理を上手に活用することが肝要である。

ただし、新しい情報を地域で発信したくなる人材は、日ごろから情報発信の経験があり、そのような場や機会がある地域リーダー的存在や講師依頼がある人であり、一般消費者にいきなりそのような情報発信を望むことには無理がある。

自動車リサイクルに関して知っていただく程度の一般的な普及啓発と情報発信を担う人材が混在しないように参加者を選定した学習会が望ましいと言える。

従って、一般ユーザーへの情報発信の内容と同じではなく、相手の活動ベースに応じた内容の情報提供が効果的である。その上で、自動車リサイクルに関する情報を正確に伝えていくためには、小冊子をより正確、有効に利用していただく必要がある。そのための研修等があればより有効になるとと思われる。

③その他

質疑の内容からは、理解が進むと課題や論点がより明確になることがわかる。リユース・リビルト部品保管スペースの見学時に、リサイクル・リビルト部品の在庫数や出荷数の説明はあったが、マイクを使つての説明ではなかったため、説明者の周りの人のみが聞いていて、少し離れた場所において聞き逃した参加者がいたと思われる。長年3Rの活動を続けていて、本来優先順位の高いリユースが現実には低いことを危惧している参加者には、リユース・リビルト部品の数の多さと保管状況、海外市場の存在等は説得力があり、自動車リサイクルの有効性を再認識するいい機会であった。

今回の見学と学習会の質疑から、自動車リサイクル制度やリサイクル料金の使われ方について、ほとんどの参加者が予備知識はなかったことや、聞きなれない難しいと感じる言葉等について情報収集ができたことから、今後のより効果的な普及啓発や人材育成に活かしていこうと考えている。

(10) アンケート回答の概要と分析：(全文は、別紙添付資料 1-⑦参照)

学習会終了後、アンケート記入の時間がとれなかったため、後日 F A X、メールで回収した。主な回答の抜粋は以下の通り。

アンケート用紙→

自動車リサイクル工進院学&学習会に関するアンケート (元気ネット事務局) FAX: 03-6300-5158 Email: info@genki-net.jp	
① 自動車リサイクル制度に関して、どのような事が新鮮な情報でしたか	
② 小冊子に関してのご感想、ご感想 特にわかりにくい、面白いと感じた点がありましたら、具体的にお願いします。	
③ ご自身の団体等でこの小冊子をご利用可能な場はありますか?	ある ・ ない(どちらかに○) 希望回数()部
④ 全体を通しての感想やご希望等	

回答はご帰宅後でも結構です。本日はご参加いただき誠にありがとうございました。

①自動車リサイクル制度に関して、どのような事が新鮮な情報でしたか

- ・ ELV は End of Life Vehicle の略。
- ・ リサイクル率の高さ。
- ・ リサイクル料金の流れ。
- ・ 特預金の存在。
- ・ 特預金の使われ方。
- ・ 小冊子の上部の「今後の激甚災害～」 「自動車サイクルの情報システムは、地方銀行並み～」の部分。
- ・ リチウムはリユースやリサイクルがされているイメージがあった。
- ・ 利用者の役割分担。
- ・ 自動車会社自らの製造責任が感じられる良い制度。
- ・ 自動車リサイクル業界がどのように機能し、努力しているのか理解できた。

■①を踏まえた分析

初めて知った情報に対し、驚きを感じつつ吸収に努めようとする姿勢が感じられる。自動車リサイクル制度の仕組みや特預金の存在とその使われ方等について、ほとんどの参加者が好意的に受け止めている。これには、参加者の活動内容の多面性が効果的であったと言える。参加者が 20 名なので活動ベースによる分類ができるまでには至っていないが、学習意欲が高く、環境全般、環境学習、リサイクル、普及啓発等に関心のある人には、的確な説明と資料、ツール(今回は小冊子)があれば短時間でもかなりの情報伝達になり、その後の情報発信に期待できると考えられるが、情報伝達のスキルには個人差があるので、一定のレベルのスキルを身に付けわかりやすく自動車リサイクルについて伝えるためにも、複数回の研修があれば安心して任せられる。従って、一般ユーザーへの情報発信の内容と同じではなく、相手の活動ベースに応じた内容の情報提供が効果的である。

②小冊子に関してのご意見、ご感想特にわかりにくい、難しいと感じた点がありましたら、具体的にお書きください。

- ・右ページ上の犬の1行のポイント吹き出しは、短文で効果的。1ページにまとめて教習所等で配布し、簡単に説明ができれば、内容の普及が図れるのではないかと。
- ・車販売店に置いてもらったら良いと思う。
- ・目で見ても全体像が理解できるようになっていて、「自動車のリサイクル」がより身近に理解できた。
- ・子どもから家族に伝える「ESDアクティブラーニング」を用いた教材にしたい。
- ・エコ活動時にメモとして便利、主催者も受講者も使えるツール。
- ・見開き（前、後）の内容は要点をわかりやすくコンパクトに収められおり、この4ページだけで自動車リサイクルの概要を人に伝えられるので早速活用したい。
- ・いつもバッグに入れておきたい。
- ・「引取時預託」や「特定資産残高」はシステムを知らないと分かりにくい用語。
- ・「新冷媒」「行政代執行」はなじみがなくわからないかもしれない。
- ・意味や背景を更に知りたくなった。
- ・ノートとの組み合わせはよいアイデア。

■②を踏まえた分析

特に、奇数ページの11個の吹き出しメッセージは効果的であることがアンケートから見て取れる。短文のさりげない解説が初めての人にも伝わりやすく、内容が難しくても、イラストや絵を使用することで、親しみやすさを与え、印象に残りやすくなることがわかった。

また、今後この小冊子を使って、伝えていきたいという意思がすでに明確になっていることから、小冊子作成の意図は的確であり、ツールとして使うに十分な内容であると受け止めている。ただ、「引取時預託」「特定資産残高」「新冷媒」「行政代執行」等、用語解説の必要な部分もあり、今後作成のマニュアルに参考になる情報がアンケートを通じて得られたと言える。

③ご自身の団体等でこの小冊子をご利用可能な場はありますか？

ある・ない（どちらかに○） 希望部数（部）

- ・希望部数合計 1,885部

各団体、個人の希望部数は、10部～500部で、全ての団体、個人の希望部数合計は、1,885部であった。

■③を踏まえた分析

希望部数の多さから、発信力のある参加者に情報が伝われば、一気に広がることがわかる。しかし、1回の学習会で全てを正確に理解できているかどうかについては不安がある。この不安解消のためには、よりわかりやすい解説等により参加者の理解を促進すると共に小冊子を普及啓発に使用するためのポイントを示すことが有効である。よって「自動車リサイクル制度を伝えるための小冊子利用マニュアル」を作成し、示すことが必要と考える。

なお、このような学習会参加の機会が複数回あれば、地域での情報発信を担っていただくために必要な制度の理解がより深まり、地域での自発的な活動につながるのではないかと。

④全体を通しての感想やご希望等

- ・実際に見ることが一番理解促進になるので、工場見学ツアーを定期的に行ったら良い。
- ・多面的な活動の参加者が広い地域から参加されていて、質問やコメントも多岐にわたり、質問への応答も内容を深めるのに大変役立ち、ちょっとした会話の中にも色々刺激されることがあった。
- ・ネット情報等では知り得ない様々なことを学んだ。
- ・車を持っている数人の方にほとんど知らないということで、教えてほしいと頼まれた。
- ・きちんと伝えることが必要と思う。
- ・ノートがすばらしい、もっと知りたいと思った。
- ・いろんな機会に紹介、説明したい。
- ・資源循環の仕組みや有り方について深く考え、リサイクルシステムとその技術に信頼をよせることができた。
- ・自動車製造事業者や環境関連機関等との密な連携が今後も必要と思った。
- ・電気自動車やハイブリッド車に使われるリチウムイオン電池の適正処理方法とリユース市場が気になる。
- ・こうした情報を、車を売るディーラーさんが把握し、自動車購入時に、金額とともに、その意義を購入者に説明することが大切だと思った。そういう意味で、ディーラーさんのスキルにあわせた小冊子を作られるといいのではないかと。

■④を踏まえた分析

学習会の有効性は、参加者の地域活動内容の多面性やその豊富な経験値から質問や意見が多岐にわたることを想定したが、想定以上に活発な質疑となったため、時間不足になり課題の掘り下げが不十分になった。しかし、小冊子の反応が予想以上だったことから、ツールとしての有効性は明確になった。今後、参加者が自ら普及啓発を行うにあたり、広範囲に正確に情報を伝えていくためには、小冊子をより正確、有効に利用していただく必要がある。そのための研修等があればより有効になると思われる。

(11)見学会、学習会の考察

■普及啓発活動を主体的に担える属性

本事業のひとつである見学と学習会の参加者は全国の地域環境活動リーダーと決めていたが、まさしく活動内容がさまざまに能動的な20名で実施できた。広範囲で豊富な活動歴による質問や意見の多面性は、個人では気が付いていなかった課題や関連事項に各自の新たな気づきにつながり、知ったこと、体験したこと、納得したことを発信したくなったことが、アンケートや当日の感想から分かる。

そのことから、自ら主体的に担える人材は、既に普及啓発の活動経験が豊富で特に3Rに関する活動を実施している団体、個人に期待できると思われる。

■自動車リサイクル制度の理解促進に効果的な実施内容・啓発ツール
(地域リーダー向け)

当日の質疑と回答、アンケートのまとめは、3月7日に参加者全員にメールで発信したところ、「各地域の活動リーダーのみなさんの意見は多様で、興味深く拝見しました」「皆さんの感想とても参考になります」という反応があり、ふりかえりの共有が有効であった。

また、ツールとして今回作成したパンフレット付小冊子(そうだったのか!自動車リサイクル)が大変有効であったことがアンケート回答から分かる。各ページの作成の意図は、後述(P23 2.2.2)に詳細記載。

■参加者が普及啓発活動を主体的に担うようにするために行うべきこと

自ら自主的に担うには、情報を得て納得し、スキルの向上が必要である。そのため複数の研修で自信をつける必要がある。

■どのような見学・学習会を実施することにより、一定水準以上レベル向上/維持できるか

見学と学習会は必須であるが、参加者のレベルを合わせることで、より効果的になることが分かった。意見交換で自由に発言できる雰囲気を作り、後半でテーマを決めて深掘できるようにすることで、より詳しく知ることによって納得できることがあり、複数の研修があればレベルの向上と維持につながる。

■今後さらに検証が必要なこと

1回の見学会と学習会でどこまで理解できたのかを判断し、追加情報の提供やもっと知りたいという要望に応じていく必要がある。さらに参加者が自ら普及啓発を実施する場合、短時間に的確に説明ができない部分がどこなのかを明確にする必要がある。なお、明確になったことは、今後作成するマニュアルに活かしていける。

2.2.2 パンフレット付小冊子(そうだったのか！自動車リサイクル)の作成

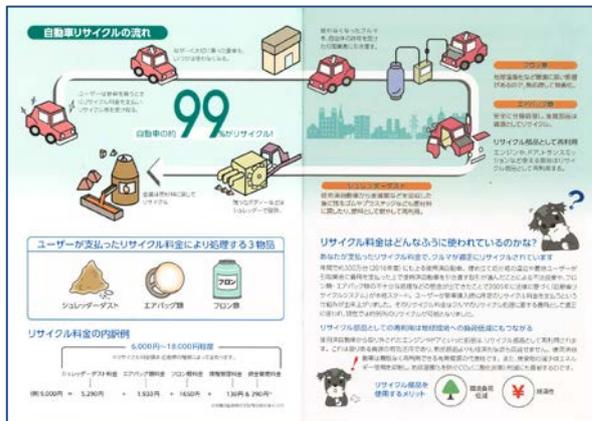
元気ネット作成の情報提供のためのパンフレット付小冊子(A5ノート)については、特に伝えたいポイント等を洗い出し、整理した。各ページについては、以下の点に留意した。情報等の掲載にあたっては、JARCのデータブックやホームページ等を参考にし、作成段階で、(一社)自動車工業会、(公財)自動車リサイクル高度化財団、JARCに確認とアドバイスをいただいた。

裏表紙



留意点と意図

表紙：簡単でわかり易いタイトルの検討。
 ・犬のイラストにより親しみやすさを表現。
 ・難しい内容でも親しみのあるイラストの使用で関心を持ってもらうため。
 裏表紙：日本ELVリサイクル機構の都道府県別会員事業者数一覧を記載した。
 ・全国にディーラー以外にも廃車の引き取り施設が数多くあることを知ってもらうため。

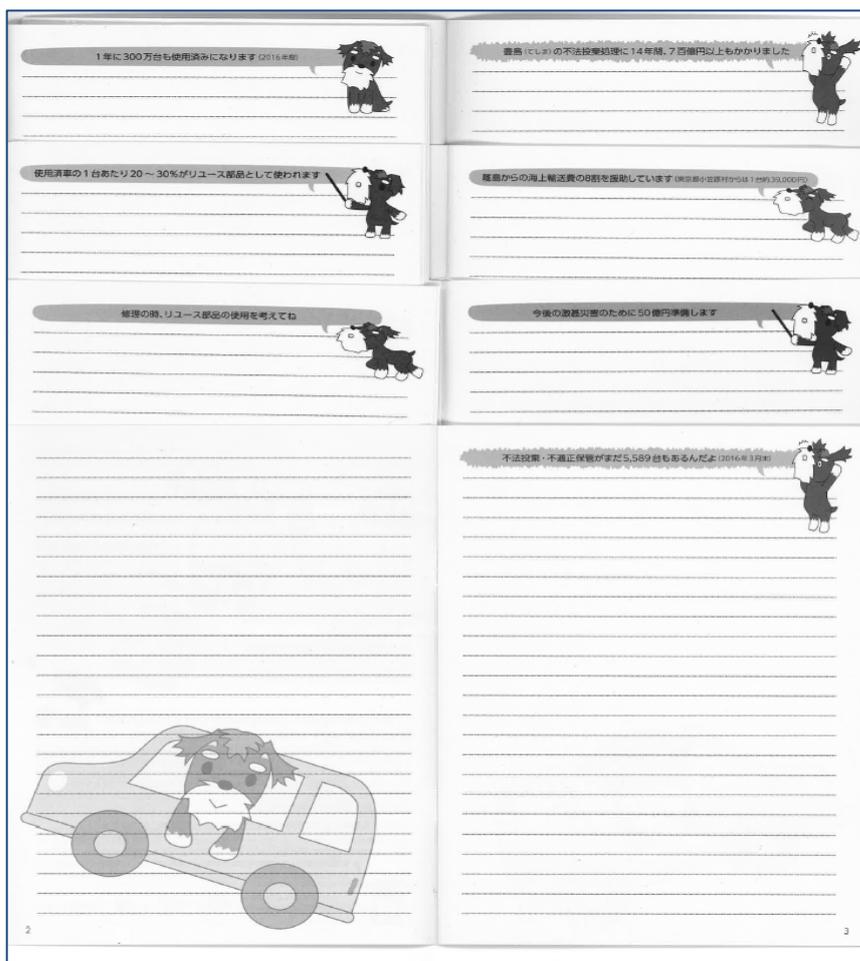


・自動車リサイクルの流れとリサイクル料金により処理される3品目やその料金の内訳が一目でわかるように、JARCのデータを参考に加工。
 ・リサイクル部品(リユース・リビルト)についての情報を掲載。修理の際の積極的なリサイクル部品の使用を促すため。
 ・それが結果的に環境負荷を低減すること。



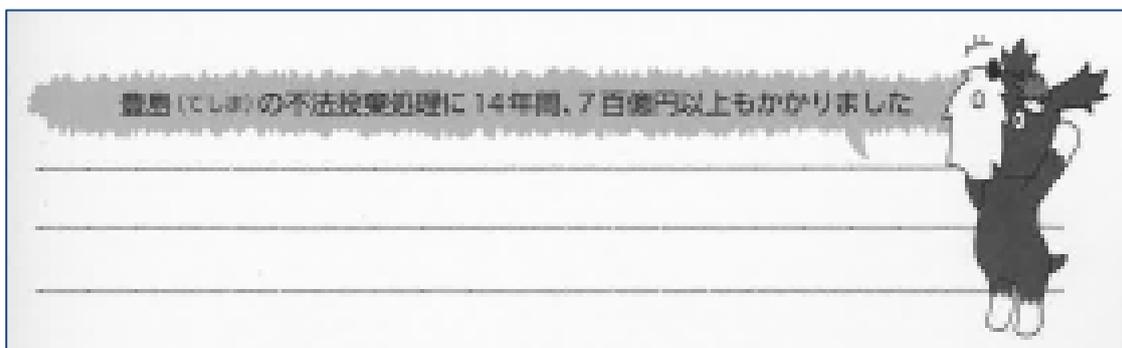
・左上：廃車の際の処理の流れ。
 ・左下：預託金のお金の流れと直近の資産合計金額。
 ・右上：特定再資源化預託金(特預金)についての説明と使われ方。
 ・右中：特預金の使われ方とそのグラフ。
 ・右下：関連組織の紹介。

中ページ



- ・自動車リサイクルに関連のある情報や制度の中で知って欲しいことを奇数ページ上部に吹き出しの形で11種類記載した。
- ・簡単な1行にして、すぐ読めて覚えやすい工夫をした。
- ・イラストも内容に応じて変化を付け親しみやすくした。
- ・ノート部分は、メモができるようにして、使い終わるまで破棄されないようにした。

ページ上部の「ミニ情報」。内容に合わせて、犬のポーズも変えている。



また、参加者の小冊子に関する感想は、前述と別添のアンケートにあるように、かなりの高評価で、各地域での活用希望数が10冊から500冊と多く、当初印刷の1,000部では希望に添えないため、増刷(2,000部)の計画変更を提出し承認いただいた。各地域で、5月に会合が開催される場所もあるとの情報が入ったので、急ぎ、4月末から5月上旬に送付数を調整の上合計1,685冊を発送した。

参加者からは、地域で自動車リサイクルの話をする際、欲しい情報が漏れなくあり、親しみやすく大変役立つという声が多く寄せられている。小冊子の送付にあたっては、いつ、どのような機会に、配布対象者、反応感想等を回答いただく報告書を同封した。

まだ数名だが、報告書が届いている分について、以下の通り報告する、

日時	会合・イベント等の名称	参加対象	配布人数	当日の様子・参加者の感想等 (自動車リサイクルについての説明時間)
5/10以降	会合等で出会う毎に100名に達するまで	サークル仲間や知人	1名 合計 20名	・一人一人に説明をして渡す(15分~30分) ・全然知らなかった、そうだったのという驚きが多い
5/15	研究会会議	会員	15名	(学生の意見が多い) ・不法投棄が気になる ・リサイクル率99%は信じがたい ・新冷媒に代わるところが一番興味を持った ・この内容を知らない人が多いので広報・啓発の意義がある (最初に15分程度の説明)
5/19	環境カウンセラー理事会	会員	15名	・自動車リサイクル法施行の経緯、リサイクル料金の流れについて(理事会終了後10分)
5/28	出前授業(小学校)	教員	3名	・児童の家庭へ配布しても、実際の声はいただくことは、出来ない可能性がある ・深く読んで参考にさせていただく (児童に配布して保護者に向けてと考えたが、冊数が多くなり断念:5分程度の説明)
6/5	出前授業(小学校)	教員	3名	・教員で、関心のある人に意見など聞きますとの返事をいただいた(5分程度の説明)

なお、2月19日の参加者で上記報告のあった一人から、冊子を利用して説明を受けた方から、夏休みの学習会で使用したいという連絡があり、すでに30冊送付済みである。小冊子配布に関しては、上記と同じ報告書を同封し、どのような反応や感想だったか等を回答いただくことになっている。

2月の学習会不参加の方が冊子を渡す際には、以下の3点を説明いただくように依頼した。

1. 使わなくなった車の処理(リサイクル)にはお金がかかるので、前もってリサイクル料金を車の所有者が払い、預けておく制度(法律)。

前払い制度（預託）があるのは、日本の各リサイクル制度の中でも自動車だけで、世界でも日本とオランダだけ。

2. リサイクル料金は、エアバック、フロン、シュレッダーダストの3品目のみの処理料金。
3. 車は使わなくなっても（廃車）使える部品をリユース部品として再使用する。それがCO2削減や経済的にも有益。

2.2.3 地域リーダー20名程度に参加依頼

①連携のある団体及び個人に案内

今回参加を呼びかけた対象は、環境に関する普及啓発活動を行う団体であるが、これまでの活動ジャンルは必ずしも3Rに限られておらず、エネルギーや消費者問題等も含め多岐にわたる。

②案内した団体、個人の自動車リサイクルに関する活動状況

なお、自動車リサイクルに関する活動経験や知識があるかどうかは、募集段階で特段属性分けを行っていなかったが、結果的には参加者は全員このジャンルにおける活動経験や知識がない団体となった。

③20名が申し込み、参加

12月17日から参加者募集を開始した。これまでの元気ネットの以下の事業活動において連携のある方や団体の22名に案内し、1月6日には定員（20名）に達した。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・2001年から12年間実施 「市民がつくる環境のまち元気大賞」入賞団体・2007年から10年間実施 「放射性廃棄物の地層処分にに関する地域ワークショップ」の地域ファシリテーター・2009年から4年間事務局を担当 「アジア3R市民ネットワーク」参加団体・2011年から現在実施中 「3R市民リーダー育成事業」3R市民リーダー・2013年から4年間実施 「マルチステークホルダー会議」参加者等・2013年から現在実施中 「古紙リサイクル資源化」事業の地域リーダー |
|---|

④申込者の属性、元気ネットとの連携

見学と学習会の参加者は、それぞれ地域で有機農業、リユースショップ運営、クリーンアップ、ファイバーリサイクル、廃棄物、エネルギー、消費者問題などのNPOや団体の運営に関わっている責任者である。また、普及啓発の経験が豊富な方等、発信力があり知的好奇心が強く、新しい情報取得意欲の高い方ばかり20名で、各自の経験や発言内容からもお互いに学び合えることが期待できる人材が集まった。

これまでの活動経験から、多様な活動をしている参加者が集まれば、疑問に思う点が各自の活動内容に関連してそれぞれ違っていて、他の参加者の異なる観点からの意見や質問を聞くことが一人一人の新たな気づきとなり、重要な論点を把握するきっかけとなり得ると想定したためである。

2.2.4 今後の普及啓発ツールやマニュアルの作成準備

見学と学習会の質疑や意見交換の発言、および後日いただいたアンケートから、当日説明した内容で、理解しにくい、誤解しやすい用語や追加説明があったほうがいい項目等、またそれをどのように説明すれば短時間で正確に伝わるか等について、多くのヒントが得られた。これらを活かし、次年度作成するマニュアルに活かすための素材集めを行っている。

また、説明する対象のレベルに合わせた解説方法やどこまで説明するか等を示すと共に、今回作成したパンフレット付小冊子をより有効に利用いただくために、各ページの詳細追加情報を付けたマニュアルにするための検討を行っている。

2.2.5 翌年度施設見学および学習会の準備

2月19日の参加者の中で中部地域と北九州の方に、それぞれ地域開催学習会の協力を依頼した。中部地域からは、これまでも他のテーマで普及啓発の経験が豊富な方が4名参加しており、今後の展開に期待が持てると思われた。北九州は、エコタウン内に見学施設があり、2月19日に参加した方のモチベーションと環境分野だけでない人的ネットワークがあり、広がり期待できると思われ、二人とも事務局として適格と考えた。また、地域バランスも考慮して開催打診をしたところ快諾いただいたので、地域事務局としての依頼内容を明確にした。

見学施設の選定と見学依頼をして、日程調整、講師依頼ができ、北九州は7月6日に、愛知県は7月24日に開催できることになった。当日のプログラムを検討し、以下の通りそれぞれ参加者募集を開始した。

なお、各地域の参加者は、地域事務局には発信力があり情報収集に熱心な方を対象に15名の募集を依頼し、当元気ネットでもこれまで連携がある団体や個人5名程度の募集をしている。

①北九州募集案内チラシ

2018年5月1日

**自動車リサイクルの工場見学会&学習会
参加者募集**

自動車リサイクルに関する最新情報やリサイクル料金・特許金の使われ方等を知っていただくために、以下の日程で工場見学会と学習会を開催いたします。ぜひ、ご参加いただきたくお願い申し上げます。

記

日 時：2018年7月6日(金) 10:00～16:15(予定)
見学場所：西日本オートリサイクル(株)
(北九州市東区東町1丁目42番地 北九州エコタウン内)
日本製、シュレッダーレス方式での使用済み自動車のリサイクル事業者として、平成12年2月、北九州エコタウンの一員、総合環境コンピート内で操業を開始。
集合場所：JR鹿児島本線 戸畑駅 10:00 バスで移動
解散場所：戸畑駅を予定(16:15頃)
学 習 会：北九州エコタウンセンター会議室
講師：山口大学国際総合科学部 准教授 阿部新氏
定 員：20名程度
締 切 り：5月31日(木)【先着順】
交 通 費：ご自宅から集合場所までの実費をお支払い
昼 食：軽食を用意いたします

本事業は、公益財団法人自動車リサイクル高度化財団の普及啓発事業として実施いたします。<https://faror.jp/public/>

申 込 先：別紙申込書項目を明記の上、5/31(木)までに
FAXかメールでお申込みください。 以上

【連絡先】NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット
(担当：鬼沢、足立、磯田)
〒160-0023東京都新宿区西新宿4-32-6 パークレース新宿510
電話：03-6300-5157、FAX：03-6300-5158、メール：info@genki-net.jp

②愛知県募集案内チラシ

2018年5月1日

**自動車リサイクルの工場見学会&学習会
参加者募集**

自動車リサイクルに関する最新情報やリサイクル料金・特許金の使われ方等を知っていただくために、以下の日程で工場見学会と学習会を開催いたします。1日で関連3事業者を見学できる大変欲張りな行程です。ぜひ、ご参加いただきたくお願い申し上げます。

記

日 時：2018年7月24日(火) 9:00～17:00(予定)
見学場所：ニュー岩田(株)(解体事業者)
いその(株)(Car to Carプラスチックリサイクル事業者)
豊田メタル(株)(自動車リサイクル事業者)
集合場所：JR名古屋駅 新幹線口 9:00 バスで移動
解散場所：名古屋駅を予定(17:00頃)
学 習 会：豊田メタル(株)会議室
講師：嶋村高士氏(トヨタ自動車株式会社 環境部担当部長)
定 員：20名程度
締 切 り：6月29日(金)【先着順】
交 通 費：ご自宅から集合場所までの実費をお支払いします
昼 食：軽食を用意いたします

本事業は、公益財団法人自動車リサイクル高度化財団の普及啓発事業として実施いたします。<https://faror.jp/public/>

申 込 先：別紙申込書項目を明記の上、6/29(金)までに
FAXかメールでお申込みください。 以上
参加申し込みをいただいた方に、詳細をお知らせいたします。

【連絡先】NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット
(担当：鬼沢、足立、磯田)
〒160-0023東京都新宿区西新宿4-32-6 パークレース新宿510
電話：03-6300-5157、FAX：03-6300-5158、メール：info@genki-net.jp

2.2.6 ホームページへの公開

2018年2月19日に実施した全国の地域リーダー向け見学会と学習会、及び6月2～3日のエコライフフェアでの一般向け普及啓発の様子は、当NPOホームページに公開、発信している。

<http://www.genki-net.jp/> http://www.genki-net.jp/3r_report/automobile/

2.2.7 一般向け普及啓発の実施

(1) 実施目的

2018年6月2日(土)～3日(日)に代々木公園で行われたエコライフフェア(主催:環境省)において、一般消費者を対象に、自動車リサイクルに関する認知度調査と普及啓発を実施した。

一般消費者と直接接する中で、一般消費者の自動車リサイクルに関する認知度を調べ、また、元気ネットが作成したパンフレット付き小冊子(そうだったのか!自動車リサイクル)をどのように使用すれば効果的な普及啓発ができるか、わかりにくい点はどのような部分か等について情報収集を行い、今後、自動車リサイクル制度の普及啓発のために、どのようなツール、マニュアル等を整備していくのか検討するための素材収集等を目的として実施した。

(2) 実施概要

イベント名:エコライフフェア2018

日程:2018年6月2日(土)・3日(日)両日とも10:00～17:00

場所:代々木公園ケヤキ並木およびイベント広場

来場者数:43,347名(2日間合計)

実施場所:代々木公園 イベント広場 NPO・NGOゾーン 番号D-12
(3R活動推進フォーラムのブースにて実施)

内容:自動車リサイクルに関する認知度調査(シール形式)及び一般向け普及啓発

対象:18歳以上

実施時間帯:12:00～13:00、14:30～15:30。各日約2時間実施。

(容器包装の3Rを中心に、時間を区切って、自動車リサイクル、家電リサイクル、食品ロス削減についての普及啓発を行った。)

実施担当者:鬼沢良子、足立夏子

回答者数:82名(2日間合計)

(3) 実施方法

アンケートはシール形式で行った。こちらが問題を読み上げ、参加者にシールを貼っていただきながら会話の中で情報を提供し、参加賞として本事業で作成した冊子を渡し、簡単な解説を行った。

イベント会場での普及啓発では、あまり多くの時間を割くことは難しいので、予めこれだけは伝えたいという点を整理して臨んだ。伝えたい点、ぜひ知っていただきたい点を5つの問にまとめ、「アンケート」という形で、普及啓発を行った。

5つの問にお答えいただいたら、最後に冊子を渡す際に中身を見せながら、冊子のポイントやご本人がアンケート中に興味を示した点等について解説を行い、質問があればお答えした。

1人(1組)ごとに、ほぼマンツーマンで対応した。1人(1組)への対応時間は、最短で3分程度、標準で6分程度。興味を持った方にはやや詳しい解説を行い、質問のある方には更に質問に応じたので、10分以上となったケースもあった。

人数は2日間合計で82名であった。

(4) 参加者属性

- ・対象は、運転免許の取得可能年齢を考慮して、18歳以上とした。
- ・男女のバランスを考慮して声掛けを行った。
- ・学生、友人連れ、家族連れ、シニア世代など、属性が幅広くなるように配慮した。

(5) アンケート実施中の写真

実施方法・留意点



- ・テントブース前の通路にてアンケートに協力をお願いの呼びかけを行った。
- ・呼びかけの際には、冊子を見せて、アンケートにお答えいただくと、冊子をプレゼントすると伝えた。
- ・テーブル上にアンケートのシール台紙を置き、シールを渡して、貼っていただいた。



- ・シールをうまく貼れない方については、こちらで貼るようにした。
- ・こちらで、問題を読み上げ、口頭での答えを聞いて、貼るべき場所を指で示す場合もあった。



- ・シールを貼っているところ。
- ・耳慣れない言葉もあるので、(シュレッダーダスト等) 問題を読み上げる際に、かみ砕いた言葉で補足して、意味を理解していただくように努めた。



- ・最後には、冊子を見せながら、解説を行った。
- ・理解したことを、周りの方に伝えていただくように働きかけをした。



・質問がある方には、時間の許す限りお答えしました。

(6) アンケート内容

【属性】

男性：青シール 女性：赤シール

年代：18～20代、30～40代、50～60代、70代以上

自家用車：ある、ない、シェアリングで使用、その他

Q 1 自動車は、購入時にリサイクル料金を事前に払う（預託する）ことをご存知ですか？

【解説】6,000～18,000円程度／台（冊子の表紙内側）

Q 2 リサイクル料金は、次の3品目のリサイクルに使われていることをご存知ですか？

【解説】フロン・エアバッグ・シュレッダーダスト（ASR）

Q 3 使わなくなった（廃車）車から使える部品を取り、リユース部品として販売されていることをご存知ですか？

【解説】使用平均15.2年 20～30%がリユース部品／台

Q 4 車の修理の際、リユース・リビルト部品を使うようにお願いしますか？

【解説】CO₂削減になる。（冊子のP. 1）

Q 5 東日本大震災や離島対策費用にリサイクル料金の特定再資源化預託金（特預金）が使われていることをご存知ですか？

【解説】（冊子の最終ページ）

(7) アンケート結果 (台紙)



(8) アンケート集計表 (台紙)

自動車リサイクル アンケート



アンケートに参加して
プレゼントを
もらおう!

当てはまる所にシールを貼ってください。 男性41人 女性41人 合計82人			
18~20代(6人)7%		30~40代(30人)37%	
50~60代(36人)44%		70代以上(10人)12%	
男性 1	男性 16	男性 18	男性 6
女性 5	女性 14	女性 18	女性 4

自家用車 あり(56人)68%	自家用車 なし(21人)26%
男性 24	男性 10
女性 32	女性 8
*未回答5人 6%	シェアリングで使用 男性 3 女性 0 その他 0

Q.1 自動車は、購入時にリサイクル料金を事前に払う(預託する)ことをご存知ですか?

①知っている(43人)52%	②知らない(39人)48%
男性 27	男性 14
女性 16	女性 25

Q.2 リサイクル料金は、次の3品目のリサイクルに使われていることをご存知ですか? フロン・エアバッグ・シュレッダーダスト(ASR)

①知っている(17人)21%	②知らない(65人)79%
男性 12	男性 29
女性 5	女性 36

Q.3 使わなくなった(廃車)車から使える部品を取り、リユース部品として販売されていることをご存知ですか?

①知っている(55人)67%	②知らない(27人)33%
男性 31	男性 9
女性 24	女性 18

Q.4 車の修理の際、リユース・リビルト部品を使うようにお願いしますか?

①する(24人)29%	②しない(58人)71%
男性 17	男性 24
女性 7	女性 34

Q.5 東日本大震災や離島対策費用に、リサイクル料金の特定再資源化預託金(特預金)が使われていることをご存知ですか?

①知っている(9人)11%	②知らない(73人)89%
男性 6	男性 35
女性 3	女性 38

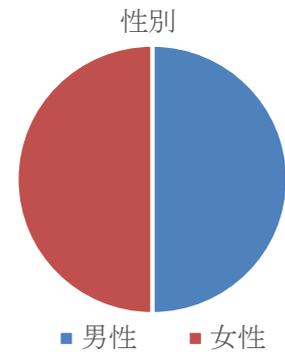
(9) アンケート結果まとめ
 ■ 設問別結果 (表・グラフ)

【属性】

・ 性別

男性	41	50.0%
女性	41	50.0%
総数	82	100.0%

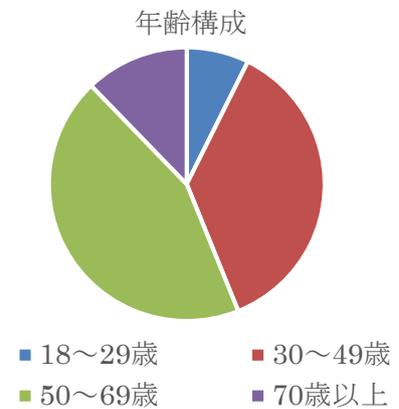
(人)



・ 年齢構成

18～29 歳	6	7.3%
30～49 歳	30	36.6%
50～69 歳	36	43.9%
70 歳以上	10	12.2%
総数	82	100.0%

18～20 代 (6 人) 7%	男性 1	女性 5
30～40 代 (30 人) 37%	男性 16	女性 14
50～60 代 (36 人) 44%	男性 18	女性 18
70 代以上 (10 人) 12%	男性 6	女性 4



・ 自家用車の有無

あり	56	68.3%
なし	21	25.6%
シェアリング	3	3.7%
未回答	5	6.1%
総数	82	100.0%

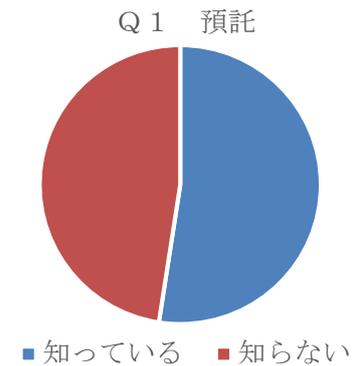
自家用車 あり (56 人) 68%	男性 24	女性 32
自家用車 なし (21 人) 26%	男性 10	女性 8
シェアリングで使用	男性 3	女性 0



Q 1 自動車は、購入時にリサイクル料金を事前に払う（預託する）ことをご存知ですか？

知っている	43	52.4%
知らない	39	47.6%
総数	82	100.0%

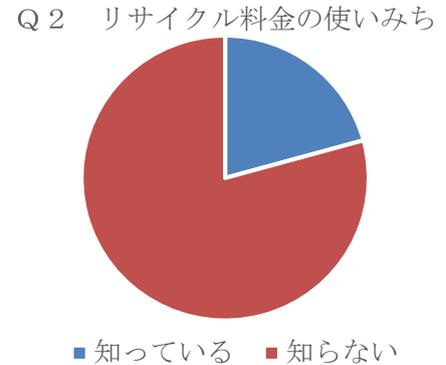
- ①知っている（43人）52% 男性 27 女性 16
 ②知らない（39人）48% 男性 14 女性 25



Q 2 リサイクル料金は、次の3品目のリサイクルに使われていることをご存知ですか？
 フロン・エアバッグ・シュレッダーダスト（ASR）

知っている	17	20.7%
知らない	65	79.3%
総数	82	100.0%

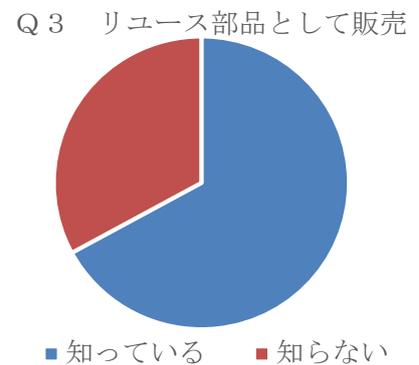
- ①知っている（17人）21% 男性 12 女性 5
 ②知らない（65人）79% 男性 29 女性 36



Q 3 使わなくなった（廃車）車から使える部品を取り、リユース部品として販売されていることをご存知ですか？

知っている	55	67.1%
知らない	27	32.9%
総数	82	100.0%

- ①知っている（55人）67% 男性 31 女性 24
 ②知らない（27人）33% 男性 9 女性 18

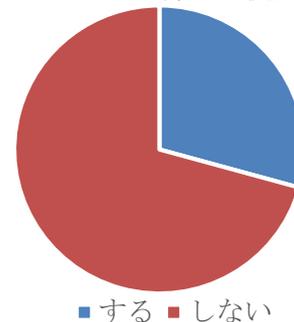


Q 4 車の修理の際、リユース・リビルト部品を使うようにお願いしますか？

する	24	29.3%
しない	58	70.7%
総数	82	100.0%

- ①する(24人) 29% 男性 17 女性 7
 ②しない(58人) 71% 男性 24 女性 34

Q 4 修理の際のリユース・リビルト部品の使用

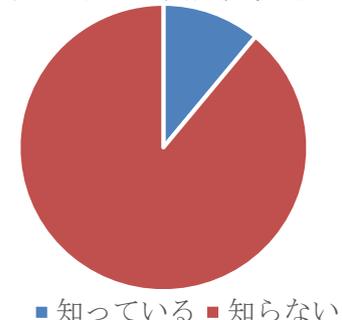


Q 5 東日本大震災や離島対策費用にリサイクル料金の特定再資源化預託金（特預金）が使われていることをご存知ですか？

知っている	9	11.0%
知らない	73	89.0%
総数	82	100.0%

- ①知っている(9人) 11% 男性 6 女性 3
 ②知らない(73人) 89% 男性 35 女性 38

Q 5 特定再資源化預託金



■設問別結果まとめ

- Q 1：リサイクル料金を預託しているということを認識している方は全体の 52%。
 男女別では、男性は約 65%の方が知っており女性に比べて認知度は高かった。女性で知っている方は 39%にとどまった。
- Q 2：リサイクル料金の使いみちについては、約 8 割の方が知らないと答えている。
 中には、てっきり自動車本体のリサイクルに使われると思っていたという方もいた。
 また、「シュレッダーダスト」という言葉は多くの方が知らなかった。
- Q 3：リユース部品については、3分の2の方が知っており、認知度が高かった。特に男性では 41 人中 31 人、4 人に 3 人は知っていると言った。
 なお、この問いで、青のシール（男性）が 40 個、赤のシール（女性）42 個となっているが、これは貼り間違いによるものと思われる。
- Q 4：この問いでは、自分の所有している車を修理する際に、リユース・リビルト部品を使うように依頼するかを尋ねたところ、しないが約 7 割という結果だった。
 しないと答えた方の多くは、そのようなことを依頼できるということ自体知らなかった。
- Q 5：特預金については、約 9 割の方が知らないと言った。説明を聞いて、良いことに使っているという素直な反応が多かった。

(10) 一般向け普及啓発に関する分析

元気ネットでは、毎年エコライフフェアに出展し、容器包装の3Rに関する普及啓発を行っている。そのブースで、時間を区切って、自動車リサイクルに関する認知度調査（シール形式）及び一般向け普及啓発を行った。

両日2時間程度の実施のため、数は100人足らずだが、男女比、年代がバランスよく、社会全体を推計するヒントになっていると思われる。

■エコライフフェア参加者からみる一般消費者の自動車リサイクル制度の認知度分析

アンケート結果をみると、全体に男性の認知度は高く、女性は低めになっている。属性の部分で、自家用車の有無について聞いているが、「あり」と答えた方は、男性24/41人、女性32/41人であり、自動車を所有している人数は、女性の方が多かったにも関わらず、自動車リサイクル制度に関する認知度では女性の方が低くなっていることから、今後、女性の認知度を上げていくことが重要となってくるのではないかと。より親しみやすく、わかりやすい普及啓発を行っていくことが肝要であると思われる。

リサイクル料金を預託していることについて、半数近くの方が知らなかった。これは、百万円単位の価格の中で、1万円前後のリサイクル料金には注意が向かないこと、また、購入の際の説明が不十分だったということも考えられる。

リサイクル料金の使いみちについても、約8割の方が知らないと答えている。Q2に出てくる「フロン」「エアバッグ」「シュレッターダスト（ASR）」については、「エアバッグ」を除いて多くの方がわかりにくいという表情であった。

その場で、「フロン」については「エアコンの冷媒で、地球温暖化などの悪影響がある」ので、きちんと回収、処理しないといけない、「シュレッターダスト」については「使用済み自動車から金属類を回収したあとに残る残渣」でこれも更に再利用されている。これらの処理にリサイクル料金は使われている、という口頭での説明を行い、意味を把握していただくように努めた。

リユース部品については、3分の2の方が知っており、アンケートの5問中最も認知度が高かった。しかし、自分の所有している車を修理する際に、リユース・リビルト部品を使うように依頼するかを尋ねたところ、しないが約7割という結果であったことから、リユース・リビルト部品活用のメリットを周知していく必要があると考える。

アンケート参加者の中に、修理の際にリユース・リビルト部品を使うように依頼することで、費用も安く済む場合が多いと知って、非常に有益な情報であり、教えてもらえて良かった、修理の際にはぜひ利用したい、良い情報をありがとうという反応もあった。こういう情報をもっと多くの方に知らせた方が良いのではないかと、という意見も聞かれた。

今後は、環境全般に対する影響に加えて、個人のメリット（費用が安い）を強調して周知すると共に、修理事業者から積極的にリユース部品での交換を働きかけるといった情報提供も必要と思われる。

■パンフレット付き小冊子の効果に関する分析

冊子については、内容には難しい部分もあるが、表紙や中に使われている犬のイラストで親しみやすく感じられ、一般の方に興味を持っていただくきっかけとして効果があったと言える。

自宅で良く読みます、このノートを見せて（良く運転する）夫に教えてあげる、という声もあり、短時間の説明では十分な情報提供は難しいが、冊子を持ち帰ることで、かなりの情報を身につけていただくことにつながったと考えられる。

■一般消費者への効果的な普及啓発方法に関する分析

予め、伝えたい点、ぜひ知っていただきたい点を5つの間にまとめ、「アンケート」という形で、普及啓発を行った。アンケートの分量（問の数）については、事前の検討でももっと知っていただきたいこともあったが、ブースでのアンケートであり、1人（1組）の方に滞在していただける時間を考え、属性+5問に絞った。元気ネットでは、これまでもこのような会場での一般向け普及啓発の経験は多数あり、概ね、1人（1組）の方にクイズやアンケートでブースにとどまっていただけの時間は5分～8分以内と認識しており、今回も経験を踏まえて作成したアンケートの分量は適切であった。

また、来場者に足を止めていただくためには、何か楽しさやノベルティグッズの提供が効果的である。今回、呼び込みの際に冊子をお見せして、アンケートにお答えいただいた方にこのノートを差し上げます、という形で集客したが、これはとても効果的だった。

代々木公園のようなオープンで大きな会場で行われる場合、環境意識が特に高い方ばかりというわけではなく、楽しそうということでやってくる家族連れなども多い。ノートの表紙にかわいい犬のイラストがあることで、お子さんが気づいてほしがり、18歳以上が対象のアンケートなので、保護者の方が一生懸命答えてくださるというケースもあった。

一般消費者向けの普及啓発として、自動車リサイクル制度の「預託」「リサイクル料金の使いみち」「特定再資源化預託金の存在と使いみち」等の基本的な部分について、まずは知っていただくということを考えたとき、今回のような「アンケート形式の情報提供」+「知識の得られるグッズ」という形はとても有効であると言える。

(11) 一般向け普及啓発に関する考察

■普及啓発活動を主体的に担える属性

イベント会場等で行う一般向け普及啓発では、対象や状況に応じて臨機応変な対応が必要となる。例えば、年齢によって選ぶ語彙や声の大きさ、話すスピードを変化させたり、混んでいるときは説明を割愛したり、また、興味のありそうな方には、個別に対応したりすることなどである。

このため、十分な知識・情報を有していることに加えて、対象の表情やボディランゲージを読み取り、瞬時に判断することが求められる。知識、情報については、一定の時間をかけて学ぶことで身につけることが可能であるが、臨機応変な対応については現場での経験が必須であるため、分野は異なっても、一般向けの普及啓発の経験があることが望ましいと言える。

■自動車リサイクル制度の理解促進に効果的な実施内容・啓発ツール

(一般消費者向け)

一般向けとしては、情報量をあまり欲張らず、ポイント絞ったもの、クイズやアンケートのような短時間で終わり、楽しさや驚きを感じられるものが効果的と思われる。

元気ネットが作成した小冊子の奇数ページに掲載されているミニ情報のような、1～2行で表現されたものであれば、理解もしやすく、イラストの活用で親しみやすく感じられるのではないかと。

また、エコライフフェアでは、アンケート形式で行ったが、同じ内容を伝えるのでも、クイズ形式のものもあれば、より楽しく、また印象に残る形で情報提供ができるものとする。

■今後さらに検証が必要なこと

同じ内容、情報を伝える場合でも、対象によってどのような留意点があるのか、どのような方法が効果的なのか等について、更なる材料集め、情報収集が必要である。

これには、実際の見学会や普及啓発等の現場での「観察」が有効と考える。一步引いた立場から、客観的に観察し、記録することができれば、より多くの情報が得られると思われる。ただ、観察に専念できる「観察」担当を設けることは難しいので、これまでと同様に元気ネットができる範囲で参加者の言動を観察し、その中から今後につながる材料等を集めていく。

2.3 本年度実施結果に関する考察

2.3.1 普及啓発を主体的に担える属性

2017年度の参加者は、すでに地域で多様な3Rに関する活動経験の長い地域リーダーであったが、自動車リサイクルに関する情報から遠い状況であることがわかった。

とはいえ、初年度の見学と学習会の参加者20名は、地域で長年にわたり有機農業、リユースショップ運営、クリーンアップ、ファイバーリサイクル、廃棄物、エネルギー、消費者問題などのNPOや団体の運営に関わっている責任者等であり、普及啓発の経験が豊富な方ばかりでありその人選は的確であり大きな成果につながった。

成果のひとつは、各自のこれまでの活動歴や経験から、疑問点や発言内容が参加者自身では気が付かない事をお互いに学び合えたことが、当日のアンケート回答から読み取れる。また、質疑応答、アンケートのまとめを後日、参加者全員にメールで共有したことも効果的だったと思われる。参加者は開催後にも何度かのやり取りが発生し、誤解の解消や理解を深めることが必要になるため、メールのやり取りができる事が最低条件となる。

普及啓発を主体的に担える人材は、地域での様々な活動経験があり、所属団体や参加組織において、情報発信ができる場や機会がある人、または個人的に様々な活動に参加していて、人的ネットワークを持っている人、さらに講座等の講師依頼がある人が効果的である。それらの方々は、発信力があり知的好奇心が強く、新しい情報取得意欲が高い方々と言えるからである。ただし、自動車リサイクルに関する知識は不十分であることから、複数回の研修の実施により知識とスキルを上げていくことが必要と考える。

2.3.2 自動車リサイクル制度の理解促進に効果的な実施内容・啓発ツール (地域リーダー向け)

成果のふたつ目は、当日配布した小冊子が好評で、これを使った普及啓発を「自分でもやっていこう！」とってくれた方が多数いたことである。参加者は、発信力があり知的好奇心が強く、新しい情報取得意欲の高い方々であることから、地域での配布希望数は、合計1,685冊で、それだけ新しく情報を得る方が増え、自動車リサイクル制度の認知度向上に大きく貢献したと言える。学んだだけでは、なかなか人に伝えるのは難しいが、単なるパンフレットや真面目一方のレポートではないところが魅力だったのか、「自分でもできる、やってみよう！」と思わせる力が冊子にあったと思われる。それは作成の意図したところで、今後、ツールのひとつとして大いに活用できることがわかった。

また、見学会の参加者から別の非常に説明の難しい別テーマで学習会を開催するので、関心のない方向けに知ってもらうためのツールとして、この小冊子を見本にして冊子を作成したいという希望があったことから、このような小冊子の有効性が高いことがわかる。

しかし、1回の見学と学習会で正しく理解できたかどうかの不安はあり、今後作成するツールに合わせた使用マニュアルを備えれば、更に活用の幅が広がり正確な情報発信につながると考えている。

2.3.3 自動車リサイクル制度の理解促進に効果的な実施内容・啓発ツール (一般市民向け)

エコライフフェアでのアンケート式普及啓発の実施でわかったことは、イベント会場では時間的制約があることと対象者の自動車リサイクルに関する認知度の事前把握が困難だということである。イベント会場での実施時間はせいぜい10分程度が限界であり、テンポよく進め、聞きなれない言葉を使わない等、瞬時に相手との対話を成立させられるコミュニケーション能力が必要とされる。

また、翌年度の自動車リサイクル施設見学と学習会の地域開催においては、参加者の活動歴や経験にはバラつきが予想されることから、参加者に合わせた啓発ツールの説明が必要である。本事業では同じパンフレット付小冊子を使うので、説明時間を長くとり、より詳細に、その都度理解度の判断をしながら解説する必要があると考えている。

見学会や学習会という形ではもちろんのこと、一般向け普及啓発においても、今回作成した小冊子の有効性が高いことは共通している。

2.3.4 学習会／研修会参加者が普及啓発活動を主体的に担うようにするために 行うべきこと

2017年度の参加者20名は、地域で長年にわたり有機農業、リユースショップ運営、クリーンアップ、ファイバーリサイクル、廃棄物、エネルギー、消費者問題などのNPOや団体の運営に関わっている責任者等であり、普及啓発の経験が豊富な方ばかりであり、普及啓発の機会も有している。しかし、今後、地域で情報発信の機会を何人程度に何回お願いしますという依頼をしているわけではなく、あくまで自主的に実施することを期待しているに過ぎない。そのため、参加者20名の自主的な活動にはかなりの差があると予想される。特に、有機農業や消費者問題、エネルギーをテーマに活動している方には、廃棄物や3Rへの関心度合いが低いと思われるため、ご自身の活動が優先されることが思料される。

したがって、1回の学習会では、個人の力量とやる気に委ねることになるため、以下の研修制度が必要と考える。

第1段階 <気づき>としてのリサイクル施設見学会

第2段階 <学び>としての意見交換会の徹底

第3段階 <伝える>手段としての、ツールの活用やクイズ開発

上記第1～3段階を踏まえ、気づき+学びの第2段階までで研修を修了させる場合は、参加者の学びの深化にはつながるが、自ら普及啓発を実施しようとするところまでは繋がらない場合も考えられる。自分事として、地域でこの課題の普及啓発をする意欲の増進に繋ぐためにも、第3段階として、どのように人に伝えるか参加者に考えてもらうことで、伝えるべきことは何か、そして、全体像の中でどういう意味を持つのか、真剣に調べ、学びを深めるきっかけにもなる。

なお、この1段階から3段階を何回の研修会で実施するかは、計画する場合の時間的な余裕、あるいは制約に従って柔軟に考えられる。ただし、自動車リサイクルの情報が少ない現状の中で、この3段階を1日で済ませるには、性急すぎるとも考えられる。第1段階と第2段階は同じ日に実施し、第3段階は1週間後くらいに実施することで、地域リーダーとして取り組む心の準備ができるとも考えられる。

経費としては、地域で普及啓発を実施する際には、会場費や資料等、実費経費もかかるため、多少の人件費を加えた事務局経費の支払いが考えられる。

さらに、翌年度開催の2地域の参加者が自主的に普及啓発を担うには、参加者の中から適していると思われる方を人選して、より丁寧で時間をかけた研修が必要であると思われる。

2.3.5 今後さらに検証が必要なこと

2017 年度事業の参加者が、地域で小冊子を使用した結果の報告書から、新たな課題が見えてくると思われる。

また、2018 年度開催の 2 地域参加者の当日アンケートから、見学会・学習会で効果的だったこと、理解できなかったこと、説明不足だったこと等が明確になるので、地域リーダー向けとごく一般向け普及啓発の違いをマニュアルに活かすための分析が必要と思われる。

なお、見学と学習会の様子やアンケート集計全文及び、一般向け普及啓発の様子は、当 NPO のホームページで発信している。今後の当 NPO 活動において、本事業から見えてきたことをどのように活かしていくかを検討したい。

http://www.genki-net.jp/3r_report/automobile/

3. 今後の事業展開の方向性

3.1 今後の方向性、実施スケジュール

3.1.1 今後の方向性

2017年度の事業では、元気ネットとこれまでつながりのある全国各地で3R等に取り組んでいる地域リーダーに本学習会の案内をしたところ、早くから順次参加の意思表示があった。ほとんどが「自動車リサイクルに関しては知らないので、ぜひ参加したい、現場を見る機会がなかったの」という参加理由だったため、いい機会を設けられたと思い、情報提供の内容について検討を重ねた。

意見交換では、「自動車リサイクル制度を知ることで個人や社会にどんな影響、変化があるか？」を予定していたが、質問や意見が多く、時間切れとなり行きつかなかったことは残念であった。帰りのバス車中で全員に感想を聞いたところ、全員が「大変勉強になった」「知らないことがたくさんあった」等の発言をしており、実りの多い体験型学習会になったと思うが、一方で正しく理解できたかどうかの懸念もあり、あと数回このような機会があれば、理解が深まり、地域での情報発信の担い手として任せられると思った。

全国各地で3R等に取り組んでいる地域リーダーでさえ、自動車リサイクル制度に関しては知らないことが多いことが分かったと同時に、リサイクル現場を見ることで納得できたことという感想もあり、今後の展開に期待できる。

今後の方向性は以下の通り。

(1) 継続的な学習会の開催

今後、地域で普及啓発を担っていただく人向けに、少なくとも年2回程度の継続的な学習会や見学が必要である。自動車リサイクルに関する最新情報の共有とテーマに沿った深掘りをすることで熟知できる。それにより、質問にも対応できるようになることが期待できると思われる。

(2) 学習会実施方法の工夫

これまでも元気ネットでは、参加者の発言や感想を聞くことでの「新たな気づき」を得ることを大事にした「相互交流学び合い」の場づくりを数多く設定してきたが、ふりかえりのために当日の質疑応答やアンケート結果のまとめを参加者全員にフィードバックすることで、参加者の「新たな気づき」があり、情報発信の担い手としての深化につながったと言える。

また、参加者はできるだけ多様な活動、属性の違う人が集うことで、相互交流の幅が広がり効果的である。

(3) 学習会向け資料の工夫

学習会向け資料として、パンフレット付小冊子を作成した。初回の学習会で配布した情報提供用小冊子の作成に関しては、前述の2.2.2 パンフレット付小冊子(そうだったのか！自動車リサイクル)の作成(P23)にあるように、各ページの情報が印象に残るような工夫をした。そして、その資料をそのまま地域でも使え、すぐに破棄されないようにノート形式のものにした。

参加者の反応から、イラストの活用は難しい内容を親しみやすく感じさせること、写真・グラフ・図などは見るだけでわかり理解促進に役立つこと、短文の情報などは読みやすく印象に残りやすいこと、等が見て取れる。

また、別添のアンケートに詳細の記載があるが、各地域での活用希望数が10冊から500冊と多いため、数を調整の上4月末から5月上旬に発送した。発送の際には、いつ、どのような機会に、配布対象者、反応感想等を回答いただく報告書を同封した。

(4) 普及啓発用マニュアルの作成

参加者からのアンケートや当日の質問をヒントにして、地域での情報発信の助けとなるマニュアル作成に活かしていく。

2018年度も予定通り事業を継続し、九州、中部エリアで自動車リサイクルに関する情報発信の担い手を増やしていきたい。担い手の方々に、よりの確な普及啓発をしていただくために、マニュアルの作成は必須であると思っている。

3.1.2 実施スケジュール

(工程表)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
①施設見学の依頼・打ち合わせ	●												
③参加呼びかけ		←→	←→										
③地域開催準備及び実施		←→	←→	●									6日 北九州 24日 愛知県
②意見とりまとめ					←→								
②ツール・マニュアル作成						←→							
④⑤⑥⑦普及啓発・情報発信	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	
報告書作成			●					●		←→			

- ① 自動車リサイクル施設の見学と地域開催の学習会打ち合わせ。
- ② 地域で周知活動をする際のツールやマニュアル、クイズ形式の問題等の検討。
- ③ 地域開催学習会（2地域）の参加者募集と実施（学習会は6～9月頃を予定）。
- ④ 新宿西口イベント広場等、これまで3Rの普及啓発を実施していた場所でブース出展し、来場者にアンケートやクイズ形式で自動車リサイクルの周知活動を実施する。
この時、29年度の自動車リサイクル施設見学に参加した首都圏の方にも参加要請し、一緒に行くことで自動車リサイクルに関する理解の深まりと普及啓発の経験を積んでもらう。
- ⑤ 30年度事業についても当NPOのホームページ、各種講座等を活用して発信する。
- ⑥ できたツールやマニュアルを参加者に届け、地域での情報発信で活用してもらう。
- ⑦ 当NPOのホームページにツールやマニュアルをアップし、誰でも利用できるようにする。

3.2 想定する事業内容

3.2.1 2地域における体験型学習会の開催

2月19日の学習会参加者と一緒に実施する形で、7月6日（金）に北九州で、7月24日（火）に愛知県で体験型学習会を開催予定。

2017年度初回の参加者に北九州と中部エリアの地域開催事務局を依頼し、参加者募集や準備を連携して実施する。両地域とも前日に打ち合わせ時間を設け、初回の反省を活かした運営と進行を行う。地域の参加者は20名で、できれば初年度参加の数名にも参加案内をし、自動車リサイクル制度と現状を熟知していただいた上で、地域での情報発信のにない手になっていただく。

また、事後アンケートで小冊子のわかりにくいという感想のあった部分については、丁寧な説明をする予定。

ツール・マニュアル作成に関しては、今年度の地域開催参加者の意見も聞きながら、地域事務局と相談して地域で使いやすいものを作成する。

普及啓発、情報発信に関しては、エコライフフェアや新宿西口イベント広場等、これまで3Rの普及啓発を実施していた場所で実施するとともに、当NPOのホームページやセミナー等の機会を利用して発信する。

3.2.2 今後の普及啓発におけるツールやマニュアルの作成

今後の地域開催を念頭に、最低限の項目が必要となる。そこで、今後地域でこのような普及啓発の機会を設ける際のツールに必要な要件として、以下の項目があると考える。

【普及啓発ツールの必要要件】

1. 自動車リサイクル法制定のねらいと、仕組み、その特徴
2. 自動車所有者や市民の役割
3. 99%リサイクルされている、自動車リサイクルの実施フロー図
(元気ネット作成「そうだったのか！自動車リサイクル」冊子の表紙見返し見開きの内容の詳細)
4. 実施の課題と、どう解決してきたか、その流れ
5. より良い制度に向けた新しい方向性
上記1～5を踏まえ、この内容を明確に示す。あるいは、Q&A方式で具体的に示し、全体が伝わるように配慮する。

次に、地域リーダーが今後、各地で体験型の学習会を開催することを想定した開催マニュアルを提示することが、地域での学習会の広がりにつながると考えられ、その企画に際しての必要要件をまとめる。

【地域での体験型普及啓発の開催マニュアルの必要要件】

第1段階 <気づき>としてのリサイクル施設見学会

第2段階 <学び>としての意見交換会の徹底

第3段階 <伝える>手段としての、ツールの活用やクイズ開発

上記第1～3段階を踏まえ、気づき+学びの第2段階までで研修を修了させる場合は、参加者の学びの深化にはつながるが、自ら普及啓発を実施しようとするところまでは繋がらない場合も考えられる。自分事として、地域でこの課題の普及啓発をする意欲の増進に繋ぐためにも、第3段階として、どのように人に伝えるか参加者に考えてもらうことで、伝えるべきことは何か、そして、全体像の中でどういう意味を持つのか、真剣に調べ、学びを深めるきっかけにもなる。

なお、この1段階から3段階を何回の研修会で実施するかは、計画する場合の時間的な余裕、あるいは制約に従って柔軟に考えられる。ただし、自動車リサイクルの情報が少ない現状の中で、この3段階を1日で済ませるには、性急すぎるとも考えられる。第1段階と第2段階は同じ日に実施し、第3段階は1週間後くらいに実施することで、地域リーダーとして取り組む心の準備ができるとも考えられる。

3.3 事業の実施体制

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネットの以下のメンバーが、一貫して企画から実行までを行う。

事業総括：崎田裕子（理事長）

事業責任者（進捗管理）：鬼沢良子（事務局長）

副責任者：足立夏子

経理担当：磯田都美子

事務局：小川友香・釜山恵利子・中岡悦子

以上

自動車リサイクルの学習会&解体工場見学会 次 第

自動車リサイクルに関する最新情報やリサイクル料金・特預金の使われ方等を知っていただき、めったに機会のないリサイクルの現場を体験していただきます。そして、今後の普及啓発に関し全国の地域リーダーの皆さまにご意見を伺うための意見交換会です。

日 時： 2018年2月19日（月）10：30～16：00

参 加 者：別紙名簿

プログラム：開会 趣旨説明

挨拶 メタルリサイクル(株)代表取締役社長 猪鼻 秀希 氏

自己紹介 1分×21名

1. 自動車リサイクルの資源化実績と現状報告

環境省 環境再生・資源循環局 総務課

リサイクル推進室 河田 悠 氏

昼食

2. メタルリサイクル株式会社概要説明（ビデオ）

3. 工場見学

4. 普及啓発に関する意見交換会 等

終 了：15時30分 バスで移動

解 散：東武東上線川越駅 16時頃の予定

本事業は、公益財団法人自動車リサイクル高度化財団の普及啓発事業に採択され実施するものです。[\(https://j-far.or.jp/public/\)](https://j-far.or.jp/public/)

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット

自動車リサイクル法について

平成30年2月

環境省

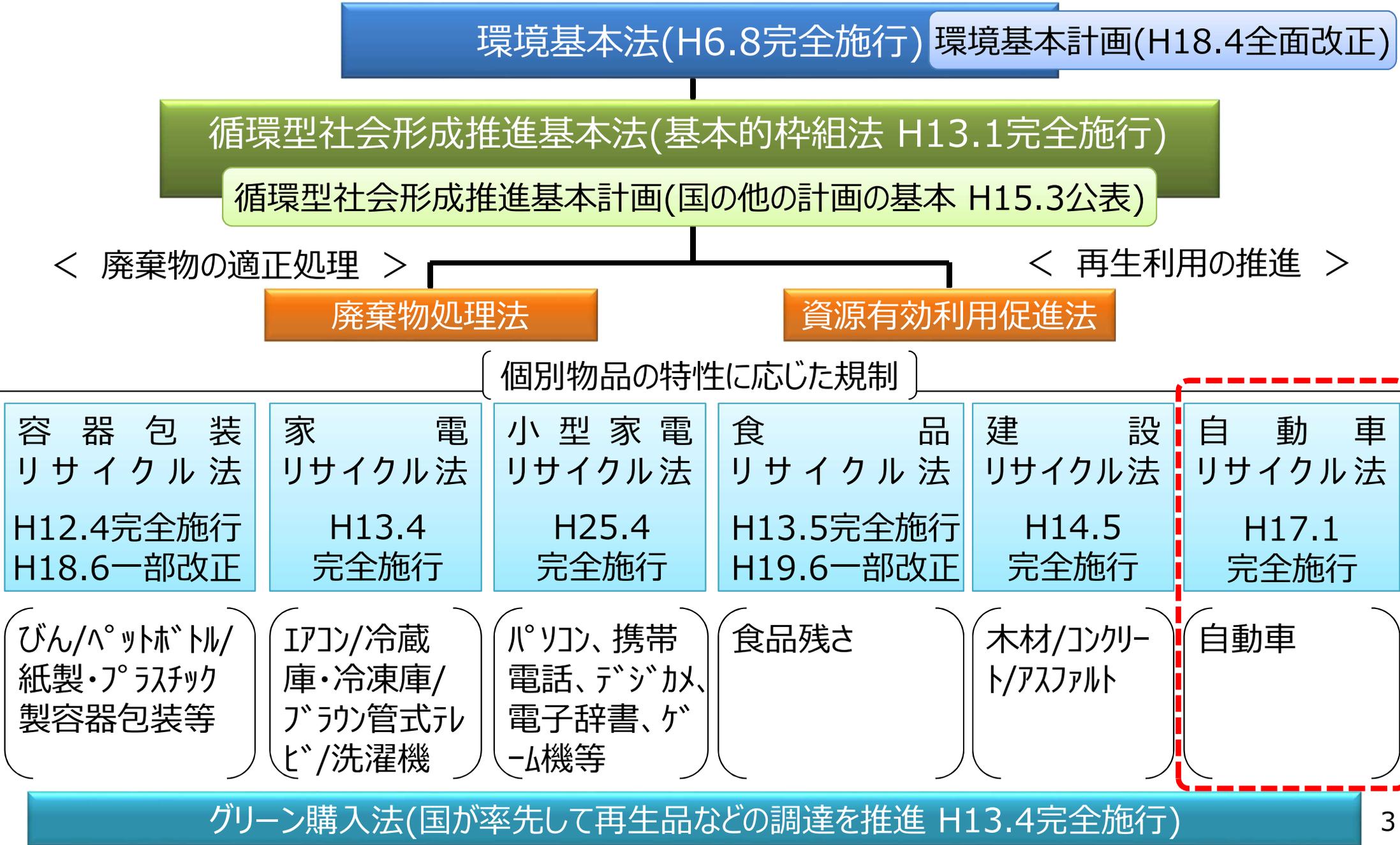
環境再生・資源循環局総務課 リサイクル推進室

1. 自動車リサイクル法の概要

2. 自動車リサイクル法の施行状況

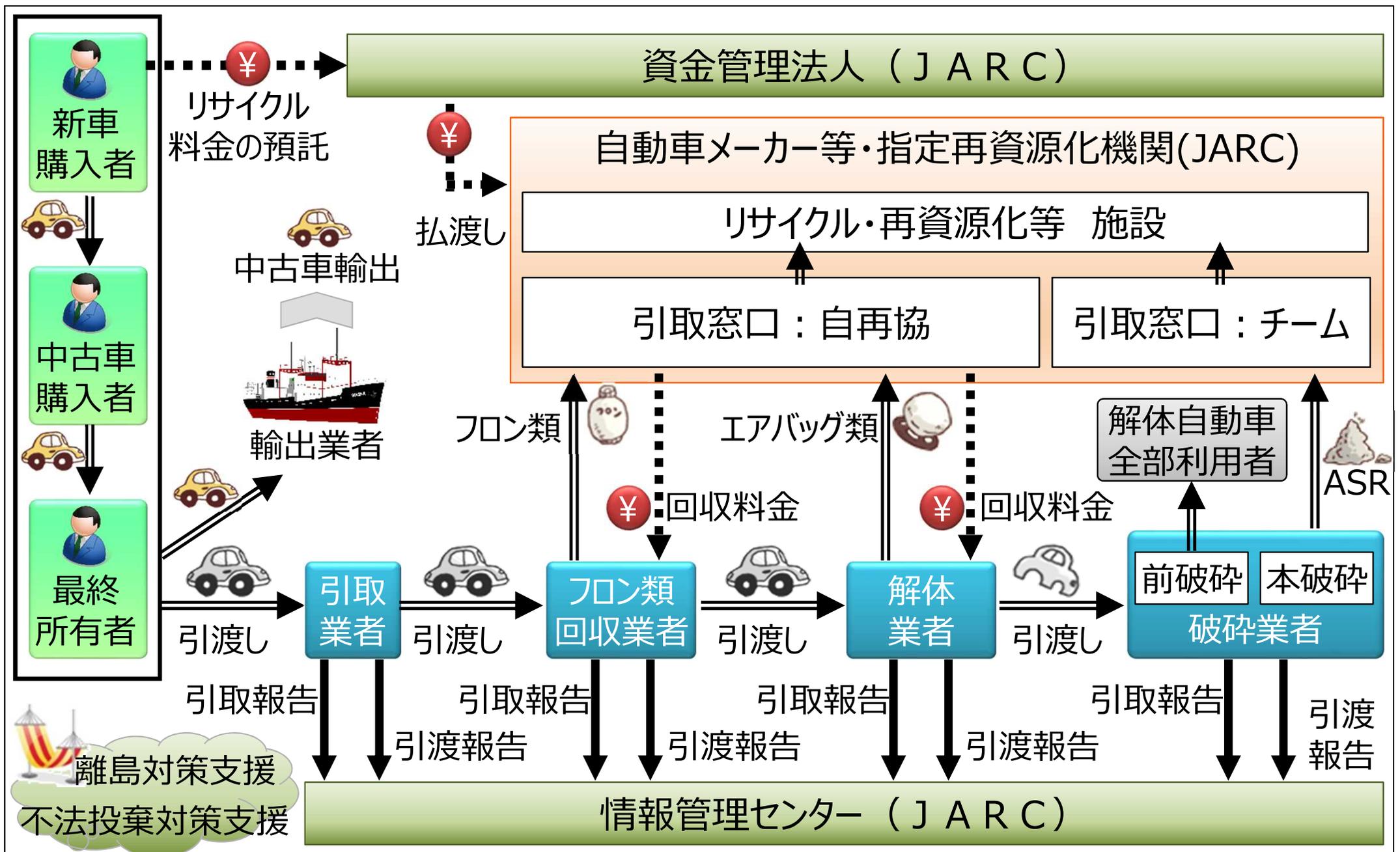
1. 自動車リサイクル法の概要

1-2. 自動車リサイクル法と循環型社会を形成するための法体系



1. 自動車リサイクル法の概要

1-5. 自動車リサイクル法（平成17年1月1日施行）の概要



1. 自動車リサイクル法の概要

1-1. 自動車リサイクル法制定の背景

○鉄スクラップ相場によって廃車の価値が大きく変動

廃車から回収される鉄スクラップの相場により、廃車の価値が大きく変動し、処理費用が必要となる場合と、処理費用を廃車の価値の中でまかなえる場合が入れ替わる。2000年に入り、逆有償問題が拡大。

○最終処分場の逼迫と不法投棄・不適正処理の発生

国内での最終処分場の逼迫により、埋立コストが上昇。スクラップ市況の低迷も相まって、不法投棄が発生。

さらに、地球環境問題、安全確保の観点から、フロン放出の防止、エアバッグの誤処理による事故発生の防止の必要性。廃バッテリー、廃タイヤ、廃油・廃液の適正処理の必要性。

○廃車を処理する際に遵守すべきルールが不明確

廃車は廃棄物となる可能性があるが、有価なら廃棄物処理法の適用を受けないため、排出業者は廃棄物処理法の適用を受けたり、受けなかったりという歴史がある。

1. 自動車リサイクル法の概要

1-1. 自動車リサイクル法制定の背景

参考. 豊島（てしま）事件

1970年代から、不法事業者が香川県豊島に自動車由来のシュレッダーダストを始めとする60万トンもの産業廃棄物を不法投棄。90年代に問題が顕在化。

現状回復には、約10年、約500億円を要する見込み。これを受け、1996年にシュレッダーダストの処分について規制が強化された。

この結果、処分場が逼迫し、最終処分費用が高騰。不法投棄等が社会的問題に発展した。

香川県豊島・全景



1. 自動車リサイクル法の概要

2. 自動車リサイクル法の施行状況

2. 自動車リサイクル法の施行状況（概要）

（1）自動車メーカー等による再資源化等の実施状況（H28年度）

➤ 使用済自動車引取台数 310万台（平成27年度：316万台）

※平成23年度に、法施行以降初めて300万台を下回ったが、平成24年度には例年並みに回復

➤ 自動車メーカーの3品目の引取状況

品目	フロン類	エアバッグ類	ASR
引取報告件数	2,701,536	2,373,279	2,813,660

➤ 再資源化状況

ASR、エアバッグ類のリサイクル率は共に90%以上の水準で推移



● ASRのリサイクル率（平成27年度時点での目標 70%）

法施行時（平成17年度） 61.8% → 平成28年度 97.3～98.7%

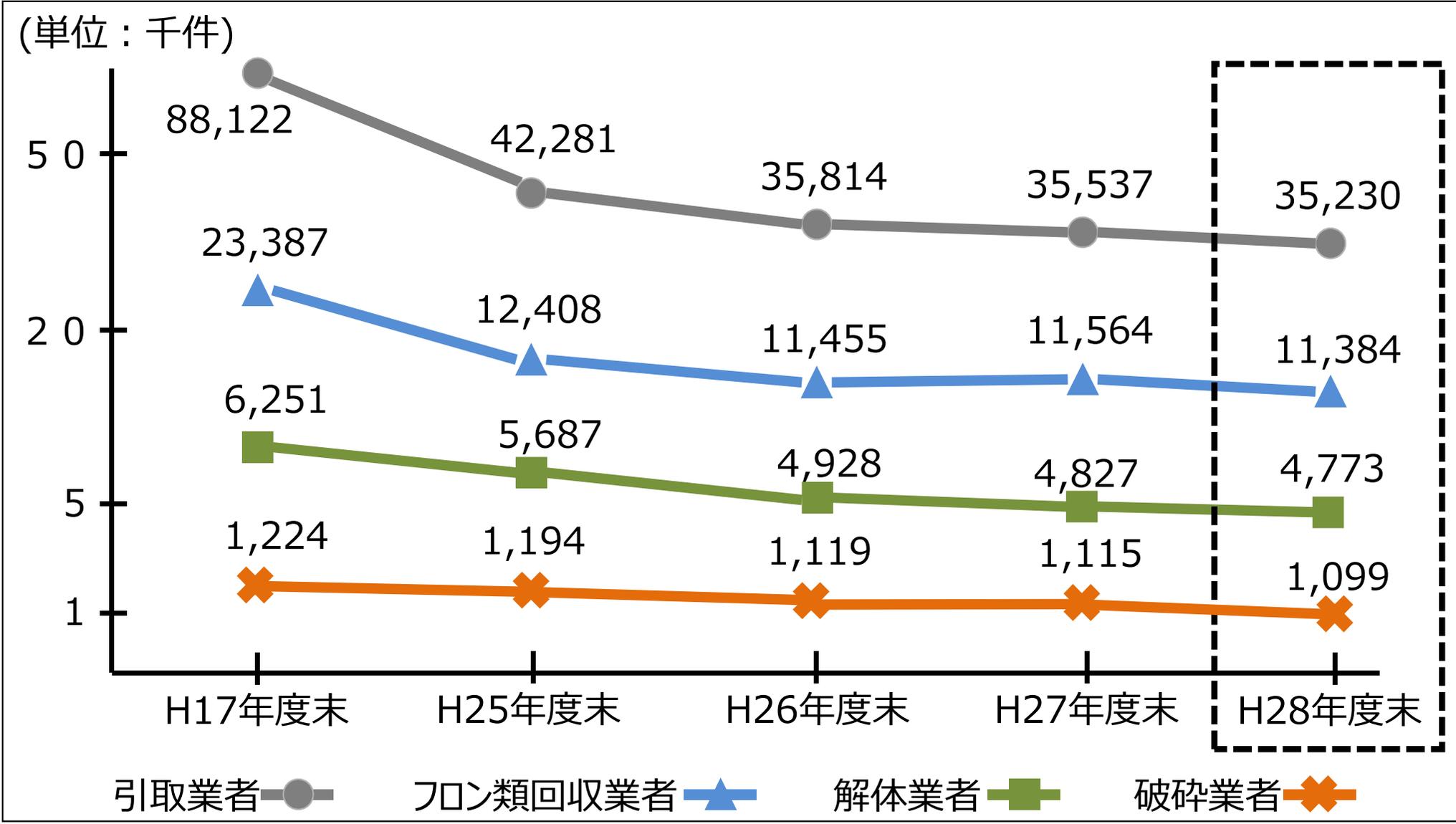
● エアバッグ類のリサイクル率（平成27年度時点での目標 85%）

法施行時（平成17年度） 93.4% → 平成28年度 93～94%

2. 自動車リサイクル法の施行状況（概要）

(2) 自動車リサイクル法の業者別の事業者登録・許可状況（H28年度）

➤ 登録・許可は直近4年間ではわずかに減少傾向



2. 自動車リサイクル法の施行状況（概要）

（3）リサイクル料金の預託状況

①平成28年度 預託別実績

	新車登録時	引取時	合計
預託台数	5,076,067	60,457	5,136,524
預託金額（千円）	53,165,484	318,877	53,484,361

②平成28年度 預託台数及び預託金額残高

預託台数（台）※	預託金額残高（千円）
79,444,732	853,325,252

※後付装備は除く

③平成28年度 輸出返還の状況

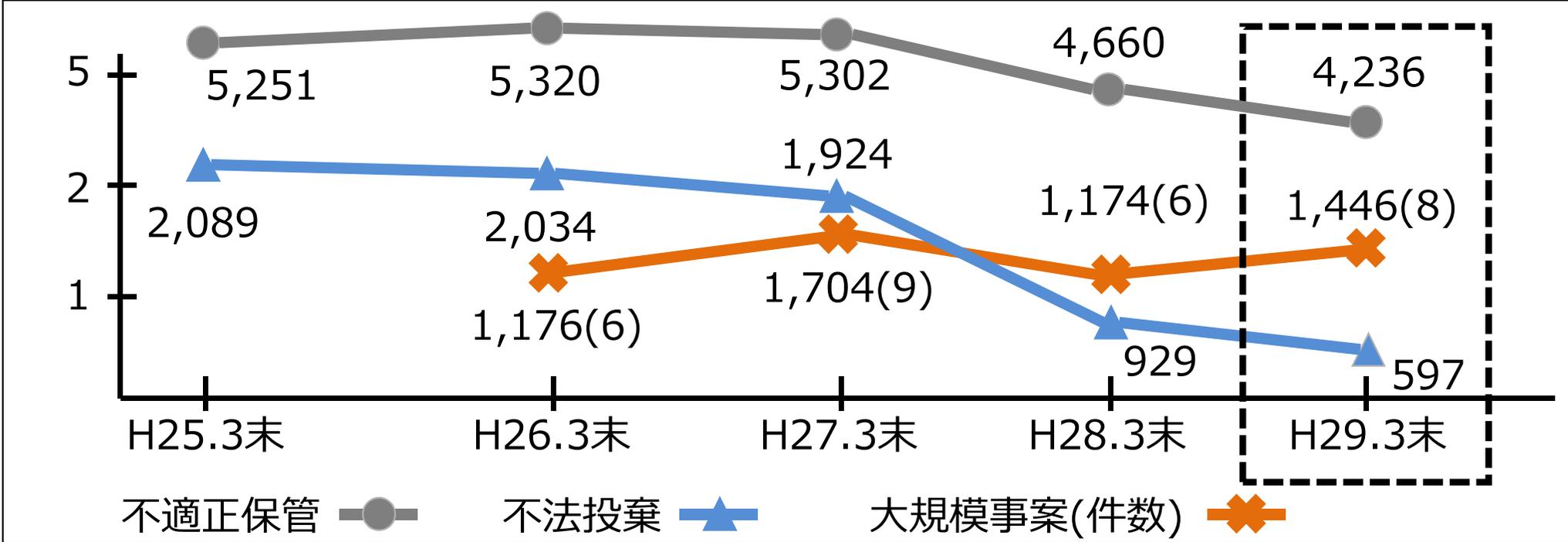
輸出による返還台数（台）	預託返還金額（千円）
1,342,526	16,875,952

2. 自動車リサイクル法の施行状況（概要）

(4) 不法投棄、不適正保管の状況

▶ 不法投棄・不適正保管の実績（平成28年度）

(単位：千台)



		不適正保管 (台数)	不法投棄 (台数)	合計 (台数)	大規模事案	
					件数	台数
法施行時	H16.9	195,860	22,499	218,359	450	131,709
	H17.3	122,599	17,837	140,436	258	72,516

2. 自動車リサイクル法の施行状況（概要）

（4）不法投棄、不適正保管の状況

➤ 不法投棄・不適正保管の実績 内訳（平成28年度）

	2016.3	2017.3				
			100台以上	10台以上	10台未満	
不適正保管(台)	4,660	指導・対応中	4,072	1,446(8)	2,182(75)	444(137)
		その他	164	0(0)	120(4)	44(24)
		小計	4,236	1,446(8)	2,302(79)	488(161)
不法投棄(台)	929	指導・対応中	194	-	-	194(135)
		その他	403	-	-	403(251)
		小計	597	-	-	597(386)
合計	5,589	4,833	1,446(8)	2,302(79)	1,085(547)	

※ 括弧内は事案数

2. 自動車リサイクル法の施行状況（概要）

（5）離島対策の状況

➤ 離島対策の実績

- ✓ 平成28年度：85市町村における、21,873台の処理に対し、支援を実施。
- ✓ 平成29年度：81市町村における、24,231台の処理への支援を計画。

※ 離島対策支援事業については、第三者委員会である離島対策等検討会において、事業の業務内容及び効率性について審議を行っている

[A券] 預託証明書 (リサイクル券)

(車両種)

リサイクル券番号	XXXX-XXXX-XXXX
車台番号	△△△-XXXXXXXXXX
車名	○○○○

(料金種)

シュレッダーダスト料金	¥
エアバック類料金	¥
フロン類料金	*****
情報管理料金	¥
預託金額合計	¥

財団法人
自動車リサイクル促進センター

0000年0月0日発行

事務処理番号: 0-0000000000<05>

※本券 (A券) は車両種記載の車台番号の車両にのみ有効です
 ※料金種で「*****」と表示されている項目はリサイクル料金が預託されていない装備です。使用済自動車引渡時に装備がある場合はリサイクル料金の追加預託が必要です。

<使用済自動車引渡時、引取業者切離し>

[B券] 使用済自動車引取証明書

引取日: 年 月 日

リサイクル券番号 (移動報告番号)	XXXX-XXXX-XXXX
車台番号	△△△-XXXXXXXXXX
車名	○○○○
預託金額	¥ (消費税込み)

<引渡者>

氏名・名称

<引取業者>

登録番号

氏名・名称

印

事業所名称

所在地

TEL

※本券 (B券) は使用済自動車の再資源化等に関する法律第9条の規定により、使用済自動車を引取った際に同法第80条の規定に基づき当該使用済自動車の引取りを求めた者に交付する書面となります。

<受領証 (C券) 利用時切離し>

[C券] 資金管理料金受領証

リサイクル券番号	XXXX-XXXX-XXXX
車台番号	△△△-XXXXXXXXXX
車名	○○○○

受領金額
¥
(消費税込み)

財団法人
自動車リサイクル促進センター

0000年0月0日発行

事務処理番号: 0-0000000000<05>

[D券] 料金通知書兼発行者控

リサイクル券番号	XXXX-XXXX-XXXX
車台番号	△△△-XXXXXXXXXX
車名	○○○○

支払金額合計

¥

シュレッダーダスト料金

¥

エアバック類料金

¥

フロン類料金

情報管理料金

¥

資金管理料金

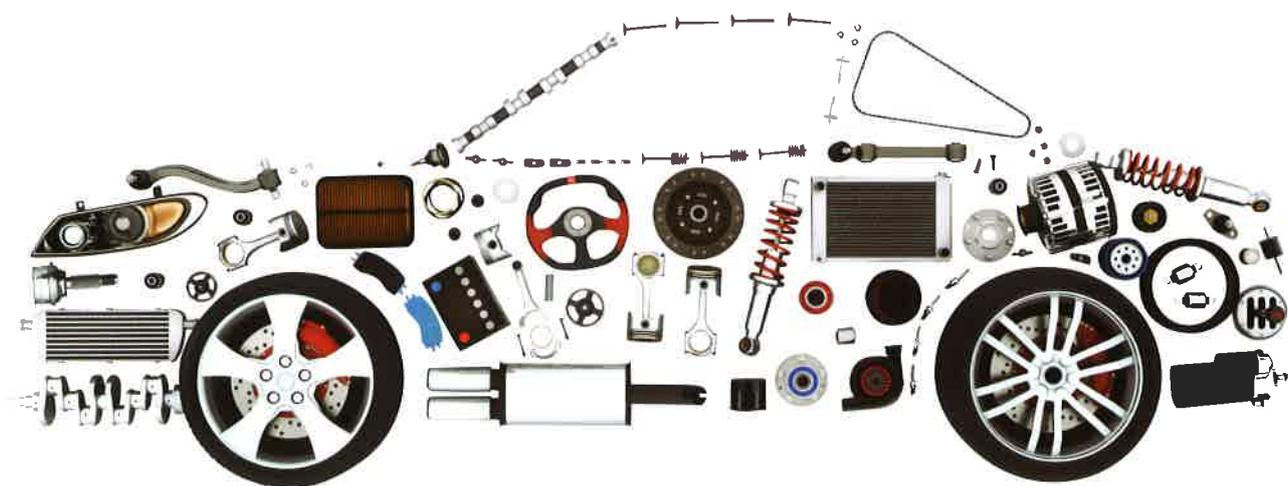
¥

財団法人
自動車リサイクル促進センター

0000年0月0日発行

使い終わっても99%が資源に。

循環型社会を目指した自動車リサイクルの 取組と実績を知る10の質問

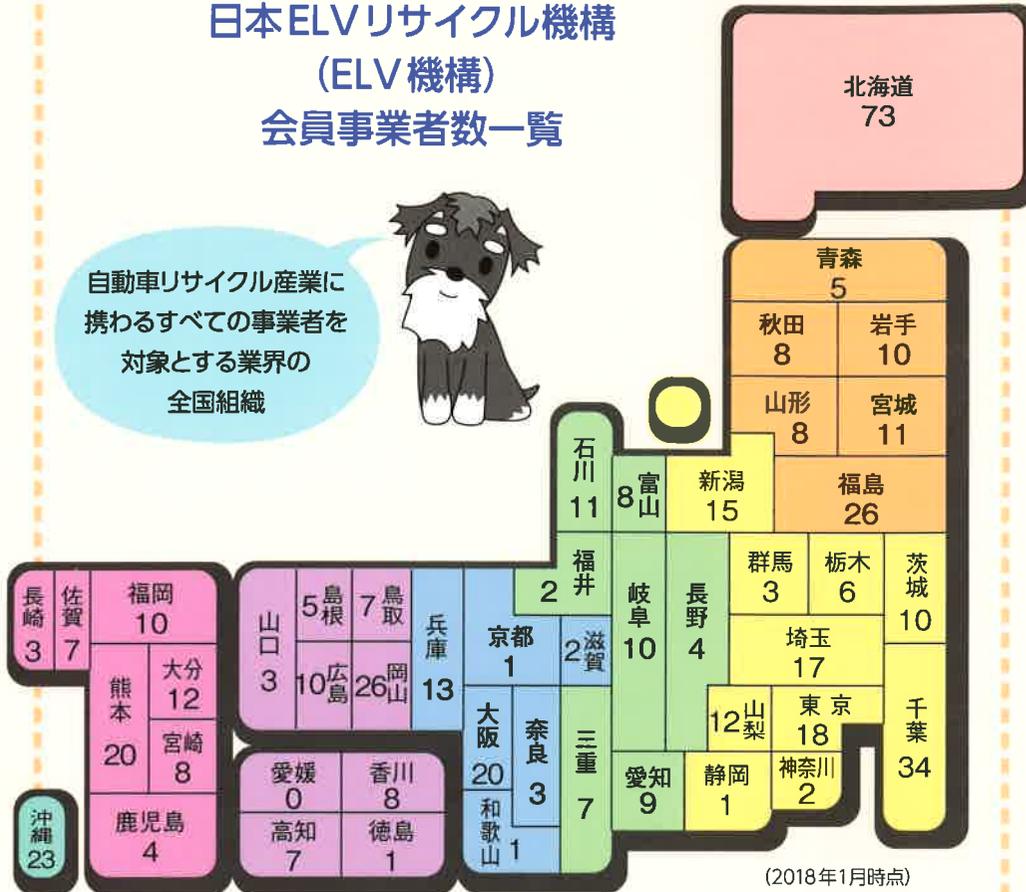


公益財団法人自動車リサイクル促進センター
Japan Automobile Recycling Promotion Center



日本ELVリサイクル機構 (ELV機構) 会員事業者数一覧

自動車リサイクル産業に
携わるすべての事業者を
対象とする業界の
全国組織



(2018年1月時点)
出典：ELV機構HPより



NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6-510

TEL:03-6300-5157 FAX:03-6300-5158

E-mail:info@genki-net.jp

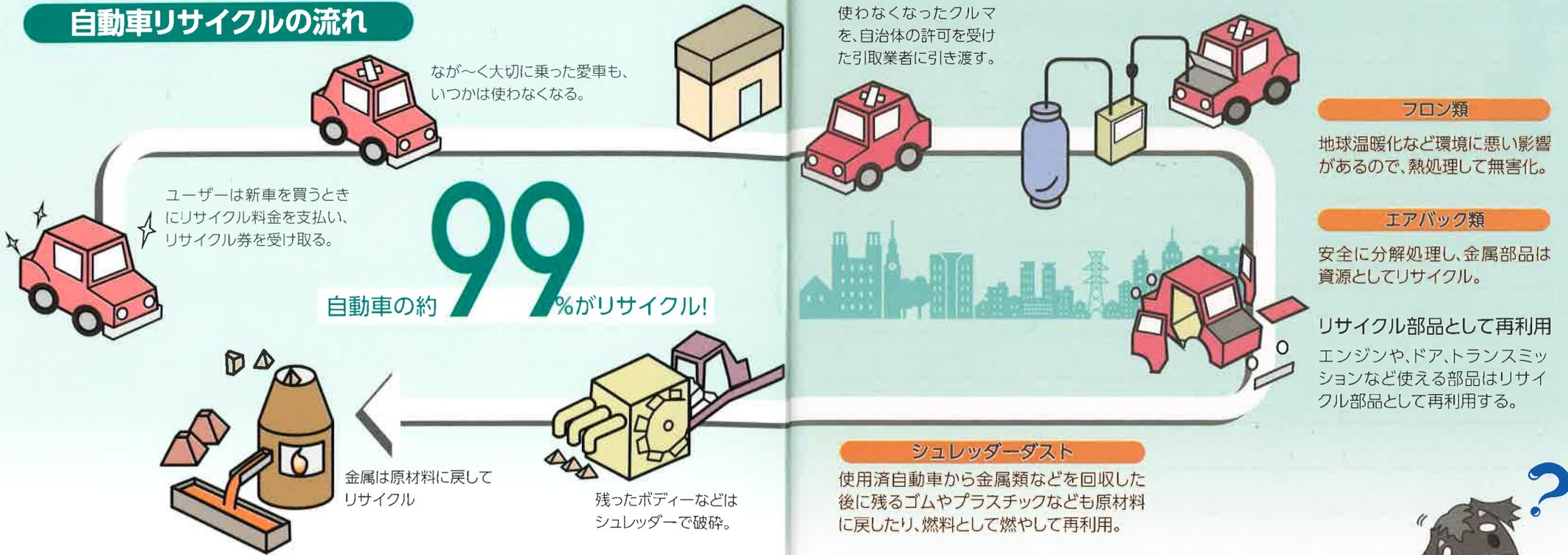
そうだったのか! 自動車リサイクル



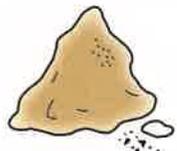
RECYCLING

このノートは自動車リサイクル高度化財団の普及啓発事業として、
自動車リサイクル促進センターのデータ(2017年7月)とHPを基に元気ネットが作成しました。

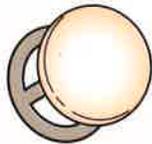
自動車リサイクルの流れ



ユーザーが支払ったリサイクル料金により処理する3物品



シュレッダーダスト



エアバッグ類



フロン類

リサイクル料金の内訳例

6,000円〜18,000円程度

※リサイクル料金額は、自動車の種類によって変わります。

シュレッダーダスト料金	エアバッグ類料金	フロン類料金	情報管理料金	資金管理料金
5,290円	1,930円	1,650円	130円 & 290円*	

(例) 9,000円 = 5,290円 + 1,930円 + 1,650円 + 130円 & 290円*

※使用済自動車の引取等の場合は410円

リサイクル料金はどんなふうに使われているのかな?

あなたが支払ったリサイクル料金で、クルマが適正にリサイクルされています

年間で約300万台(2016年度)にも上る使用済自動車。埋め立て処分場の逼迫や最終ユーザーが引取業者に費用を支払った上で使用済自動車を引き渡す取引が進んだことによる不法投棄や、フロン類・エアバッグ類の不十分な処理などの懸念が出てきたことで2005年に法律に基づく「自動車リサイクルシステム」が本格スタート。ユーザーが新車購入時に所定のリサイクル料金を支払うという仕組みが出来上がりました。そのリサイクル料金はクルマのリサイクル処理に要する費用として適正に使われ、現在では約99%のリサイクルが可能となりました。

リサイクル部品としての再利用は地球環境への負荷低減にもつながる

使用済自動車から取り外されたエンジンやドアといった部品は、リサイクル部品として再利用されます。これは限りある資源の有効活用であり、新品部品よりも経済的な点も見逃せません。使用済自

！ 動車は無駄なく再利用できる有用資源の代表格です。また、廃棄物の減少はエネルギー使用を抑制し、地球温暖化を防ぐCO₂(二酸化炭素)削減にも貢献するのです。



リサイクル部品を使用するメリット

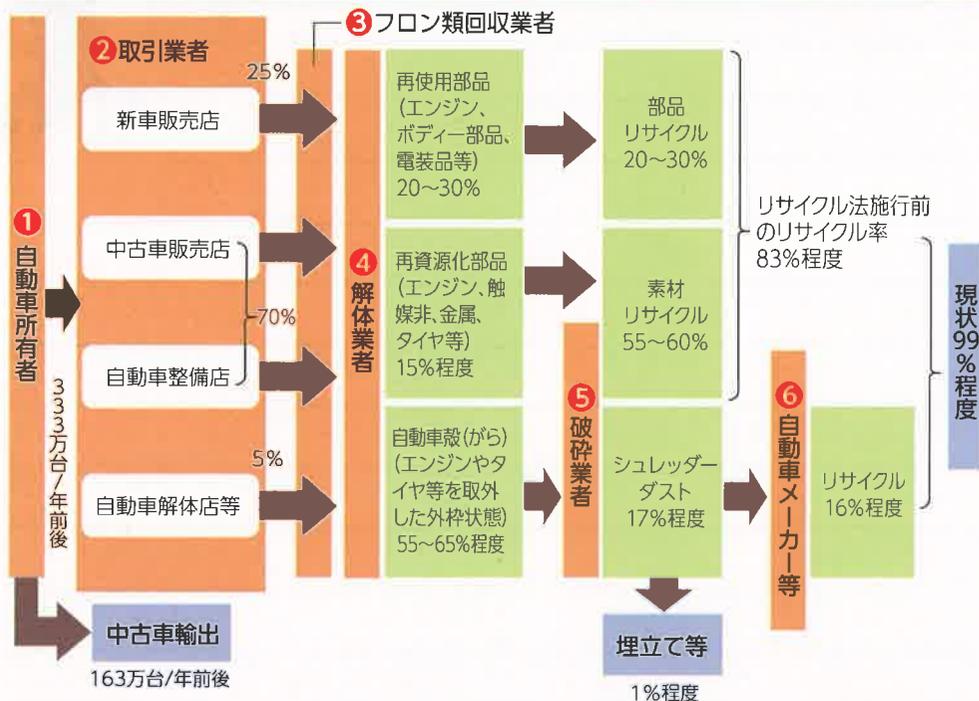


環境負荷低減

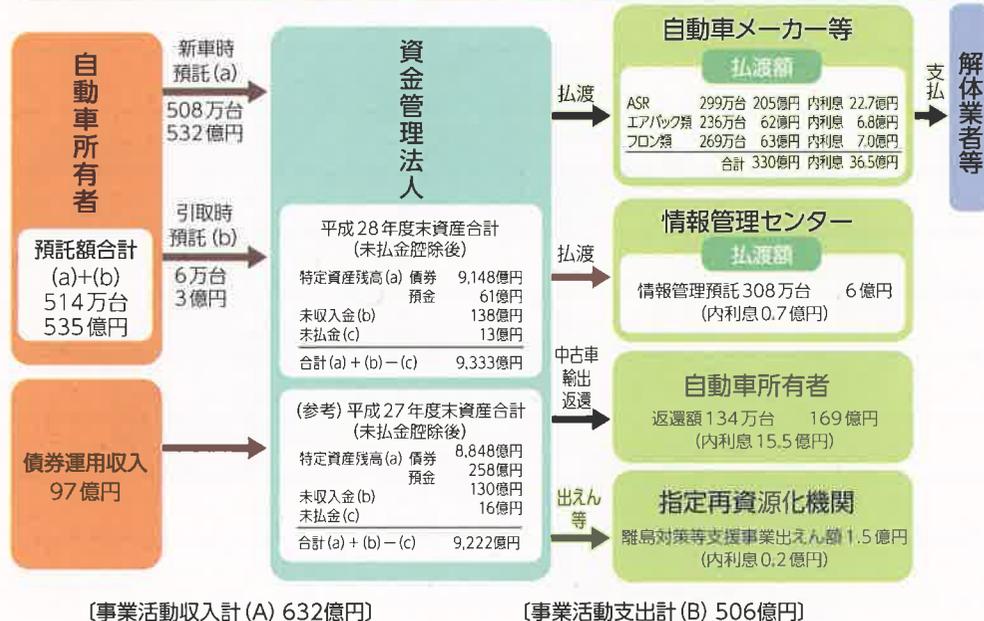


経済性

平成26年度における使用済自動車のリサイクル・処理の流れ



平成28年度における再資源化預託金等の流れ



特預金って？



特定再資源化預託金等【特預金】

(とくていさいしげんかよたくきんとう)

リサイクル料金等のうち、輸出中古車につき返還請求がない場合、廃車ガラ輸出によりシュレッダーダストの処理が不要となった場合等に結果として発生し、主務大臣の承認・認可を受け、再支援化支援部の行う離島対策の事業等のように使途が確定された『特定再資源化預託金等』の略称。

2016年度末153億円(元本136億円+利息17億円)

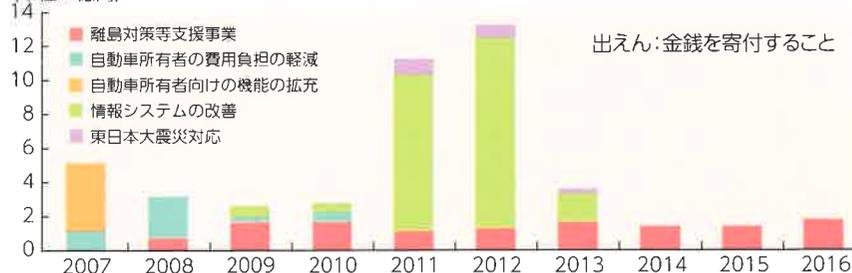
特預金の使われ方

特預金の使われた主な実績(2005~2016年度累計)(単位:百万円)

- 離島対策等支援事業(海上運搬費・不法投棄対策など) 2,002
- 情報システムの改善(性能対策) 2,338
- 東日本大震災対応(被災車両のリサイクル・処理) 180
- 自動車所有者の費用負担軽減(電子マニフェスト運営費) 790 (12,593台)

● 特定再資源化預託金等の年度別出えん等実績

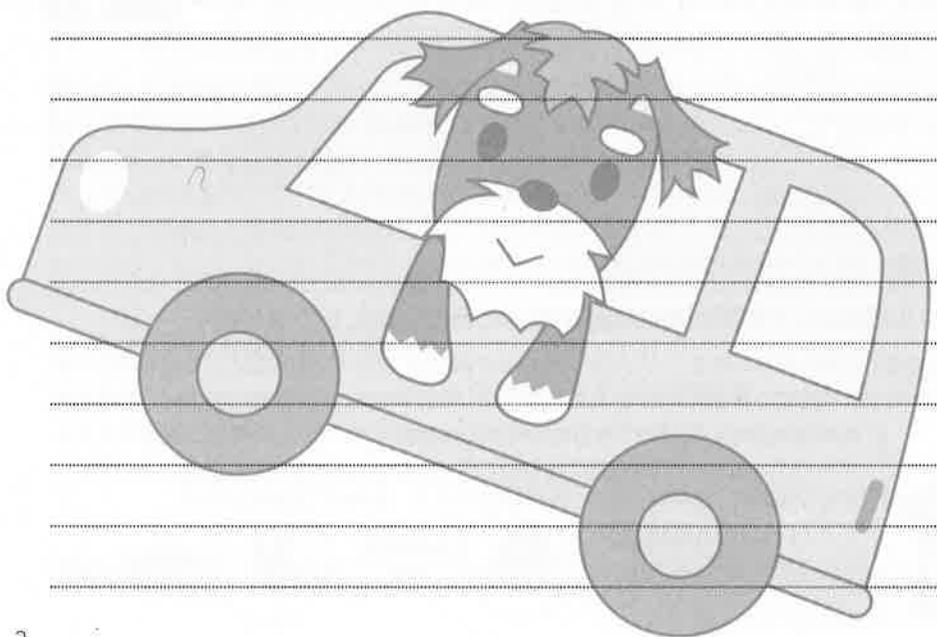
(単位:億円)



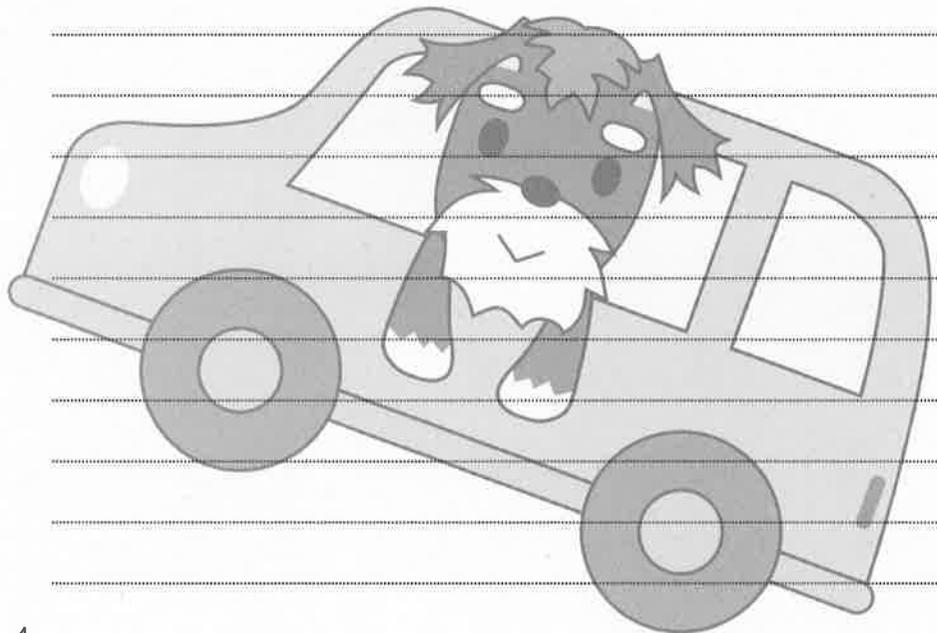
関連組織

- 一般社団法人 日本自動車工業会 (JAMA) < 略称: 自工会 >
<http://www.jama.or.jp/>
- 自動車輸入組合 (JAIA)
<http://www.jaia-jp.org/>
- 公益財団法人 自動車リサイクル促進センター (JARC)
<http://www.jarc.or.jp/>
- 一般社団法人 自動車再資源化協力機構 (jarp) < 略称: 自再協 >
<http://www.jarp.org/>
- 一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 (略称: ELV機構)
<http://www.elv.or.jp/>
- 一般社団法人 日本自動車リサイクル部品協議会 (略称: リ協)
<http://www.japra.gr.jp/cms/summary>
- 公益財団法人 自動車リサイクル高度化財団 (J-FAR)
<https://j-far.or.jp/>

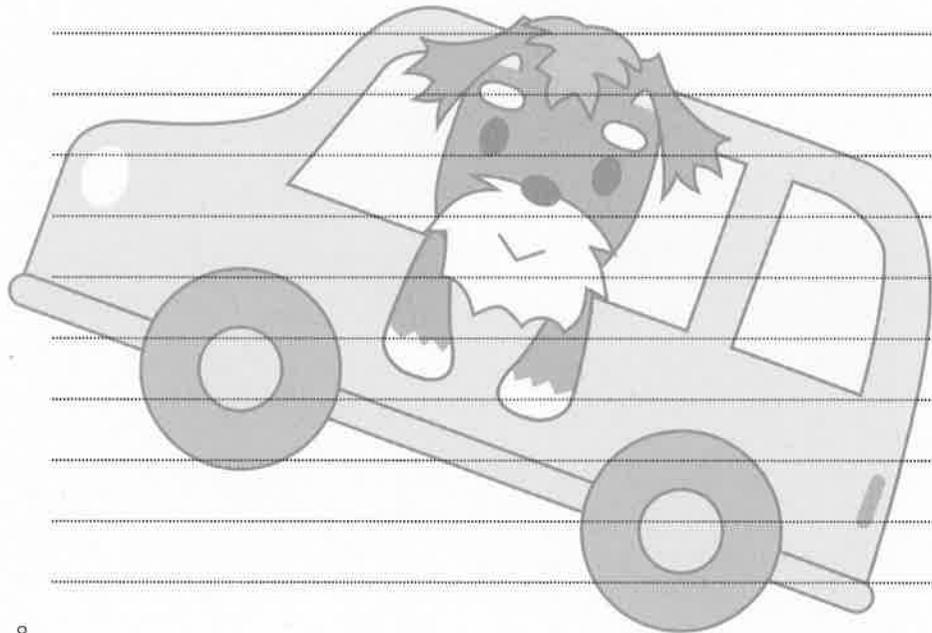
不法投棄・不適正保管がまだ5,589台もあるんだよ (2016年3月末)



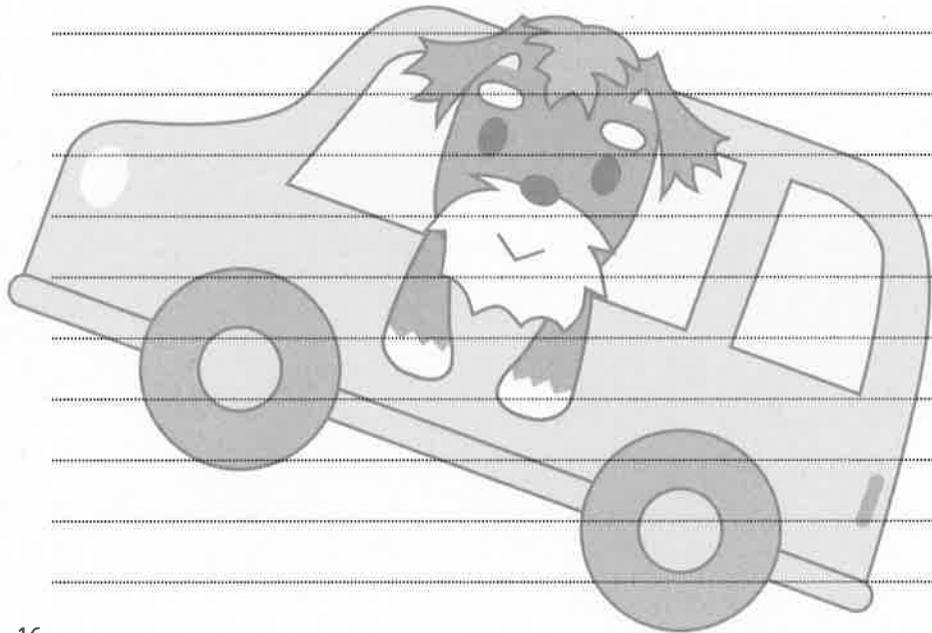
離島からの海上輸送費の8割を援助しています (東京都小笠原村からは1台約39,000円)

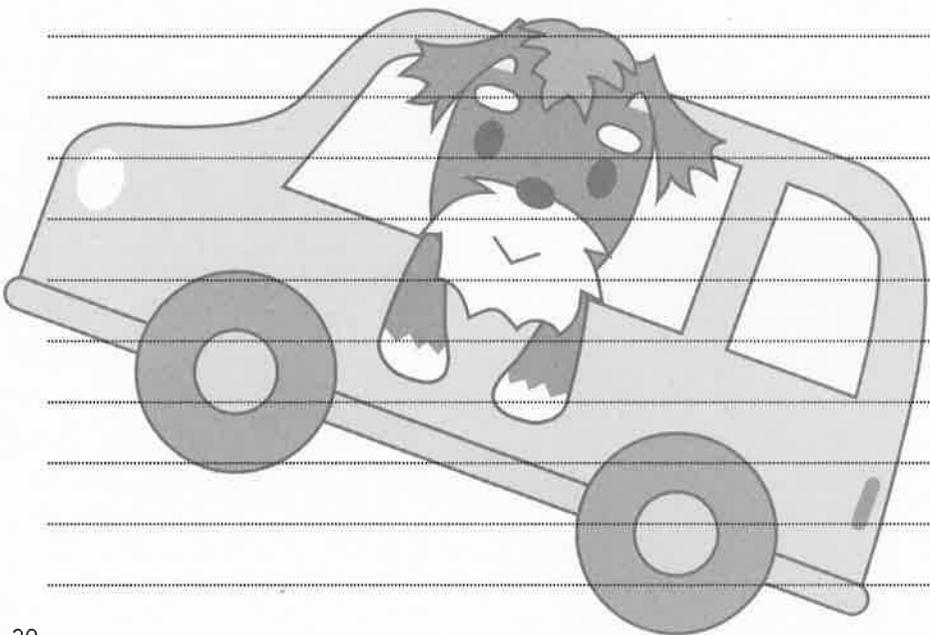


自動車リサイクル情報システムは、地方銀行並みに大規模なんだって

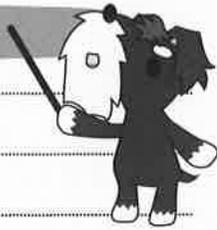


豊島(てしま)の不法投棄処理に14年間、7百億円以上もかかりました





今後の激甚災害のために50億円準備します



連携で共創する地域循環圏めざして

個別リサイクル法見直しに向けた マルチステークホルダー会議 2014年度開催報告

世界の天然資源需給逼迫や、東日本大震災を契機とした資源・エネルギー自立型地域づくりの潮流など、日本がめざす循環型社会の姿は新たな段階に入っています。持続可能な社会実現に向け、資源や地域性に応じた地域循環圏づくりを目的に各個別リサイクル制度を見直す熟議の場として、昨年に続きマルチステークホルダー会議開催しました。

今年度は、再生資源を活用した製品が積極的に消費者に選択される社会環境の構築も視野に入れて、NGO・事業者・自治体の参加のもと、連携による具体的展開をどのように実施して行けるかを熟議する場として実施しました。

10月には、「環境配慮商品と消費行動」について、全国約500名の方にアンケートを実施し、1月の会議で結果概要を報告しました。ここに、EU視察やMSH会議の概要を報告します。

- 8月20日(水) 10:00~17:15 食品・容器包装・自動車
- 8月26日(火) 14:00~16:40 容器包装(ペットボトルの店頭回収)
- 10月31日(金) 10:00~17:45 視察報告(食品・容器包装・自動車)
- 1月29日(木) 13:30~16:30 アンケート報告

各会議の資料と議事概要は、ホームページに公開済みです。
消費行動アンケートの結果概要は、別冊報告書を作成しました。

容器包装リサイクル出席者名簿(敬称略)

- ◇自治体
古澤康夫 (東京都環境局 資源循環推進部計画課 課長補佐)
- ◇専門家
田崎智宏 (国立環境研究所 循環型社会システム研究室 室長)
- ◇小売店
金丸治子 (イオン㈱グループ環境・社会貢献部)
永井達郎 (㈱セブン&アイ ホールディングス 総務部)
百瀬則子 (ユニークグループ・ホールディング㈱ グループ環境社会貢献部)
- ◇メーカー
高田宗彦 (サントリービジネスエキスパート㈱ SCM本部)
岩井宏之 (サントリービジネスエキスパート㈱ SCM本部)
柿沼 健 (キリンビバレッジ㈱技術部)
野田浩一 (キリンビバレッジ㈱技術部)
東 貴夫 (キリンビバレッジ㈱生産本部技術部)
田中希幸 (キリン㈱環境推進部)
松田晃一 (キリンビール㈱人事部)
- ◇3R推進団体連絡会
幸 智道 (幹事長・ガラスびん3R促進協議会)
宮澤哲夫 (前幹事長・PETボトルリサイクル推進協議会)
近藤方人 (PETボトルリサイクル推進協議会 顧問)
酒巻弘三 (元幹事長)
- ◇消費者
井岡智子 ((一財)消費科学センター 企画運営委員)
大石美奈子 ((公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 環境委員長)
鬼沢良子 (NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット 事務局長)
- ◇オブザーバー参加
庄子真憲 (環境省 廃棄物・リサイクル対策部 リサイクル推進室長)
深瀬聡之 (経済産業省 産業技術環境局 リサイクル推進課長)
長野麻子 (農林水産省 食品産業環境対策室長)
内藤 明 (農林水産省 食品産業環境対策室 課長補佐)
- コーディネーター 崎田裕子 (NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長)

食品リサイクル・視察報告・消費行動アンケート報告(敬称略)

- ◇自治体
古澤康夫 (東京都環境局 資源循環推進部計画課 課長補佐)
林 佳裕 (東京都八王子市 資源循環部ごみ減量対策課)
前川健一 (東京都八王子市 資源循環部ごみ減量対策課)
- ◇専門家
牛久保明邦 (東京情報大学 学長)
西尾チヅル (筑波大学大学院ビジネス科学研究科 教授)
- ◇学校
白井秀子 (東京都小平市 小平第六小学校)
- ◇小売店
金丸治子 (イオン㈱グループ 環境・社会貢献部)
永井達郎 (㈱セブン&アイ ホールディングス 総務部)
百瀬則子 (ユニークグループ・ホールディング㈱ グループ環境社会貢献部)
- ◇メーカー
高田宗彦 (サントリービジネスエキスパート㈱ SCM本部)
岩井宏之 (サントリービジネスエキスパート㈱ SCM本部)
柿沼 健 (キリンビバレッジ㈱技術部)
野田浩一 (キリンビバレッジ㈱技術部)
- ◇事業者
亀井浩一 (新日鐵住金㈱ 技術総括部資源化推進室 部長)
松岡力雄 (全国食品リサイクル登録再生利用事業者事務連絡会)
倉井孝明 (㈱博報堂 テーマビジネス開発局)
近藤智之 ((一社)日本損害保険協会 損害サービス業務部)
- ◇団体
穂谷和也 (グリーン購入ネットワーク 専務理事)
- ◇3R推進団体連絡会
幸 智道 (幹事長・ガラスびん3R促進協議会)
宮澤哲夫 (前幹事長・PETボトルリサイクル推進協議会)
- ◇消費者
井岡智子 ((一財)消費科学センター 企画運営委員)
前田ちえ子 (㈱消費と生活者 編集長)
鬼沢良子 (NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット 事務局長)
- ◇オブザーバー参加
長野麻子 (農林水産省 食品産業環境対策室長)
内藤 明 (農林水産省 食品産業環境対策室 課長補佐)
前田大輔 (環境省 廃棄物・リサイクル対策部 リサイクル推進室 室長補佐)
大竹 敦 (環境省 廃棄物・リサイクル対策部 リサイクル推進室 室長補佐)
井出大士 (経済産業省 産業技術環境局 リサイクル推進課 課長補佐)
小松正明 (経済産業省 製造産業局自動車課 課長補佐)
- コーディネーター 崎田裕子 (NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長)

自動車リサイクル出席者名簿(敬称略)

- ◇専門家
中嶋崇史 (早稲田大学 環境総合研究センター 博士(工学))
- ◇事業者
加藤忠利 ((一社)日本自動車工業会 リサイクル廃棄物部会 部会長)
郷古 実 (全日本自動車リサイクル事業連合 常務理事)
近藤智之 ((一社)日本損害保険協会 損害サービス業務部 担当課長)
鈴木大貴 ((一社)日本損害保険協会 損害サービス業務部)
清水信夫 ((一社)日本自動車リサイクル部品協議会 会長)
- ◇リサイクル事業者
亀井浩一 (新日鐵住金㈱ 技術総括部資源化推進室 部長)
- ◇消費者
大石美奈子 ((公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 環境委員長)
鬼沢良子 (NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット 事務局長)

オブザーバー参加

- 庄子真憲 (環境省 廃棄物・リサイクル対策部 リサイクル推進室長)
- 内藤 信 (経済産業省 製造産業局 自動車課自動車リサイクル室長)
- 山口裕司 (環境省 廃棄物・リサイクル対策部 リサイクル推進室 室長補佐)
- 小松正明 (経済産業省 製造産業局自動車課 課長補佐)
- コーディネーター 崎田裕子 (NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長)



この事業は地球環境基金の助成により実施しました

自動車リサイクル

ドイツ訪問先 9/9～9/10

◆デュッセルドルフ

ドイツ連邦鉄鋼リサイクル処理企業協会 (BDSV)、
自動車リユース部品のお店 (KFZ-Handel Engelmann)

オランダ訪問先 9/10～9/11

◆ティール

オランダ自動車リサイクルプラント (ARN ASR Plant)

◆アムステルダム

欧州自動車リサイクル協会 (EGARA)

フランス訪問先 9/12～9/13

◆リール

ASR、廃プラ等の再資源化事業者 (Galoo Plastics S.A)

◆パリ

環境エネルギー管理庁 (ADEME)、
貸し電気自動車ステーション (Autolib)、レンタサイクル (Velib)

ドイツ連邦鉄鋼リサイクル処理企業協会 (BDSV)

Mr. Ulrich Leuning

- 650の会員企業のうち自動車は100社。
(国内の解体企業1,235、シュレッター Plant51)
- ドイツ連邦のリサイクルに関する立法を助け、草案から関与した。
- 1997年 アルトアウトV (Die Altauto-Verordnung) 制定。
当時 クラウス・テプファー環境大臣。
- 2年後にEUで廃車指令=ドイツの法律をコピー。



【EUへ報告する資料：Altfahrzeug-Recycling】

	2012	2011	2010	2009	2008	2007	2006
再使用とリサイクル (材料活用)	92,3%	93,4%	95,5%	82,9%	89,2%	88,1%	86,7%
再使用と活用	106,3%	108,2%	106,2%	86,7%	92,9%	90,4%	89,5%
廃車の数	476.601	466.160	500.193	1,73 Mio.	417.000	458.832	504.330
解体企業	1.235	1.260	1.263	1.245	1.190	1.807	1.177
シュレッタープラント	51	51	51	52	48	44	45

Quelle : UBA, Destatis, KBA, eigene, Erhebungen

2000€のスクラップインセンティブ実施

【課題】

○廃車証明の発行 ○廃車不足 ○埋め戻しかリサイクルか

- 州政府が発行する廃車証明が確実に行われていない。
→アフリカや東欧諸国に中古車として流れている。
- 自動車解体企業はドイツの法律に従って、厳しい環境保全のための対策に投資をしたが投資が無駄になってしまった。
- 今は、シュレッターダストを鉱山の廃坑の埋め戻しに→材料活用として認められているが、それを本当に認めているのかどうかEUレベルで、論争中。
- 技術開発=シュレッターダストの中から、磁石を使って鉄分を取り出す、渦電流を使って銅とアルミニウムを分別。
- リサイクル企業は管轄官庁の認定を毎年取得→非常に厳しいチェックがあり、いい加減な企業はBDSVの会員になることができない。
- 環境基準を守るための設備投資が必要になったので、自動車解体事業の看板を、設備投資がいらぬ中古車販売店の看板に取り替える業者が増加。

【今後に向けて】

- 17の州政府に対して廃車証明の手続きを確実に実行するよう働きかけている。

自動車リユース部品のお店 (KFZ-Handel Engelmann)

ベンヤミン パーチ氏

- 1999年から操業 従業員5人。
- リユース部品の利用は、ほぼ一定。
- 新品の5分の1の価格で提供。
- ドイツ車の部品利用が多いが、最近では日本、韓国車が増えている。



オランダの自動車リサイクル

Mr. Hector Timmers (Manager projecten ARN)

- 2000年にEUのELV指令が出る前の1995年から、自動車リサイクルを実施。
- オランダの自動車リサイクルの基本は、責任の分担、“Shared Responsibility” 消費者、政府、自動車メーカー、リサイクル産業が責任を分担するという考え。
- 新車購入時に廃車料金と資金管理に、45ユーロを支払う (初期は125ユーロ)。
- 30キロおきに廃車引き取り場が必要とされている。



ARN ASR プラント

- 税の優遇があり、ハイブリッドが増えている。
- ハイブリッド車の解体技術を教えるトレーニングセンターでもある
- ARNネットワークは2010年に設立。
- ARNは、オランダの8社、オランダ以外20社から廃棄物を引き受けている。
- 365日稼働、年間15万トン、車から出るのは4万トン車以外のエレクトロニクス・家電製品のシュレッターは11万トン。
- 助成金 (Life+) で付加価値の高い研究と開発プロジェクトを実施。
- ASR (シュレッターダスト) を道路建設資材、ハイウェイの防音壁に活用→ダストを販売。



自動車リサイクル



欧州自動車リサイクル協会 (EGARA)

Mr. Henk Jan Nix (General Secretary)

- オランダの解体業促進業界 stiba は、解体業に関しては、トップ。
- ARN の 4 人の役員の 1 人が、stiba からきている。
- 他の国の製造者は、車は最後になっても価値があるから、基金を集める必要はないという考え方＝ゼロコストモデル。
- stiba は、一番初めにガラスを取る提案、またガラスとして再使用ができるから。ARN は最後の方が安く済むという考え。
- グリーンな社会といっても、全体的にグリーンのパークンが多くなるのが大事。循環社会も、特に車は一部だけではなく、全体を見て本当に循環になっていくよう製造業者の考え方が変わってくると良い。

販売用リユース部品



ASR, 廃プラ等の再資源化事業者 (Galoo Plastics S.A)

Mr. Eric WITZ

- 100 年前からあるベルギーの会社で、プラスチックの再処理部門は、1997 年に設立。
- 元々金属のリサイクルが主な事業で、別会社として、50% を Galoo、50% がプラの技能を持ったエンジニアの出資で、工法を開発して、プラスチックのリサイクルに関する 12 の特許を取得している。
- 従業員数 45 人。売り上げが 2500 万ユーロで、70% が輸出。完成品は中国、ブラジル、トルコまで輸出。
- 自動車の下請け企業がすぐに利用できる、ペレットの形で販売。
- 3 万～ 3 万 5000 トンを原料としてリサイクル材料を仕入れ、2 万 5000 トンをペレットとして販売、自動車を粉砕したものが主で、次がエレクトロニクス製品、その次が家庭ごみのプラスチック。
- 自動車と他のプラは混ぜない。
- 賢く産業レベルで実施すれば、採算は取れる。製品の値段は、バージン原料より安い。リサイクル素材を利用するように、部品メーカーのインセンティブとしては値段を安くすべきである。また、値段の上がっている石油は原料としては購入していない。
- 自動車メーカーは、リサイクル素材を使った部品を目に見えないところに限っていたが、現在はメンタリティも変わってきて、ドライバーの目に見える場所にリサイクル素材の部品を使う利用も始まっている。
- 品質管理のラボで 10 トンに 1 回サンプルの特性検査を実施。ペレットは 1 日 100 トン製造。
- 年間 3 万 5000 トン生産、9 万トンの生産能力を備えている。
- ペレットの質の保証が重要。

欧州自動車リサイクル法に詳しいARNシニアコンサルタント

Mr. Kaspar Zom

【リユース部品について】

- カナダ、アメリカと比べて、オランダでは使用済み車から取り出したパーツの利用は低い。
- ➔ ① リースされる車の割合が非常に高い。
- ② 10 年以上の車が少ないので、使用済みパーツ市場が少ない。
- ③ オランダはリッチな国なのでパーツを探そうとする人が少なく、また、アメリカ人ほど器用でない。
- LCA 研究では、使用済みパーツの活用は温暖化対策に非常に効果がある。



【今後の展望と課題】

- シュレッダーした後の分別技術をさらに洗練改良して、より分別の精度を上げることによって、その材料を基に良いリサイクル製品ができるようにしたい。
- 電池自動車はまだバッテリーの値段が非常に高く、普及しているとはまったく言えないが、電池自動車のリサイクルを将来どうするかが、すでに議論されている。
- 車を軽くするため、鉄から炭素繊維やプラスチック材料を多く使うようになってきたので、リサイクルが難しくなる。それで、今は EU の ELV 指令がリサイクル率 95% の指定だが、95% をそのまま維持することが妥当か否かのディスカッションが行われている。
- 持続可能な社会を作るためには、リサイクルに一生懸命では不十分であり、製品を設計する段階で、リサイクルのことを考えたリサイクル設計をすることが必要。
- 車のリサイクルにおいて、これからプラスチックは非常に大切なテーマである。



100%再生材のグローブボックス

自動車リサイクル

環境エネルギー管理庁 (ADEME)

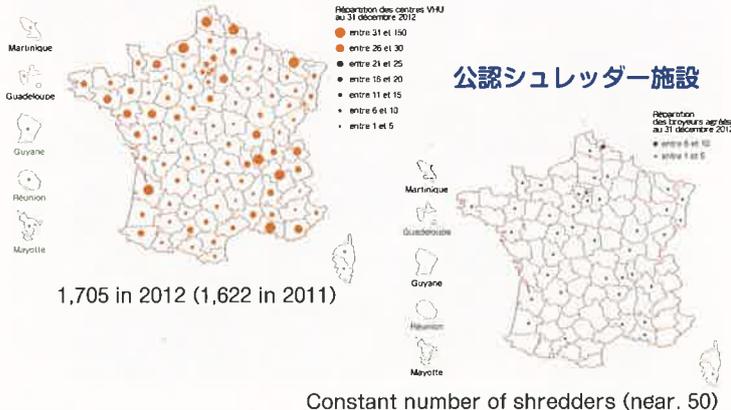
Mr. Eric LECOINTRE

- ・自動車の再処理の許可企業は1700社、自動車のどこの部品も欠けていない場合は、入口まで持って来れば、無償で引き取る義務があり、ほぼ満遍なく全国に所在。
- ・再処理企業は、ネットワークを作る義務がある。
- ・1700社のうち、メーカーが指定した900社は、引き取り価値に関係なく、必ず無償で引き取る義務を負う。残りの800社は、引き取り義務はないが、引き取る場合には必ず無償で引き取る義務がある。
- ・1700社は認定を受けた企業で、約1000企業は認定を受けていない非認可（非合法企業）。
- ・認可済み企業は、車を引き取り廃棄、解体証明書を発行。
- ・フランスの企業は、Galooなどのように、車だけでなく色々な調達源があり、エレクトロニクス製品等の金属を回収して、リサイクルを行う。

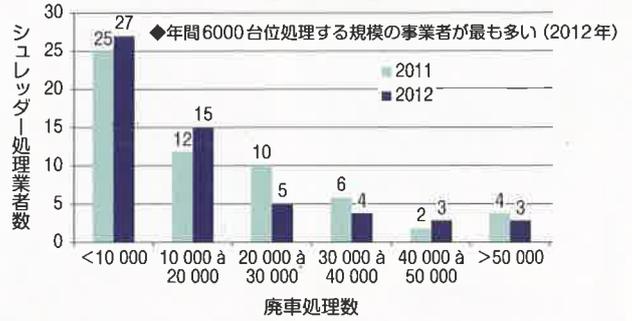


- ・自動車を処理する許可50社、50拠点。
- ・認可に伴う義務として、年間の処理、再利用の数値をADEMEに申告、ADEMEは環境省に報告。
- ・第三者機関があり、オンラインを使い証書類をチェック。
- ・廃車処分される車の3分の2は、合法的な再処理システム、3分の1は非合法で処理。
- ・ドイツは廃車が約47万台で、フランスは140万台と非常に多い(日本2013年度実績：343万台)。
- ・2009年から2011年の3年間に、廃車処分の補助金制度あり。
- ・再処理業者にとって採算性の確保がだんだん厳しくなってきた。ADEMEは、経済的な持続性を確認するため、経済状況をチェックしている。環境省内に、関連各省代表、業界代表、自動車メーカーの代表が参加して経済面を評価する作業グループが設けられており、経済的に立ち行かないことが確認された場合には、環境省として、メーカー側に何らかの資金の拠出を行うということを求める。
- ・フランスには再処理業者に対する支援はまったくない。
- ・金属、非金属、非鉄金属、鉄、触媒、バッテリー等いろいろな素材を売ることのできるかなりの収入がある。現在のところ、これが均衡、黒字システムが保たれている。
- ・ルノーは循環型のアプローチを積極的に取り入れており、リサイクル素材を使って部品を作りその部品を使うことを盛んにやっている。メーカー、ユーザーへのインシアティブの導入は重要。
- ・再処理業者が連合して、全国的にオンラインで検索できるシステムを作り、保険会社が事故車の中古部品を使った修理費試算ができるように規制の改正が2011年にあった。
- ・法令レベルでは、リユースとリサイクルが一緒になっていて、企業がある程度柔軟的に対応できるように、リユースを細かく書いていない。

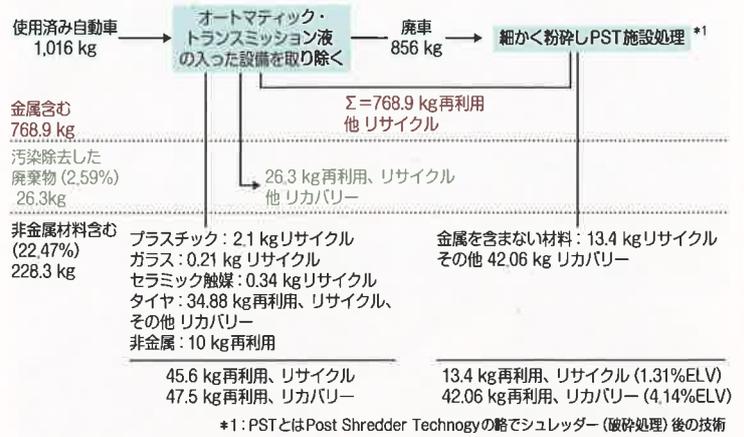
公認処理施設 (オートマチックトランスミッションフルード)



廃車台数別業者数



使用済み自動車から回収した再利用、リサイクルの運用実績



貸し電気自動車 (Autolib) 2011年12月から開始

- ・試算ではBluecar 1台の導入で5台の自家用車を減らすことができ、約2万台分の駐車場削減になる。
- ・パリ市周辺46自治体で実施中、700ステーションの内3分の2がパリ市に。
- ・事前登録、クレジットカード精算、30分毎の使用料、平均9Km(年、月、週、日の契約 最初の30分あたり5~7€) 企業契約もある。
- ・2012年12月現在1750台のBluecarを3000台まで増やす計画で、ポロレグループに12年契約で運営を委託。



利用者にインタビュー

家の近くと勤務先の前にステーションがあるから、通勤で毎日使っているわ、マイカーより安上がりなのよ、今日は家族とショッピングで使ったの

2007年開始のレンタサイクル (Velib) が成功

6台の内5台が使用中

詳細な説明も時折ある

自動車リサイクル工場見学&学習会に関するアンケート

(元気ネット事務局)

FAX : 03-6300-5158

Email : info@genki-net.jp

① 自動車リサイクル制度に関して、どのような事が新鮮な情報でしたか	
② 小冊子に関してのご意見、ご感想 特にわかりにくい、難しいと感じた点がありましたら、具体的にお書きください。	
③ ご自身の団体等でこの小冊子をご利用可能な場はありますか？	ある ・ ない（どちらかに○） 希望部数→（ ）部
④ 全体を通しての感想やご希望等	

回答はご帰宅後でも結構です。本日はご参加いただき誠にありがとうございました。

車両搬入



搬入された車両は降ろして一時保管します。

ELV処理の一連の作業は専用棟で行います。



前処理

フロンガスの回収、タイヤとバッテリーの取り外し、エアバッグの処理を行います。



一時保管
選別

車両の状況を点検し、取り外すパーツを確認します。

取り外し作業



1台ずつ確認しながら各パーツを取り外します。

エンジ
等は点

検収・クリーニング



取り外したひとつひとつの部品を確認して、キズなどの状態を検収し、汚れをていねいにクリーニングします。

パーツ



メタルリサイクル株式会社
Make our future better by recycling.

自動車リサイクルの学習会&解体工場見学 質疑応答の記録

日 時：平成30年2月19日（月）10：30～16：00

集 合：東武東上線 川越駅 西口

会 場：メタルリサイクル株式会社 ELV 事業部（049-297-2111）

タイムスケジュール

10：20 川越駅西口集合

10：30 川越駅出発 バス移動

11：05 到着・挨拶 メタルリサイクル(株)代表取締役社長 猪鼻 秀希氏
・自己紹介（参加者20名・環境省河田氏・元気ネット3名）

11：25 昼食

12：00 自動車リサイクル法について情報提供（環境省）

12：45 ビデオ放映（約15分）及びプラント見学開始（約1時間）

14：05 質疑応答、学習会、意見交換

15：30 終了 バス移動（バスの中で感想）

16：00 川越駅解散

●環境省河田氏の情報提供について Q&A

Q.輸出される台数は？

A.国内で処理される車両が300万台、海外へは150万台。

Q.「99%が資源に」とは？

A.重量ベースで99%がリサイクルされているということ。サーマルリサイクルも含む。

Q.パンフレットの9ページ「自治体による取り組み例（一例）」とは？

A.写真にあるのは、行政代執行の前後の様子。特預金が使われている。

Q.この制度が作られる前から使用されている車についてどうなるのか

A.制度前の車でも、車検時に後追いでリサイクル料金を支払うようになっている。

Q.なぜ、特預金が発生する？

A.例えば、事故で全損となった場合、エアバッグも作動し、フロンも放出されてしまっていたら、その分の費用は使われない。持ち主がリサイクル料金の返還請求をしない限り、預託されたままになる。その他、「そうだったのか！自動車リサイクル」のノートに説明あり。

Q.特預金の使われ方で、2011～2012年に情報システムの改善に多額が使われているのは？

A.ノートの9ページにある通り、自動車リサイクル情報システムは、地方銀行並みの規模なので。メンテナンスや一定の時期が来れば更新が必要になる。

●工場見学についての Q&A

Q.水素タンクについて、リサイクルできるのか？

A.アルミタンクの周りにカーボンファイバーが巻いてある。現時点では、技術的にも難しく、また、コストも見合わない。岐阜大学でリサイクルの実証実験中。

実験用車の水素タンクは、自リ法の範囲ではない。

Q.中小のリサイクル事業者のご苦労、価格の変動も影響などについてうかがいたい。

A.現在、オートオークション（中古車事業者が参加して取引する中古車の卸売市場）が、解体同等車両のプライスリーダーとなっている。特に小さい事業者の中には、オートオークションで

購入してきてリサイクルすることもある。現在は、鉄、アルミ、銅等の値段が高めに推移しているので良いが、下落するときつい。オークションで業者が車を買うときには、リサイクル料金を払うことになる。

Q.リサイクル業者は、国の補助金で成り立っているところもある。御社は？

A.自り法が出来た時、儲かると思ったが、実際には利益は薄く、数をこなしている。1台の保有年数が伸びていること、若者の車離れなどにより廃車数が減っていくので、将来は、次世代車（ハイブリッド、電気自動車、燃料電池車）のリサイクル技術を開発向上していきたい。

A.電気自動車のリチウムイオンバッテリーは、コバルト等も使われており、現在はリサイクル困難物だが、環境省・経産省で実証実験中である。（河田氏）

Q.ガソリン車から電気自動車にシフトすると、パーツが減り解体しやすくなる？

A.解体しやすくなると思う。ぶつからない車が開発されているので、事故車は減っていくと思われる。

Q.業界の構成は？

A.再編成が進んでいる。解体業は、小規模のところが多い。弊社のような（大）規模のところは少ない。

Q.経営的には、今後の見通しは？資源有効活用の点からは、使用期間が長くなるのは良いことだと思っているが…？

A.社会の変化もあり、先を見据えた議論が必要と思っている。ガラスの再資源化にも取り組んでいる ← MR では現在検討中

Q.放射線探知機は何のため？

A.弊社では、クルマだけでなく、その他の廃棄物も扱っているので放射性廃棄物が混入されないようにする為です。

Q.一日に何台くらい扱うか？

A.一日約 50 台。年間で約 12,000 台。千葉工場では約 10,000 台。

パーツの在庫は本社・千葉で約 15,000 点。月 3,000 点くらい出荷する。

●自動車リサイクル制度についての Q&A

Q.不法投棄、不適正保管約 4000 台に路上保管なども含まれているのか？

A.野積みなどはもちろんだが、自治体によって解釈が異なる場合もある。

Q.「自動車」とは？

A.商用車のトレーラー部分は含まない。農業機械も。リサイクル料金を預託する必要無し。

Q.世界と比較すると？

A.日本のリサイクル技術はかなり高いと思う。制度についても、きちんと管理されている国は多くない。

Q.海外へ出た日本車の最終処分は？

A.技術、システムの輸出はできるが、それぞれの国になじむかどうかは、それぞれの事情による。

Q.「生産者責任」については？

A.すべてのリサイクル法の中で「生産者責任」を一番体现しているのが自動車リサイクル法と言える。メーカーが、リサイクル料金の内訳を決める責任を負っている。これにより、全メーカーが、設計段階から解体性を重視し、フロンも破壊不要なフロンにシフトするなど、全メーカーが取り組んでいる。

システムを作る時の費用はメーカーが出した。JARC についても最初は各メーカーからの出向で、現在はプロパーもいる。

200～300 万円の自動車を購入する時に、1 万円くらいのリサイクル料金が安いのか高いのか消費者が判断するのは難しいと思われるが、どのように使われているのかについては、配布し

た冊子の表紙の次の見開きページ右下を見ていただきたい。追加情報：車 1 台の重量の 20～30%がリユース部品になっている。

Q.冊子の裏表紙の内側の特預金年度別出えん等実績の棒グラフの、2011～2012 年の情報システムの改善が非常に多額になっているのは何故か。

A.冊子の P11 の上部吹き出しにあるように、自動車リサイクル情報システムは大規模で、電子マニフェストの更新に費用が掛かったためである。

Q.自分の車を廃車にした時は？

A.JARC のホームページから、自分の車が廃車のどの段階にあるのか、追跡できるようになっている。

Q.知人に、車をあげた場合は？（無料で）

A.リサイクル料金も含めてあげたことになる。

Q.特預金をユーザーに返還したら？

A.一人一人に返金すると、一人当たり 30 円くらい。むしろ返金の手続きに多額の費用がかかる。個人個人に返すより、他に有効な使途を検討している。消費者の商品選択のインセンティブになるようなものがないのではないか。例えば、再生プラスチック使用の自動車を購入する際には、リサイクル料金が 0 円になるなど。

Q.シュレッダーダスト（ASR）は、どうなるのか？

A.サーマルリサイクル（燃やして熱回収）を行っている。欧州の廃プラ等の再資源化事業者を視察した際、高度なプラスチックのリサイクルを行っていた。日本でもできるのではないかと思った。コンパウンダー（合成樹脂用の製造・販売の専門メーカー）にとっては、量の確保が課題。自動車の場合、再生品のクオリティの高さが求められる。また、消費者がそれを認めて購入しないといけない。

Q.CO2 削減との関わりは？

A.99%リサイクルの内、16%がサーマルリサイクル。現在横ばいの ASR を減らすことが省 CO2 につながる。

Q.行政代執行で費用のどれくらい回収できるのか？

A.回収は難しい。

Q.パーツがたくさんあった。利用率は？

A.2 割以上回っている。部品を販売するグループ（NGP グループ）内の在庫を常に注視している。在庫についてはネット上で管理、情報共有している。

Q.パーツの品質保証は？

A.NGP グループの基準で保証をつけている。例：エンジンは 6 ヶ月または 1 万 km。

●その他の意見

- ・豊島（てしま）のこともあって、自動車リサイクル法ができた。
- ・ユーザーが追跡しやすいシステム、また追跡する人にインセンティブがあると良い。追跡したら、ポイント還元等。
- ・不法投棄は減った実感がある。投棄ではないが、廃車にはしないで倉庫代わりに利用されている車などがどのくらいあるか把握することも必要ではないか。観察・保全活動などをしているところと組んで、状況把握できると、対策も考えられるのではないか。
- ・三重県では、パトロールを行っていて、所有者に警告がいくようになっている。

・封筒内の配布資料の説明（鬼沢）

・A5 ノートの説明（鬼沢）

・意見交換（知ることでどんな影響、変化があるか？等々までは行きつかなかった）

以上

自動車リサイクル工場見学&学習会に関するアンケートまとめ

<p>① 自動車リサイクル制度に関して、どのような事が新鮮な情報でしたか</p>	<p>【1】・車のリサイクルの仕組みが非常にうまく機能していることに驚き、うれしく思った。特に特預金が有効活用されていることは素晴らしいと感じた。・途上国にも日本の素晴らしい技術や仕組みを展開して、国内のみならず、世界にも貢献できたらなお素晴らしいと思う。</p> <p>【2】・特預金が海上運搬費や不法投棄対策など離島対策などの支援事業や情報システムの更新などに使われていることを知ることができた。・今後、電気自動車や燃料電池自動車、ハイブリッド自動車の使用済自動車数が多くなることから、リチウム電池や水素タンクなどのリサイクル技術の確立が急がれる。・自動車リサイクルで、預託（先払い）しているのは、日本とオランダだけということが意外だった。</p> <p>【3】・これまで授業などで、資源のない国だから再資源化へ次から次にリサイクル法が生まれてきた経緯・背景およびリサイクルのための費用が発生程度は伝えてきたが、今回の学習会の機会を得て学んだ「リサイクル料金の内訳」「特預金」などの使われ方が新鮮な内容でした。そもそも自動車リサイクル法を身近なこととして、学習の現場（中・高校の現場や大学生そして社会の公的機関）においても自分事としても丁寧に扱ってこなかったことを反省した。</p> <p>【4】・家電、容器包装、食品等のリサイクル工場の見学は何回も経験したが、自動車の本格的なリサイクル工場は初めてで、新たな知識を得ることができた。</p> <p>【5】・使用済自動車の99%が資源化 再利用されていることの高さ。</p> <p>【6】・河田様のわかり安い説明、工場見学、その後の意見交換を通じて、ネット情報等では知り得ない様々なことを学んだ。参加者皆様の質問やコメントもさすが活動に関わってこられただけあり多岐にわたり、質問への応答も内容を深めるのに大変役立ち中身の濃い学習会でした。・「持続可能な社会」を目指して全国でこのようなネットワークを作って活動されているお姿を見て、大変勇気づけられた。</p> <p>【7】・日本の自動車リサイクル制度は大変進んでいることがわかり、自動車会社自らの製造責任が感じられる良い制度になっていると思う。・自動車の99%がリサイクルされているということを改めて知り、これも素晴らしいことだと思う。環境にもよく配慮されている制度として確立されていることが理解できた。</p> <p>【8】・リチウムイオン電池の市場がない事実には驚いた。自治体や電気店ではリチウムイオン電池の分別箱がありきちんと分別して集めている。リチウムは貴重な資源だから車はきちんとリユースやリサイクルがされているイメージがあった。よく考えれば放電の危険性があり簡単に扱えるものではなく置き場所も考えなければならない。今でも技術は難しいと聞く。リチウムイオン電池は今後の自動車産業に欠かせないものであるので、現場でより簡単安全に扱えるリサイクル技術の向上を望む。</p> <p>【9】・リサイクル料金の流れや特預金のことは全く知らなかった。</p> <p>【10】 料金は3品目を処理する費用だったこと。・リサイクル部品がしっかり再利用させていること。・特預金が発生して活用</p>
--	---

されていることは驚きでした。・自動車リサイクルは資源活用だけでなく、環境対策にもはいりよされたリサイクルシステムであり、車社会の利用者の役割分担がハッキリしていてわかり安かった。

【11】・150万台/年が輸出されていること。・自動車リサイクル法施行前の車は、車検時に徴収されること。・特預金とその使われ方（災害時の被災車両のリサイクル・処理にしようされたことは全く知らなかった）・リユース部品とリビルト部品の違い。・小冊子の上部の特に「今後の激甚災害～」「自動車サイクルの情報システムは、地方銀行並み～」の部分。

【12】・使用済自動車のリサイクルによる預託金制度があるのは、世界の中で日本とオランダのみであることを初めて知った。日本の取組をうれしく思うと同時に、オランダはなぜ自動車リサイクルシステムを世界に先駆け導入したのか、興味が沸いた。

・自動車ユーザーが支払ったリサイクル料金により、使用済自動車のリサイクル実効率が99%程度まで向上している現状について、ここまで高い水準に達していると認識してなかった。・リサイクルシステムを確立する資金を、メーカー各社が拠出して、動脈産業と静脈産業の連結が不可欠であり、双方の協力体制が見て取れた。・ASRはAutomobile Shredder Residueの略であり、自動車破碎残渣を意味すること。ELVはEnd of Life Vehicleの略であり、使用済自動車を意味すること。普段の暮らしの中で、これらの言葉に接する機会がなく今回初めて知りました。・ASRの一部を熱源としてサーマルリサイクルしているのは、もったいないと感じた。恐らくこれ以上は分別等が困難なためと思われるが、環境負荷低減に向けたさらなる取組に期待。・シュレッダーダストを処理するための埋立処分場の逼迫や、処理費の高騰により費用を支払って使用済自動車を引き取ってもらう逆有償化の現象が生まれ、負担を嫌った業者等によるクルマの不法投棄・不適正処理が発生した過去の背景を改めて受け止めた。自動車リサイクル法が、負の遺産から生まれた法律であると認識した。

・リサイクル料金は、シュレッダーダスト、エアバッグ類、フロン類の適正なりサイクルに使われる。帰宅後、所有する自分のクルマ（トヨタ車：AQUA）の車検証から預託証明書（リサイクル券）、使用済自動車引取証明書、資金管理料金受領書を取り出し、確認した。内訳は次のとおり。シュレッダーダスト料金5,420円、エアバッグ類料金1,930円、フロン類料金1,650円、情報管理料金130円、預託金額合計9,130円。クルマを大切に乗り続けた後の行方にも関心を持ち続けていきたいと思う。

・リサイクル部品には、リユース部品（中古部品）とリビルト部品（再生部品）があり、点検・美化、交換・修理・再組立・品質確認等を行いリサイクル部品として活用することにより、資源の有効活用、廃棄物削減による環境負荷低減や経済性の向上に取り組まれていることを知り、さらなる推進に期待。・一部のオートオークションでは値段がひとり歩きし、解体業者が70～80%のクルマを買い取らなければならない現状があると知り、現状を改善すべく、何らかの対策が必要と思われる。

・使用済自動車の発生台数310万台に対し、輸出台数は151万台とのこと（2016年度）。輸出台数の割合はもっと少ないと思っていたので、輸出台数が約50%を占める数字に驚き。・途上国等に輸出された後に使用済となった自動車が、現地で様々な環境悪化を招いていないか、適切にリサイクルされ資源化されているか大いに気になった。自動車由来のシュレッダーダストをはじめとする産業廃棄物の不法投棄が発生した1990年代の香川県豊島の状況が、世界各地で発生してはなりません。環境負荷

の増大や環境汚染等を未然に防ぐためには、途上国へのリサイクル技術の支援や資金的な援助が必要と思う。

- ・クルマのエアコン用冷媒として広く使用されている HFC-134a（地球温暖化係数 1,430）に代わり、地球温暖化係数がずっと低い HFO-1234yf（地球温暖化係数 1）に置き換わりつつあります。フロン回収・破壊法が改正され、「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律」（略称「フロン排出抑制法」）が 2015 年 4 月 1 日から施行されました。地球温暖化防止に向けた今後の環境負荷低減に期待。
- ・クルマの使用年数が年々微増し伸びている状況をうれしく思う。飽きたので新しいクルマに買い替えるという発想ではなく、大切に長く使うことで資源を有効利用することができる。ただし、CO2 排出量に関しては最新型のクルマの方が燃費は良い状況なので、どこで折り合いをつけるか、この辺りのバランスが難しいと感じた。
- ・ASR、エアバッグ類のリサイクル率が、当初の目標を大きく上回り達成されていて、業界全体の取組努力の賜物と認識した。
- ・特定再資源化預託金の存在と、それを活用した離島対策支援事業などが実施されていることを初めて知った。リサイクル・解体業者がいない離島で、不法投棄などが発生しないよう特預金の適切な利用は今後も推進していくべきと考える。これらの情報を自動車ユーザーに伝え、自動車ユーザーは特預金の存在と活用方法に関心を持つべきと思う。
- ・新車時預託台数の減少と共に、使用済自動車の発生台数は今後減っていくと予測される。それに伴い、引取り業者、フロン類回収業者、解体業者、破碎業者も減少せざる負えない状況に追い込まれる。循環型社会にとって必要不可欠である静脈産業の事業者が、今後も健全な形で事業が運営できるよう、状況に応じた社会環境の整備が必要と思われる。

【13】・制度の内容そのものを詳しく知らなかったもので、たいへん勉強になった。制度の説明、現場での説明、どれも新鮮でした。

【14】・自動車ユーザー、自動車メーカー、輸入事業者、整備事業者、引取業者、フロン類回収業者、解体業者、破碎業者、様々な分野の業者・作業を実際に見学出来て、5 R活動の重大さを感じた。・部品の供給が共有されてはいるが、小さな町工場などでも共有できることを期待する。（部品の多さ、保存など初めて知った）・自動車の99%がリサイクルされていること。・フロン・エアバッグ・シュレッダーダストの適正処理。・架装物判別ガイドライン・ASR指定引取場所

【15】・車を購入したら、リサイクル料金を支払うシステムであること（車の購入手続きは夫がしている）・リサイクル料金で使用済みの車がリサイクルシステム化され、99%がリサイクルされていること。・リサイクルシステムが本格稼働して劇的に不法投棄等の車が処理されたこと。

【16】・車のリサイクル費用がかかるとは聞いていた。所有者が移転するたびに異動することは理解できていたが、新車を買う人は中古車として手放した場合、リサイクル経費を負担しないというのは落とし穴だったようで意識していなかった。・事故で廃車になった場合にリサイクル経費？が宙に浮いている事例があること、その経費が特預金という制度になっている事は初めて知った。

	<p>【17】・リサイクル料金があることは知っていたが、その具体的な用途や特預金の利用がよくわかった。実際に工場見学をして、自動車リサイクル業界がどのように機能し、努力しているのか、目で見て、会社の方の話を聞いて理解できた。</p>
<p>② 小冊子に関してのご意見、ご感想特にわかりにくい、難しいと感じた点がありましたら、具体的にお書きください。</p>	<p>【1】・犬がしゃべっているセリフを、どこか1ページにまとめてはどうか？・ノートのページを少なくして、印刷費を安くした上で、教習所等で配布し、簡単に説明をしてもらうことができたなら、内容の普及が図れるのではないかと？</p> <p>【2】・小冊子はコンパクトに自動車リサイクル法について、情報が盛り込まれているので、分かりやすい。 ・メモ部分も多いので使いやすい。・こういう冊子を配って広報すると、自動車リサイクル法に興味を持ってもらえるのでは。 ・車販売店に置いてもらったら良いと思う。</p> <p>【3】・今回のように小冊子の図とか解説など、目で見て全体像が理解できるようになっていて、「自動車のリサイクル」がより身近に理解できた。・当然ながら車を大切に扱うことを、この冊子を見ればわかるが、最後の頁にでも、具体的に最適な「車の取り扱い」的なことを図にさせていただくことはどうでしょう。 ・小学4年生で、「ごみ」問題が社会の教科に出てきます。ごみの排出・分別・3Rの順番や、家庭と直結しているクリーンセンターまでは、社会見学に行きます。その先の各種リサイクルの具体的な製品になるまでの「流れ」までは知り得ないのが現実です。ELVが視覚的教材として「自動車リサイクル促進」に、子どもから家族に伝える「ESD アクティブラーニング」を用いた教材にしたい。</p> <p>【4】・少し小さ目で、コンパクトな感じと、各ページの一口知識が、押しつけがましさが無く、しかも書き込み可能なノート型で、使う側の気持ちを熟慮されていることが感じられる。唯、「自動車の約99%がリサイクル」とありますが、本来は「リユース・リサイクル・熱回収で99%」ではないか。又「リサイクル部品として再利用」は、リユース部品ではないかと思う。</p> <p>【5】・エコ活動時にメモとして便利、主催者も受講者も使えるツール。・役所や業界団体の精緻な情報パンフと一緒に配布されて配布効果倍増。・自動車以外の行事の時にも配布して重宝がられると思う、実践活動豊富な元気ネットだから作成できたことが良く解った。</p> <p>【6】・見開き（前、後）の内容は要点をわかりやすくコンパクトに収められおり、この4ページだけで自動車リサイクルの概要を人に伝えられるので早速活用させていただく。・いたるところにちりばめられた情報はとても効果的で、特に右上上部のミニ情報は、側面的にこの問題を理解するのに役立っている。・ほぼどんなバッグにも入るサイズというのもありがたい。さりげなく出して人に伝えることができる強みがあり、いつもバッグに入れておきたい。ノート形式になっているので、人に伝えた時の記録も残せるので、大切な冊子になる。これまで蓄積されたノウハウが存分に詰め込まれた冊子だと感服し、真似をさせていただきたいと思う。</p> <p>【7】・なかなか可愛いノートで大きさも良く使いやすいと思う。表表紙の裏の2ページは大変わかりやすいと感じた。各ページの吹き出しも覚えやすい言葉で印象に残る。・裏表紙の裏の2ページは、工場見学時、講演を聞いた後などではわかると思うが、</p>

このノートだけを見た時には少し理解しにくいのではと思う。特に「平成28年度における再資源化預託金等の流れ」では、「引取時預託」や「特定資産残高」などシステムを知らないと分かりにくい用語ではないかと感じた。

・最後のページの「特預金」の説明では、「廃車ガラ」とか、専門用語的な言葉があるので、もう少し言葉の説明をつけるなど、リサイクル初心者にもわかるようにすればより分かりやすくなると思う。

【8】・ノートであるのがとても使いやすい。使い勝手がよいサイズだが、私の年齢では文字が小さすぎで見えにくい。特に表は倍のサイズがありがたい。各ページ1行ずつのコメントは「はっ」と思うことが多い。できるならクイズにして裏のページの下側等に答えと解説があればもっと嬉しい。

【9】・サイズがとてもよくて、ノートの形にしていただけだと勉強会の印象が豊かに強くなると思った。・上段のコメントがとてもよく、1行で書かれているので、すっきりしていますが知らない人にはわかりにくいところがあるかも。・「新冷媒」「行政代執行」はなじみがなくわからないかもしれない。

【10】・とても読みやすかった。言葉が優しく話しかけるようでいいですね。・リサイクルの流れのイメージ図が年度ではなくイラストなので親しみ安くわかり安い。・メモ帳のワンポイントメッセージが、質問したいこと興味を持つ内容であり気軽に読めて楽しい。2段書きでもいいから文字をもう少し大きくして欲しい。・特預金の使われ方の棒グラフの2011・2012に説明が欲しい。・JARCのパンフのQ9のイラスト化。Q10と簡単なグラフもあるといいかも。

【11】・リサイクル部品という言葉は、(リユース)(リビルト)の両方を含むということでしょうか？

・再資源化特預金の流れの「引取り時預託」「債券運用収入」の内容と意見・資金管理法人から自動車メーカーに払渡される「金額」の「利息金」がなぜ記入されているのか。

【12】・カラー刷りでイラストが使われており、親しみを感じた。・右ページ上に掲載されている1行のポイント吹き出しは、短文で効果的。意味や背景を更に知りたくなった。左右双方のページ上にポイント吹き出しを入れる方法もある。

・「行政代執行等で使われた累計金額 16,954 千円」とあるが、何に使われたか不明。その内訳や詳細が判らないため、フラストレーションが残った。・「平成28年度における再資源化預託金等の流れ」のフロー図は、初めて見た人には解りづらい。2・3行の解説文が添えられると、意図するポイントが伝わる。

・「特預金」という言葉を初めて知った。特預金に対する解説は行政言語で述べられている。もっとわかりやすい言葉で表現したほうが良い。・「特定再資源化預託金等の年度別出えん等実績」で、「出えん」という言葉を初めて知りました。「出えん」の解説があり、役立ちました。棒グラフのポイントを1, 2行の解説文で示すと理解に役立つと思う。

・裏表紙に掲載されている「日本ELVリサイクル機構会員事業者数一覧」は、消費者にとって最重要情報とは思えない。なぜ裏表紙にこの日本地図を配置されたのか、今一つ判りません。

【13】・ノートとの組み合わせはよいアイデアだと思う。しいて言えば、誰に読んでほしいのか、設定がはっきりしていると、

	<p>もっとわかりやすい説明文になったと思う。</p> <p>【14】・鬼沢事務局長がとても勉強されていて質疑の時に、即答できる知識だった。その勤勉な内容が、小冊子の隅々に記載してあり、子どもの環境学習帳としても使用可能だと思う。</p> <p>・子どもが理解しやすいような絵がいい。欲を言えば、輸出の台数やその使われ方なども図にして示すと、日本の製品価値（技）もすごいことだと思うだろうし、もっと乗れるのを感じることもできるかもしれない。リサイクルも大事ですが、できる限り買い替えより、修理して乗ることも大事。そんなコメントもほしい。・車の部品共有の絵と、その説明もあればいい。9,000点の確保はすごい！</p> <p>【15】・「そうだったのか！自動車リサイクル」と「使い終わっても99%が資源に」を合わせて読むと良く理解できる。</p> <p>・「そうだったのか！・・・」はノート型になっていて便利。また、右上の一言情報が良い。</p> <p>【16】・自動車リサイクルの流れについては初めての事ばかりで、新鮮で冊子としてはとても貴重な情報提供源だと感じた。情報パンフとして捨てられない為にメモなどがあり、工夫は判るが、メモ量が少し多すぎるかと感じた。むしろ、情報の横の空白に書き込みが出来るようにして貰った方が私的には嬉しい。</p> <p>【17】・リサイクルの流れなど、図表でわかりやすく説明されているので、とても理解しやすい。・リサイクル部品は、通常の修理などのときや、保険で直すときにも、とくに、社有車などの場合、そちらを選ぼうなど具体的に記載されているとよいと思う。</p>
<p>③ ご自身の団体等でこの小冊子をご利用可能な場はありますか？</p> <p>ある・ない (どちらかに○) 希望部数 (部)</p>	<p>ある (20部)</p> <p>ある 貴ご寄贈部数(社会教育・大人用で使用)</p> <p>ある (30部)</p> <p>ある (100部)(自分たちのミーティング 参加者の視野、拡大、運営するセミナーなどの行事に配布)</p> <p>・7月7日 第10回リファッション2018 シンポジウム 参加者100名・その他 施設見学会等に配布、見学会のメモにもなる</p> <p>ある (10部)</p> <p>・新年度にならないと具体的な講座がわからない。毎年、燃料電池車MIRAIの試乗事業を行う学校が3校ある。夏休み調べ学習のテーマ事業も担当しているので、「自動車について調べる」というテーマもいい。市民講座で「自動車リサイクル」を取り上げれば興味を持つ方の多いと思う。</p> <p>ある (20~100部) 私的な勉強会、市民カレッジ等</p> <p>ある (100部) ごみ減量推進員のスキルアップ研修会、施設見学会、ごみ分別出前講座、家電リサイクルと合わせて紹介したい。</p> <p>ある (10部)</p>

	<p>ある (100部) 2018年度の自治体主催事業として、小牧市役所(7月)、一宮市役所(11月)等から市民向け環境講座の依頼を受けている。消費生活に鑑みた講座等も担当していく予定。このような場で有効活用させていただければ幸いです</p> <p>ある (100部) 会員(92名)に配布することができる。</p> <p>ある (500部) 当会が行う環境出前授業や、市役所環境センターに提供できる。</p> <p>ある (15部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冊子だけだと自動車リサイクル法を理解するのは難しいかなと感じた。やはり現場とあって初めてストンと情報が落ちてきた。自動車部品リサイクル等の展示とともに冊子を活用するのなら利用可能だが、9/8開催のogawa organic fesでそのような場を作る事が出来るが、出展は可能か? <p>ある (とりあえず300部) 随時頂ければと思うが、逆にどれくらいまでなら、1団体にいただけるのか? 清掃活動などのボランティア活動参加者、不当放棄防止ネットワーク(両県、国交省等)があるので、配布したい。</p>
<p>④ 全体を通しての感想やご希望等</p>	<p>【2】・自動車リサイクル法に興味を持ってくれた人に、実際に工場見学をしてもらえる機会があると良い。実際に見ることが一番理解促進になると思う。・メーカーや車販売店に働きかけて、ユーザーの希望者に、自動車リサイクル工場見学ツアーを定期的に行ったら良いのではないか。</p> <p>【3】・興味深いことばかりでしたので、余りにも多く発言した点をお詫びする。以後気をつけます。</p> <p>【4】・豊島の知人から、「島がきれいになりましたから、又来て下さい」という手紙をいただいた。かつて豊島で当時の豊島弁護団長の中坊公平さんがシュレッダーダスト不法投棄事件の解決をめざして闘った悲しくも勇敢な島民の姿を涙と共に語られたことを印象深く思い出した。</p> <p>【5】・内容も良かったが 運営が素晴らしかった。多面的な活動の参加者が広い地域から参加されたのが、ちょっとした会話の中にも色々刺激されることがあった。お世話になりました。</p> <p>【6】・車を持っている数人の方に自動車リサイクルのについて尋ねたところ、ほとんど知らないということで、教えてほしいと頼まれた。車を持たない人が知らないのは仕方ないとして、リサイクル料金を払っている人さえ関心が薄いのは残念。うまく機能し成果を上げているから、せめてユーザーは料金を払った時点で、きちんと伝えることが必要と思う。自動車リサイクルに関する日本のレベルは高く、輸出云々の話の中で、「インフラ輸出してもそれをまわす人・技術の有無という点でなじまない国もある」は当然とはいえ、良く納得でき、日本が政府・自治体・業者いずれも体力があるという点に、さすが技術立国なのだと改めて認識した。</p> <p>【7】・「百聞は一見に如かず」をまさに感じた貴重な機会だった。心より感謝申し上げます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本にとり自動車産業は重要産業であり、その製品が最後まで有効に使用され、環境にも負荷をかけずに最終処理をされることは、現代を生きる我々の責任ではないかと思う。大量生産大量消費の時代は過去のものであるということを考える時期だと思

う。改めて暮らしの仕方を考える良い期間であった。・リサイクル工場の現場はほとんどが吹きさらしの外部で、厳しい仕事のご苦労を知ることができた。作業は危険なことが多く、機械化できないものも多いと分かった。このようなご苦労に支えられてリサイクルが成り立つということを知ることが出来た貴重な機会であった。

【8】・自動車をシュレッダーにかけるのを見て大きさに驚いた。・自動車リサイクルには資金がかかると思った。・こうでないと99%のリサイクルはじつげんしないだろうと感じた。・時間があっという間だった。・後ろにいる時に聞こえないと担当の方がフォローして説明して下さった。・マイクがあるととってもよかった。・平成16年ころ、自リ法の施行後に岐阜県の依頼で整備組合、車体組合、解体工場、シュレッダーダストの不法投棄現場などに聞き取り調査に行った。前の調査表を見直してみると、施行されてマニフェストが変更されることが多く困っているという苦情や、放置自動車の移動手続きの煩雑さに今後もっと放置自動車が増える危惧があった。今回の見学でこの当時いたるところで見られていた放置自動車がなくなったのはこの法律がうまく回っているからと確信した。その後放置自動車の話題は徐々に少なくなり、誰もが当たり前リサイクル料金を払って車を買う。話題にならないのでその仕組みや問題点について深く考えることもなかった。今回はとてもいい機会に参加で来てよかった。

【9】・リサイクル全体、金属リサイクル、お金の流れとして、非常に勉強になりました。ノートがすばらしい、もっと知りたいと思った。

【10】・とても勉強になった。金属リサイクル程度と思っていたが、エアバッグやフロン、ASR処理に料金が使われていえること、納得した。いろんな機会に紹介、説明したい。

【11】・河田さんの説明は、よりわかり安い二つの資料を使ったことで眠くもならずによかった。システムや内容を理解している河田さんの説明のポイントポイントで、一般の人がわかりづらいところを鬼沢さんが小冊子と視察報告を使い明らかにして、説明を深めたのがよかった。・所有者に興味を持ってもらうために、具体的にリサイクル料金を払う時、戻る時の例を説明したほうが良い⇒人に話すときに話題になるので。

【12】・自動車リサイクル法が施行されたことは知っていたが、内容を熟知していなかった。私自身、自動車のユーザー。今回の見学をおし、資源循環の仕組みや有り方について深く考え、多くの学びを得ることができた。学びの機会を得られましたことに深く感謝申し上げます。

- ・メタルリサイクル（株）さんのように適正に解体・リサイクル業務を行っている事業者の実態を知ることができ、日本のリサイクルシステムとその技術に信頼をよせることができた。
- ・日本国内の静脈産業は小規模事業者が多いと認識します。環境負荷低減に向けたリサイクル技術のさらなる推進、高い水準の品質の提供、優れた人材の確保、事業の効率化、資金力の維持増強に向け、自動車製造事業者や環境関連機関等との密な連携が今後も必要と思った。
- ・作業場など現地見学の際は、拡声器が必要かも。

【疑問点】見学をおし、新たな疑問も芽生えた。

1. 不法投棄・不適正保管車両について 2004 年と 2017 年の状況を比較すると、大幅に減少していることを喜ばしく思う。なお、現存する課題として不法投棄の実態はどのようになっているのか気になった？
2. 鉄や銅、アルミニウムなど再資源化した素材の価格変動に、国や事業者はどのように対応されているのか？
3. 自動車の EV 化に伴い、自動車の部品点数やパーツが減り、素材や組立方法が変わってくると思われる。それらに対する対応の準備はされていると思うが、課題もあるのか。
4. リサイクル技術が向上している中、処理困難物である電気自動車やハイブリッド車に使われるリチウムイオン電池の適正処理方法とリユース市場が気になる。
5. オランダの自動車リサイクルの基本である責任の分担、“Shared Responsibility”、消費者、政府、自動車メーカー、リサイクル産業が責任を分担するという考えについて、もう少し詳しく知りたいと思った（マルチステークホルダー会議 2014 年度開催報告より）。

【メタルリサイクル（株）さんについて】

- ・埼玉県および柏市で優良産廃処理事業者に認定されているとのこと。使用済自動車の引き取り・フロン回収・解体・破碎事業をはじめ、中古自動車・自動車部品の仕入れ・販売、鉄・非鉄金属スクラップ・加工・販売、廃棄物の中間処理・収集運搬などもされているとのこと。また、産業廃棄物を減らすべく、リユース商品をはじめリサイクル有価資源を増やし、資源化率を高める取り組みをされている。環境負荷低減に向けた適正な事業運営を、自動車ユーザーの一人として応援していきたいと思う。
- ・作業機器メンテナンスによる機器の長寿命化、作業工程の効率化による消耗品部材の長寿命化、生産効率を極限まで高めるための TPM 活動を取り入れるなど、生産性の向上は環境負荷低減につながります。重点項目を的確に捉え、リサイクル事業を推進されることもポイントになると考える。
- ・企業活動の基礎・基盤を形づくる重要な職場環境改善である 5 S * (整理、整頓、清掃、清潔、躰) を、着実に推進されていると感じた。 * 環境負荷低減に向け「整理」で不要なモノを選別、「整頓」でムダを排除、「清掃」で異常・故障の未然防止、「清潔」で整理・整頓・清掃を維持、「しつけ」でルールの徹底を図ること。
- ・現場見学時に不快な臭いを感じなかった。
- ・混素材の廃材を破碎分別するシュレッダー加工において、機械選別に漏れた物を人の手によって最終選別されているとのこと。担当者の経験や能力に資するところが大きいと認識するが、リスクが伴う作業と思われる。安全に配慮し、作業を進められるよう願っている。今後は AI やロボットがこれらの作業を担う時代が来るかもしれない。
- ・コストダウンの要請や自動車の EV 化、燃料電池車の登場などで材料変革が予測される。リサイクル技術の向上はもとより、御

社をはじめ解体業者・リサイクル業者の皆様のご活躍を応援します。

【13】・こうした情報を、車売るディーラーさんが把握し、自動車購入時に、金額とともに、その意義を購入者に説明することが大切だと思った。そういう意味で、ディーラーさんのスキルにあわせた小冊子を作られるといいのではないかと思う。

【14】・参加者の知識・意識の高さ、そして、工場見学の際にも身乗り出して説明を聞く姿にも驚きだった。このような参加者を日本各地で啓発されていかれることで、益々自動車リサイクル法の周知になると思う。

・資源の無い日本人にとって、自動車はもちろん家電製品など、ものづくり世界の日本である技（伝承・後継者育成を根底に）を大切にしていくなために、価格競争の安価な製品ではなく、製品価値を考えて長年使用することを第一に考え、改めて購入する際の考え方が大切だと感じた。

【15】・資源の少ない日本ではリユース・リサイクルは重要。WE 2 1 ジャパンと連携しているファイバーリサイクル企業も、衣類をリユース・リサイクルするために日夜努力されているが、今回参加して、車のリサイクルに携わる方々の話を伺い志は同じだなと感じた。

・中高生の工場見学は実施して、若い世代にリサイクルの現場を見てもらい、資源の有効活用や物を大事に使うこと等考える機会になればいいなと思う。

【16】・新車に近い車がたくさん、廃車されている現実には驚いた。リサイクル部品市場の活性化する事が循環型社会（物を大事に長い間使う）につながると思うので、自動車会社部品の共通化などが必要なのだろうと感じた。使い捨てではなく「物を大事に使う」という事に対する合理性などについて日本は遅れて来ていると考える。リサイクルと言いながら使い捨て社会を助長しているようで少し違和感があった。確かな未来という視点からの項目があっても良かったかなと感じた。

【17】・講義だけでなく、実際に施設見学をすることで、リサイクルの流れや業界の現況と今後の課題などが、より深く理解できた。

自動車リサイクルアンケート



アンケートに参加して
プレゼントを
もらおう!

当てはまる所にシールを貼ってください。 男性 41人 } 82人
女性 41人 }

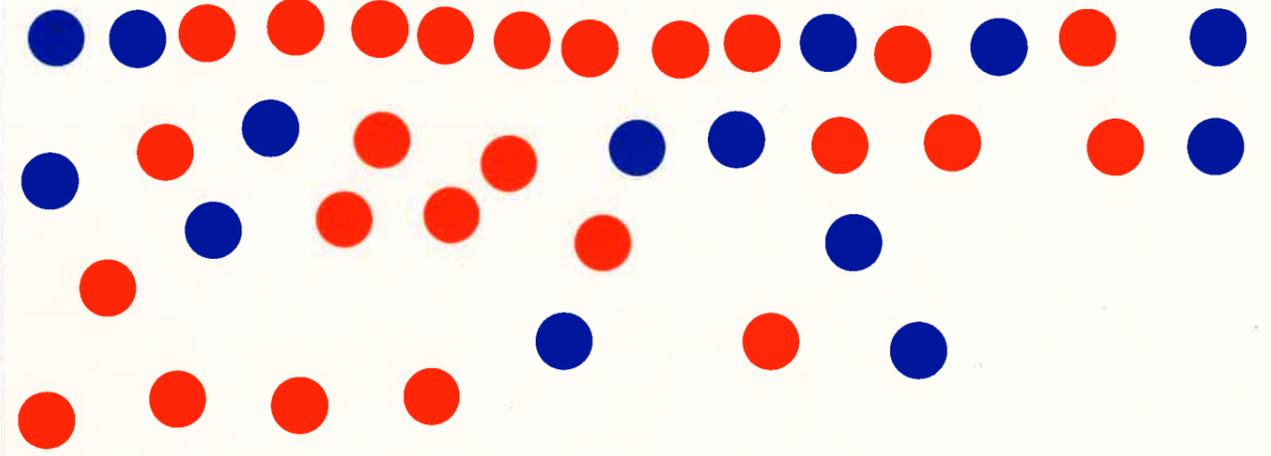
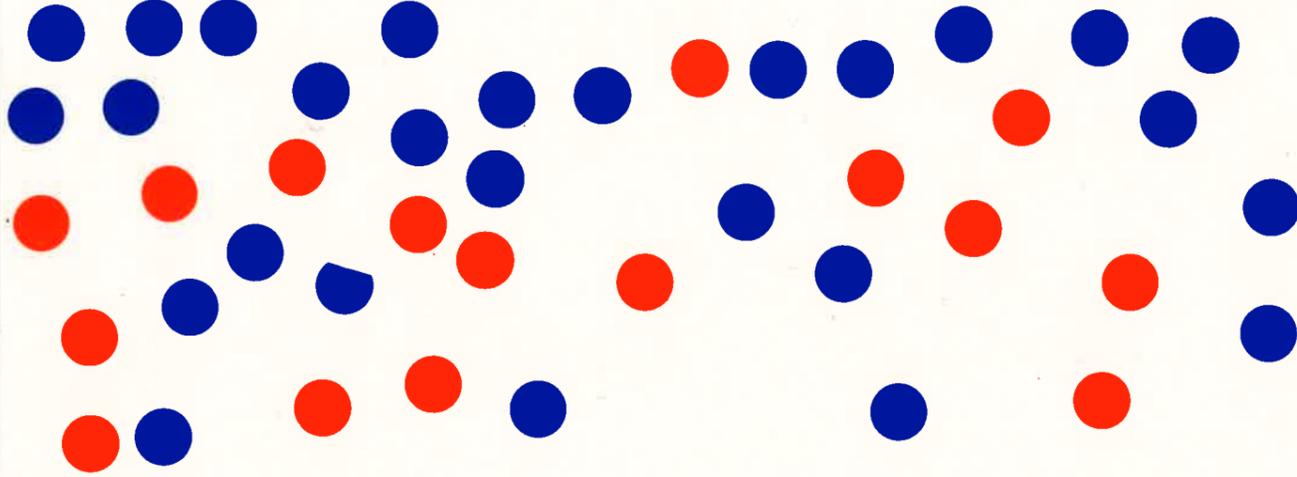
7% 18~20代 1 } 6人 5 }	37% 30~40代 16 } 30人 14 }	44% 50~60代 18 } 36人 18 }	12% 70代以上 6 } 10人 4 }
自家用車 あり 24 } 56人 32 } 68%		自家用車 なし 13 } 21人 8 } 26%	
		<p style="text-align: right;">10 } 18人 8 }</p> <p>未回答 5人 6%</p>	<p>シェアリングで使用</p> <p style="text-align: right;">3 } 3人 0 }</p> <p>その他</p>

Q.1

自動車は、購入時にリサイクル料金を事前に払う(預託する)ことをご存知ですか？

①知っている $\frac{27}{16}$ } 43人 52%

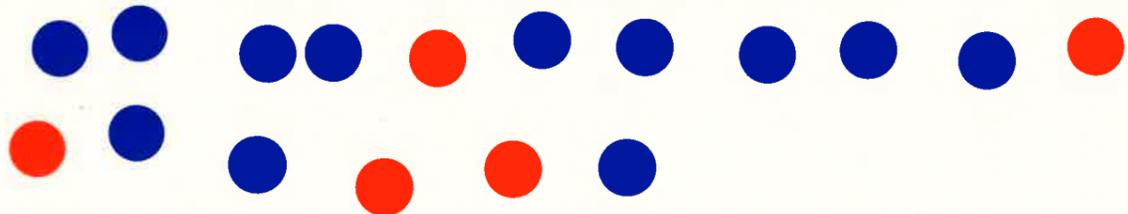
②知らない $\frac{14}{25}$ } 39人 48%



Q.2 リサイクル料金は、次の3品目のリサイクルに使われていることを
ご存知ですか？ フロン・エアバッグ・シュレッダーダスト(ASR)

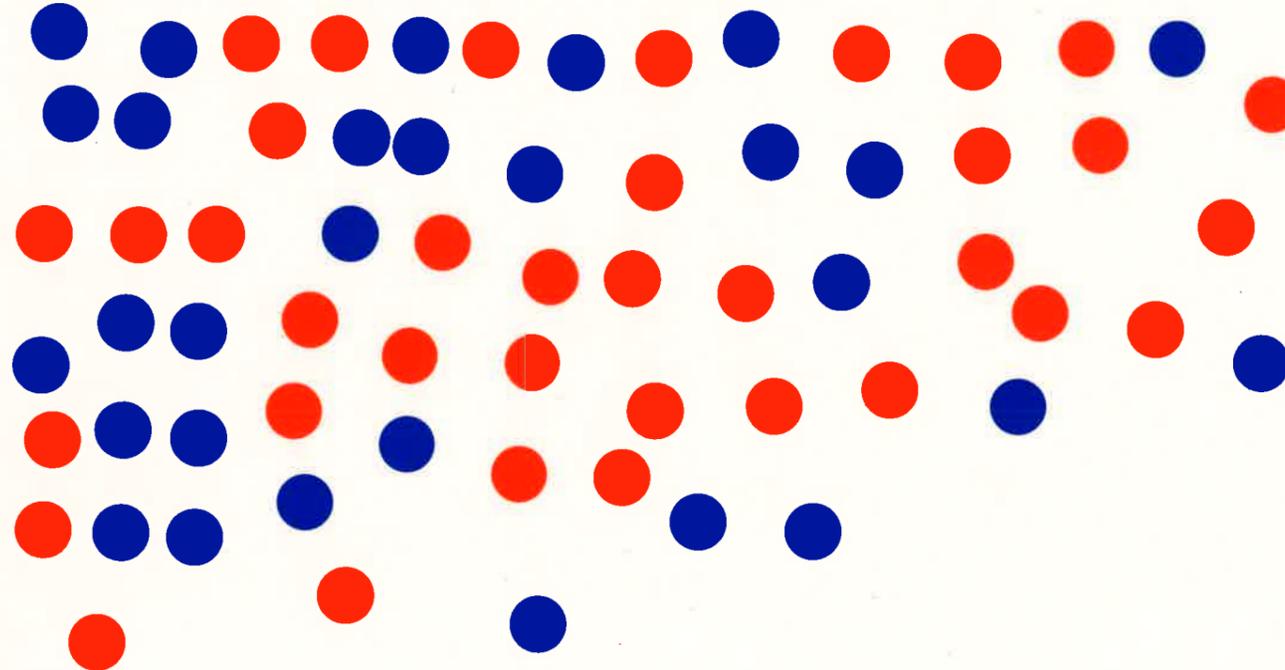
①知っている

12
5 } 17 24%



②知らない

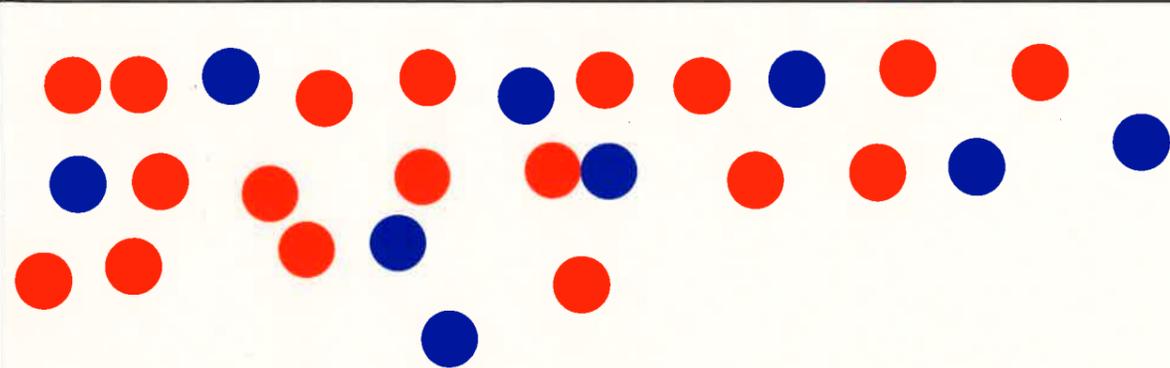
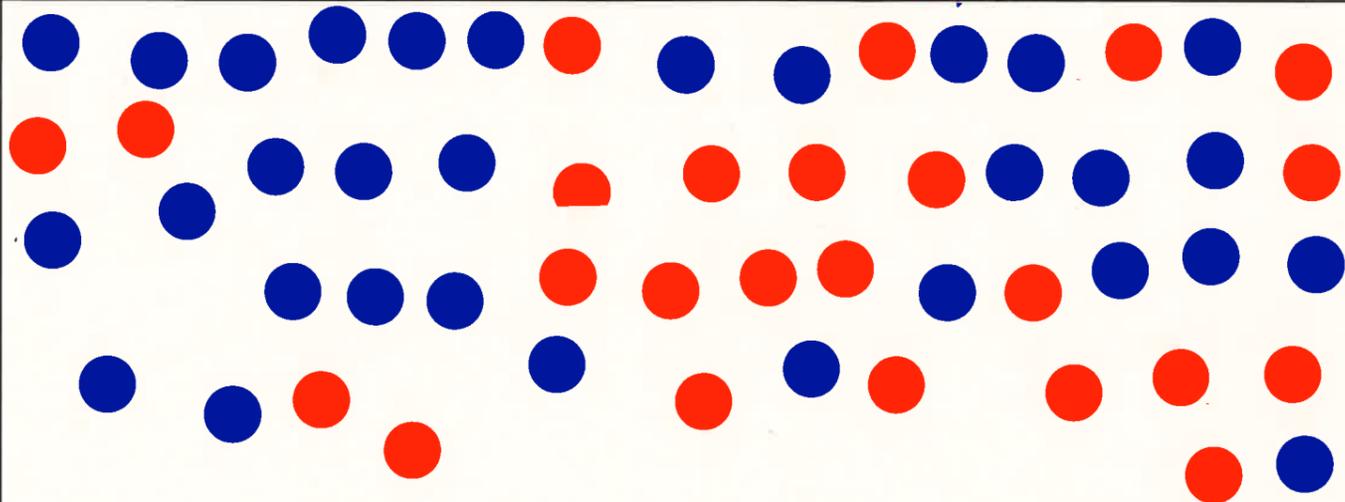
29
36 } 65 79%



Q.3 使わなくなった(廃車)車から使える部品を取り、リユース部品として販売されていることをご存知ですか？

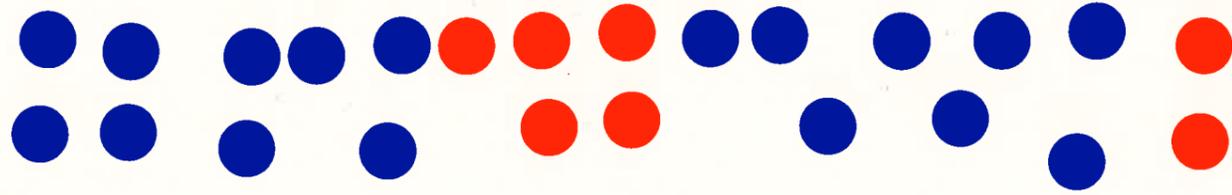
①知っている $\frac{32}{24}$ } 56人 68%

②知らない $\frac{9}{8}$ } 27人 32%

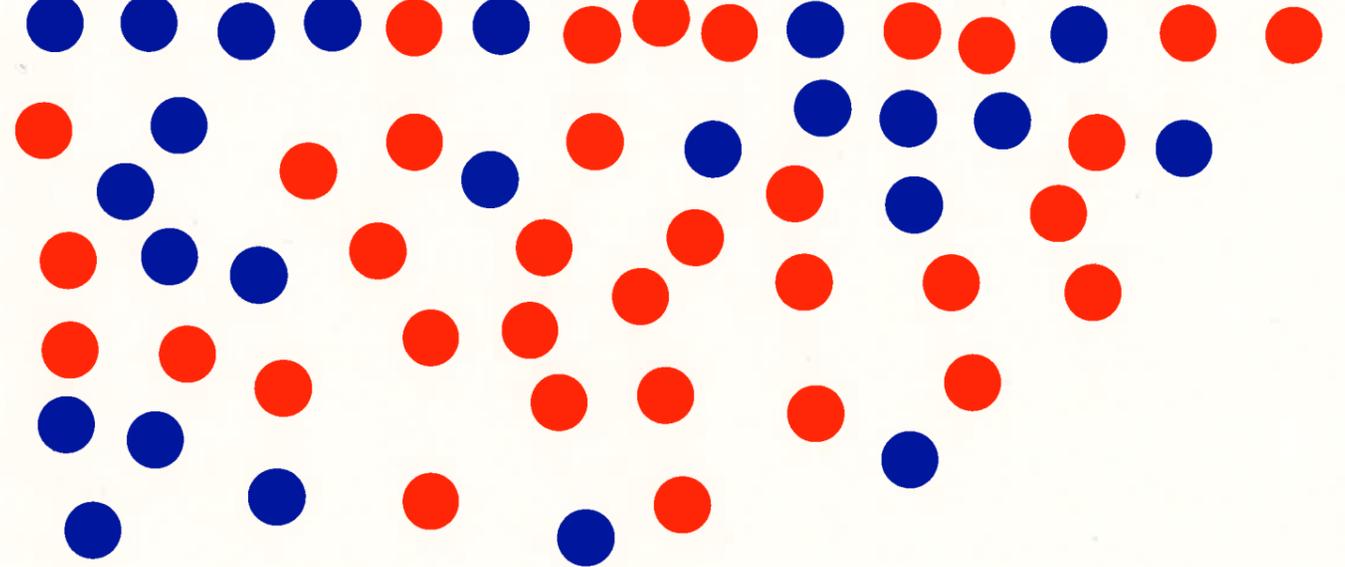


Q.4 車の修理の際、リユース・リビルト部品を使うようにお願いしますか？

①する ¹⁷/₇ } 24人 29%



②しない ²⁴/₃₄ } 58 71%



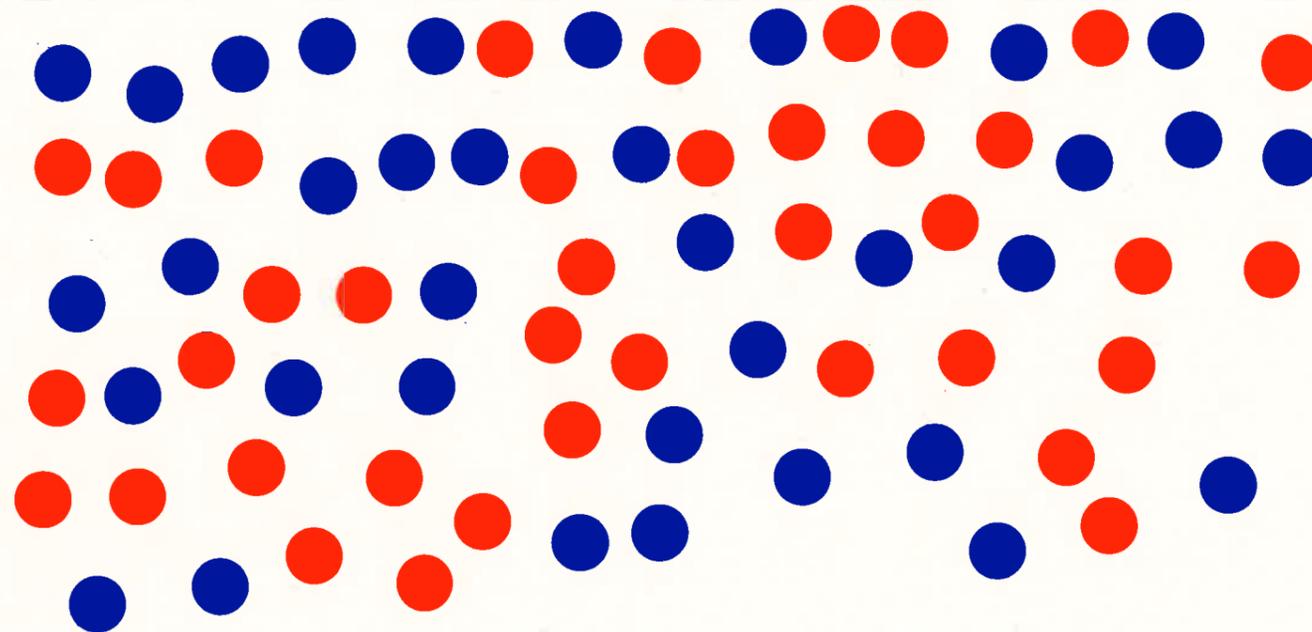
Q.5

東日本大震災や離島対策費用に、リサイクル料金の
特定再資源化預託金(特預金)が使われていることをご存知ですか？

①知っている 6 } 9人



②知らない 35 } 73人 89%



自動車リサイクルアンケート



アンケートに参加して
プレゼントを
もらおう！

当てはまる所にシールを貼ってください。 男性41人 女性41人 合計82人			
18～20代(6人)7%	30～40代(30人)37%	50～60代(36人)44%	70代以上(10人)12%
男性 1 女性 5	男性 16 女性 14	男性 18 女性 18	男性 6 女性 4

自家用車 あり(56人)68% 男性 24 女性 32 * 未回答5人 6%	自家用車 なし(21人)26% 男性 10 女性 8 シェアリングで使用 男性 3 女性 0 その他 0
--	---

Q.1 自動車は、購入時にリサイクル料金を事前に払う(預託する)ことをご存知ですか？

①知っている(43人)52%

男性 27
女性 16



②知らない(39人)48%

男性 14
女性 25

Q.2 リサイクル料金は、次の3品目のリサイクルに使われていることをご存知ですか？ フロン・エアバッグ・シュレッダーダスト(ASR)

①知っている(17人)21%

男性 12
女性 5



②知らない(65人)79%

男性 29
女性 36



Q.3 使わなくなった(廃車)車から使える部品を取り、リユース部品として販売されていることをご存知ですか？

①知っている(55人)67%

男性 31
女性 24



②知らない(27人)33%

男性 9
女性 18

Q.4 車の修理の際、リユース・リビルト部品を使うようにお願いしますか？

①する(24人)29%

男性 17
女性 7



②しない(58人)71%

男性 24
女性 34

Q.5 東日本大震災や離島対策費用に、リサイクル料金の特定再資源化預託金(特預金)が使われていることをご存知ですか？

①知っている(9人)11%

男性 6
女性 3



②知らない(73人)89%

男性 35
女性 38